

# 科目一覽

【発行日：2021/4/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7000】</b>	経営学原理 [近能 善範]	年間授業/Yearly	1
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7005】</b>	人的資源管理特論 [藤本 真]	秋学期授業/Fall	2
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7006】</b>	経営戦略特論 [孫 徳峰]	年間授業/Yearly	3
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7009】</b>	マーケティング特論 [竹内 淑恵]	春学期授業/Spring	5
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7020】</b>	ミクロ経済論 [宮澤 信二郎]	年間授業/Yearly	7
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7022】</b>	組織経済学 [奥西 好夫]	春学期授業/Spring	8
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7023】</b>	金融論 [片桐 満]	年間授業/Yearly	10
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7029】</b>	産業組織論 [大木 良子]	年間授業/Yearly	11
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7037】</b>	経営学演習 [竹内 淑恵]	年間授業/Yearly	12
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7038】</b>	経営学演習 [横山 斉理]	年間授業/Yearly	14
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7039】</b>	経営学演習 [長谷川 翔平]	年間授業/Yearly	15
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7040】</b>	経営学演習 [田路 則子]	年間授業/Yearly	16
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7041】</b>	経営学演習 [木村 純子]	年間授業/Yearly	17
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7042】</b>	経営学演習 [安藤 直紀]	年間授業/Yearly	18
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7043】</b>	経営学演習 [長岡 健]	年間授業/Yearly	20
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7044】</b>	経営学演習 [永山 晋]	年間授業/Yearly	21
修士課程 (昼間) 授業科目	<b>【X7045】</b>	経営学演習 [戎谷 梓]	年間授業/Yearly	22
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7101】</b>	企業家養成演習 [金 容度]	春学期授業/Spring	24
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7102】</b>	企業家養成演習 [金 容度]	秋学期授業/Fall	25
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7103】</b>	企業家養成演習 [近能 善範]	春学期授業/Spring	26
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7104】</b>	企業家養成演習 [近能 善範]	秋学期授業/Fall	27
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7105】</b>	企業家養成演習 [福島 英史]	春学期授業/Spring	28
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7106】</b>	企業家養成演習 [福島 英史]	秋学期授業/Fall	29
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7107】</b>	企業家養成演習 [二階堂 行宣]	春学期授業/Spring	30
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7108】</b>	企業家養成演習 [二階堂 行宣]	秋学期授業/Fall	31
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7111】</b>	企業家養成演習 [稲垣 京輔]	春学期授業/Spring	32
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7112】</b>	企業家養成演習 [稲垣 京輔]	秋学期授業/Fall	33
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7113】</b>	ワークショップ (企業家養成) [稲垣 京輔]	秋学期授業/Fall	34
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7115】</b>	企業家史 [二階堂 行宣]	春学期授業/Spring	36
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7116】</b>	経営戦略論 [吉田 健二]	春学期授業/Spring	37
修士課程 (夜間) 授業科目_企業家養成コース	<b>【X7118】</b>	イノベーション・マネジメント概論 [近能 善範]	秋学期授業/Fall	38
修士課程 (夜間) 授業科目_国際経営コース	<b>【X7123】</b>	国際経営演習 [横内 正雄]	春学期授業/Spring	40
修士課程 (夜間) 授業科目_国際経営コース	<b>【X7124】</b>	国際経営演習 [横内 正雄]	秋学期授業/Fall	41
修士課程 (夜間) 授業科目_国際経営コース	<b>【X7125】</b>	国際経営演習 [高橋 理香]	春学期授業/Spring	42
修士課程 (夜間) 授業科目_国際経営コース	<b>【X7126】</b>	国際経営演習 [高橋 理香]	秋学期授業/Fall	43
修士課程 (夜間) 授業科目_国際経営コース	<b>【X7135】</b>	ワークショップ (国際経営) [安藤 直紀、後藤 哲郎]	秋学期授業/Fall	44
修士課程 (夜間) 授業科目_国際経営コース	<b>【X7136】</b>	国際経営論 [安藤 直紀]	春学期授業/Spring	45
修士課程 (夜間) 授業科目_国際経営コース	<b>【X7139】</b>	地域経済研究 (アジア) [苑 志佳]	春学期授業/Spring	47
修士課程 (夜間) 授業科目_国際経営コース	<b>【X7140】</b>	国際人事 [戎谷 梓]	春学期授業/Spring	48
修士課程 (夜間) 授業科目_国際経営コース	<b>【X7143】</b>	国際会計論 [松井 泰則]	秋学期授業/Fall	50
修士課程 (夜間) 授業科目_国際経営コース	<b>【X7144】</b>	国際金融論 [横内 正雄]	秋学期授業/Fall	51
修士課程 (夜間) 授業科目_人材・組織マネジメントコース	<b>【X7147】</b>	人材・組織マネジメント演習 [西川 真規子]	春学期授業/Spring	52
修士課程 (夜間) 授業科目_人材・組織マネジメントコース	<b>【X7148】</b>	人材・組織マネジメント演習 [西川 真規子]	秋学期授業/Fall	53
修士課程 (夜間) 授業科目_人材・組織マネジメントコース	<b>【X7149】</b>	人材・組織マネジメント演習 [奥西 好夫]	春学期授業/Spring	54
修士課程 (夜間) 授業科目_人材・組織マネジメントコース	<b>【X7150】</b>	人材・組織マネジメント演習 [奥西 好夫]	秋学期授業/Fall	55
修士課程 (夜間) 授業科目_人材・組織マネジメントコース	<b>【X7151】</b>	人材・組織マネジメント演習 [長岡 健]	春学期授業/Spring	56

修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7152】人材・組織マネジメント演習 [長岡 健] 秋学期授業/Fall .....	57
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7153】人材・組織マネジメント演習 [小川 憲彦] 春学期授業/Spring .....	58
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7154】人材・組織マネジメント演習 [小川 憲彦] 秋学期授業/Fall .....	59
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7155】人材・組織マネジメント演習 [岸 真理子] 春学期授業/Spring .....	60
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7156】人材・組織マネジメント演習 [岸 真理子] 秋学期授業/Fall .....	61
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7157】人材・組織マネジメント演習 [佐野 嘉秀] 春学期授業/Spring .....	62
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7158】人材・組織マネジメント演習 [佐野 嘉秀] 秋学期授業/Fall .....	63
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7159】人材・組織マネジメント演習 [永山 晋] 春学期授業/Spring .....	64
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7160】人材・組織マネジメント演習 [永山 晋] 秋学期授業/Fall .....	65
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7161】ワークショップ（人材・組織マネジメント）[長岡 健] 春学期授業/Spring .....	66
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7162】人的資源管理論 [佐野 嘉秀] 春学期授業/Spring .....	68
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7164】キャリアマネジメント論 [小川 憲彦] 秋学期授業/Fall .....	69
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7166】労働市場論 [藤本 真] 春学期授業/Spring ..	70
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7167】労使コミュニケーション論 [呉 学殊] 秋学期授業/Fall .....	72
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7169】組織行動論 [西川 真規子] 秋学期授業/Fall ..	74
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7170】経営情報論 [岸 真理子] 秋学期授業/Fall ...	75
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7173】マーケティング演習 [竹内 淑恵] 春学期授業/Spring ..	76
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7174】マーケティング演習 [竹内 淑恵] 秋学期授業/Fall ...	77
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7175】マーケティング演習 [田路 則子] 春学期授業/Spring ..	78
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7176】マーケティング演習 [田路 則子] 秋学期授業/Fall ...	79
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7177】マーケティング演習 [木村 純子] 春学期授業/Spring ..	80
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7178】マーケティング演習 [木村 純子] 秋学期授業/Fall ...	81
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7179】マーケティング演習 [横山 斉理] 春学期授業/Spring ..	82
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7180】マーケティング演習 [横山 斉理] 秋学期授業/Fall ...	83
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7181】マーケティング演習 [長谷川 翔平] 春学期授業/Spring ..	84
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7182】マーケティング演習 [長谷川 翔平] 秋学期授業/Fall ..	85
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7183】マーケティング演習 [猪狩 良介] 春学期授業/Spring ..	86
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7184】マーケティング演習 [猪狩 良介] 秋学期授業/Fall ...	87
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7187】ワークショップ（マーケティング）[朝岡 崇史] 秋学期授業/Fall .....	88
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7189】マーケティング論 [竹内 淑恵] 春学期授業/Spring ..	90
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7190】消費者行動論 [新倉 貴士] 春学期授業/Spring .....	92
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7191】マーケティング・リサーチ論 [本條 晴一郎] 春学期授業/Spring .....	93
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース&マーケティングコース【X7192】製品開発論 [田路 則子] 秋学期授業/Fall .....	95
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7196】流通システム論 [横山 斉理] 秋学期授業/Fall .....	96
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7202】アカウンティング・ファイナンス演習 [川島 健司] 春学期授業/Spring .....	98
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7203】アカウンティング・ファイナンス演習 [川島 健司] 秋学期授業/Fall .....	99
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7215】管理会計論 [福田 淳児] 春学期授業/Spring .....	100
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7216】財務会計論 [倉田 幸路] 春学期授業/Spring .....	101

修士課程(夜間)授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7219】経営分析 [福多 裕志] 春学期授業/Spring	103
修士課程(夜間)授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7221】基礎ファイナンス [山崎 輝] 春学期授業/Spring	104
修士課程(夜間)授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7222】実証ファイナンス入門 [金 瑠晋] 秋学期授業/Fall	105
修士課程(夜間)授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7225】コーポレート・ファイナンス [岸本直樹] 秋学期授業/Fall	106
修士課程(夜間)授業科目_コース共通【X7230】経営学基礎 [福島 英史] 春学期授業/Spring	107
修士課程(夜間)授業科目_コース共通【X7231】会計学基礎 [筒井 知彦] 春学期授業/Spring	108
修士課程(夜間)授業科目_コース共通【X7237】情報学特論 [児玉 靖司] 秋学期後半/Fall(2nd half)	109
修士課程(夜間)授業科目_コース共通【X7241】統計データ解析 [猪狩 良介] 秋学期授業/Fall	110
修士課程(夜間)授業科目_コース共通【X7246】外国語経営学特殊講義1 [ジョナサン・エイブル] 春学期授業/Spring	112
修士課程(夜間)授業科目_コース共通【X7247】外国語経営学特殊講義2 [ジョナサン・エイブル] 秋学期授業/Fall	113
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7401】博士演習ⅠA [経営学専攻 専任教員] 春学期授業/Spring	114
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7402】博士演習ⅠB [経営学専攻 専任教員] 秋学期授業/Fall	115
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7421】博士演習ⅡA [西川 英彦] 春学期授業/Spring	116
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7422】博士演習ⅡB [西川 英彦] 秋学期授業/Fall	117
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7423】博士演習ⅡA [安藤 直紀] 春学期授業/Spring	118
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7424】博士演習ⅡB [安藤 直紀] 秋学期授業/Fall	119
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7430】博士演習ⅢA [西川 英彦] 春学期授業/Spring	120
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7431】博士演習ⅢB [西川 英彦] 秋学期授業/Fall	121
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7432】博士演習ⅢA [田路 則子] 春学期授業/Spring	122
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7433】博士演習ⅢB [田路 則子] 秋学期授業/Fall	123
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7434】博士演習ⅢA [横内 正雄] 春学期授業/Spring	124
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7435】博士演習ⅢB [横内 正雄] 秋学期授業/Fall	125
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7436】博士演習ⅢA [金 容度] 春学期授業/Spring	126
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7437】博士演習ⅢB [金 容度] 秋学期授業/Fall	127
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7438】博士演習ⅢA [新倉 貴士] 春学期授業/Spring	128
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7439】博士演習ⅢB [新倉 貴士] 秋学期授業/Fall	129
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7440】博士演習ⅢA [長岡 健] 春学期授業/Spring	130
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7441】博士演習ⅢB [長岡 健] 秋学期授業/Fall	131
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7444】博士演習ⅢA [金 瑠晋] 春学期授業/Spring	132
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7445】博士演習ⅢB [金 瑠晋] 秋学期授業/Fall	133
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7446】博士演習ⅢA [横山 斉理] 春学期授業/Spring	134
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7447】博士演習ⅢB [横山 斉理] 秋学期授業/Fall	135
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7450】博士コースワークショップⅠA [経営学専攻 専任教員] 春学期授業/Spring	136
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7451】博士コースワークショップⅠB [経営学専攻 専任教員] 秋学期授業/Fall	137
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7452】博士コースワークショップⅡA [経営学専攻 専任教員] 春学期授業/Spring	138
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7453】博士コースワークショップⅡB [経営学専攻 専任教員] 秋学期授業/Fall	139
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7454】博士コースワークショップⅢA [経営学専攻 専任教員] 春学期授業/Spring	140
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7455】博士コースワークショップⅢB [経営学専攻 専任教員] 秋学期授業/Fall	141



MAN500F1 - 0001

## 経営学原理

## 近能 善範

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業に関わるさまざまな問題を考えていく上で不可欠な、組織論・戦略論の基本的な考え方や概念などを学んでいきます。

## 【到達目標】

経営学（組織論・戦略論）の基礎的事項の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

この授業では、テキスト輪読とディスカッション、課題レポート提出を通じて学んでいきます。提出された課題レポートは、授業内で発表していただき、その場で教員からのコメントを返します。

なお本授業開講形式について、少なくとも春学期は、Zoom等を用いたリアルタイム講義にて実施する予定です。その後は、社会情勢等を踏まえて開講形式を判断します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	春学期授業ガイダンス
第2回	イントロダクション	経営学では何を学ぶのか、経営学を学ぶ意義、経営学の区分、企業とは何か
第3回	モチベーション (1)	モチベーションの「欲求説」
第4回	モチベーション (2)	モチベーションの「過程説」
第5回	グループ・ダイナミクス (1)	グループとは何か、その特性
第6回	グループ・ダイナミクス (2)	コミュニケーションとコンフリクト
第7回	人的ネットワーク (1)	社会的ネットワークの理論
第8回	人的ネットワーク (2)	「スモールワールド」のネットワーク
第9回	リーダーシップ (1)	伝統的なリーダーシップ論
第10回	リーダーシップ (2)	リーダーシップ論の新しい潮流
第11回	組織デザイン (1)	分業と統合、組織デザインの基本
第12回	組織デザイン (2)	主要な組織形態、その特徴
第13回	受講生の発表	研究計画の発表 (1)
第14回	学習成果の確認	まとめと復習
第15回	ガイダンス	秋学期授業ガイダンス
第16回	組織学習と知識創造 (1)	組織学習とは何か、個人学習のエラー、組織学習のエラー
第17回	組織学習と知識創造 (2)	知識創造のマネジメント
第18回	組織文化 (1)	組織文化とは何か、なぜ重要か、組織文化の強化
第19回	組織文化 (2)	組織文化の変革
第20回	戦略論概論	戦略論とは何か、戦略論の区分、戦略論の二つの視点、SWOT分析
第21回	競争戦略 (1)	ポジショニング・アプローチの戦略論① (5つの競争要因分析)
第22回	競争戦略 (2)	ポジショニング・アプローチの戦略論② (三つの基本戦略、市場地位別の戦略)

第23回 競争戦略 (3)

資源・能力アプローチの戦略論 (RBV : Resourced-Based View of the Firm)

第24回 競争戦略 (4)

ダイナミック・アプローチの戦略論

第25回 全社戦略 (1)

全社戦略① (事業ポートフォリオ・マネジメント)

第26回 全社戦略 (2)

全社戦略② (成長戦略、ドメイン戦略)

第27回 受講生の発表

研究計画の発表 (2)

第28回 学習成果の確認

まとめと復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、指定されたリーディング資料を必ず事前に読んでおくことが求められます。また、各回で発表の指名を受けた参加者は、内容を要約し解説を加えたレジュメを必ず事前に準備しておくことが求められます。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

・ステューブス・P. ロビンス (高木晴夫 訳) 『組織行動のマネジメント』(ダイヤモンド社) の一部の章。

・リチャード・L. ダフト (高木晴夫 訳) 『組織の経営学』(ダイヤモンド社) の一部の章。

・網倉久永・新宅純二郎 『経営戦略入門』(日本経済新聞出版社) の一部の章。

## 【参考書】

榊原清則 『経営学入門 (上)』日経文庫 (2002年)。

他は、講義の中で適宜指定します。

## 【成績評価の方法と基準】

レジュメの正確さと完成度 (25%)、出席+ディスカッションへの参加状況 (25%)、課題提出+学習への意欲と姿勢 (25%)、期末レポート成績 (25%) を総合して評価します。

なお、期末レポートを期日までに提出しなかった場合、成績を「E」とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

タイムコントロールに注意します。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料の配布を、原則として法政大学学習支援システムを通じて行う予定です。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

## 【その他の重要事項】

上記授業計画は、変更される場合があります。

詳細な授業計画については、初回の授業で解説します。履修希望者は、必ず出席するようにしてください。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論

<研究テーマ>

イノベーションと企業間関係

<主要業績 (テキスト) >

『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』(高井文子との共著), 新世社, 2010年。

<主要研究業績>

1. 「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」, 『日本経営学会誌』, 41号, 2018年10月。

2. 「顧客との取引関係とサプライヤーの成果：日本自動車部品産業の事例」, 『一橋ビジネスレビュー』, 65巻1号, 2017年6月。

3. 「日本自動車産業における関係的技能の高度化と先端技術開発の深化」, 『一橋ビジネスレビュー』, 54巻4号, 2007年3月。

4. 「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」, 『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002年3月。

## 【Outline and objectives】

In this class, students learn basic knowledge, concepts and ideas on business management (organizational theory and strategic theory) through reading of introductory textbooks, presentations and discussions, etc.

The goal is to understand the basics on business administration (organizational theory and strategic theory).

## 人的資源管理特論

藤本 真

実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業が実践する人的資源管理の基本的な考え方を学び、その特殊性（海外の企業及び制度との国際比較）について議論していきます。

取り上げるテーマは、人材の募集・採用、人材の配置・異動、評価・賃金制度、能力開発、労働時間管理、労使関係管理、人材の多様化管理（非正規化・国際化）、退職・解雇などです。これらの領域について現状と歴史、主要な議論を把握するとともに、参加者は、各領域に対応するケースや論文を取りまとめ、その構造や課題について報告・議論します。

こうした学習活動を通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人的資源管理の現状や課題について考える力を身につけることを目標としています。

### 【到達目標】

- ①人的資源管理論の対象領域の広がりや基本的な考え方を知る。
- ②人的資源管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。
- ③そのうえで、日本企業における人的資源管理の特殊性について理解・評価する。
- ④身近な人的資源管理の事例について考察する視点を得る。
- ⑤人的資源管理に関連する論文について批判的に検討する視点を得る。
- ⑥修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

1. 本授業は、オンライン授業（リアルタイム配信型）として、実施します。
2. 授業は、①人的資源管理の各領域に関する基本的な考え方や、議論の動向についての講義と、②参加者による課題についての報告・ディスカッション、とを組み合わせる予定です。毎回、講義形式の部分に加えて、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・議論の準備が課題となります。
3. およそのスケジュールは授業計画のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明
第2回	オリエンテーション	参加者の問題関心の共有と、人的資源管理の基本枠組みについての説明
第3回	採用のマネジメント	採用の目的、採用管理の基本、新卒採用・中途採用の意義、採用と定着
第4回	配置と異動	配置・異動の目的、初任配置、企業を超えた配転
第5回	昇進と昇格	昇進管理の目的、昇進における「選抜」「育成」「動機づけ」の関係、社員の格付け、昇格と昇進

第6回	多様な雇用・就業形態の活用	正社員以外の雇用・就業形態で働く人々の配置と処遇、「同一労働・同一賃金」に向けた取り組み
第7回	働く時間のマネジメント	労働時間管理の基本的枠組み、長時間労働・「サービス残業」の背景、ワーク・ライフ・バランス
第8回	仕事ぶりの評価	人事評価の目的・方法、様々な評価要素（コンピテンシーなど）、人事評価に伴う課題
第9回	賃金管理（1）－賃金決定と福利厚生	賃金の基本的な枠組み、賃金もつ機能、賃金の総額管理と個別賃金管理、福利厚生
第10回	賃金管理（2）－様々な給与形態－	「年功主義的」賃金の成立過程と課題、近年における評価・賃金制度の模索と課題
第11回	能力開発とキャリア形成のマネジメント（1）	仕事上の能力開発の目的、能力開発の方法、能力開発とキャリア形成・管理
第12回	能力開発とキャリア形成のマネジメント（2）	配置・異動とキャリア形成、「新しい」異動の仕組みと課題、「キャリア自律」に向けた取り組み
第13回	女性の仕事とキャリア形成	女性の採用・配置・処遇の現状、性別職域分離とその解消に向けた取り組み
第14回	退職のマネジメント	退職管理、早期退職優遇制度、定年制、「70歳までの雇用・就業」に向けての取り組み

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回の事前に配布する講義用のレジュメを熟読しておくこと。特に、留学生の参加者は、自国の制度・実態との差異と今後の課題について、意見・議論できるように準備しておくこと。また、各回で発表の指名を受けた参加者は、発表課題について内容をまとめたレジュメを作成しておくこと。

### 【テキスト（教科書）】

講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。各回の授業の前に、講義で用いるレジュメを配布します。

### 【参考書】

- 各回のテーマによって、以下の文献を参考文献として使用します。
- ①今野浩一郎、佐藤博樹 [2020] 『人事管理入門（第3版）』、日本経済新聞社。
  - ②佐藤博樹、藤村博之、八代充史 [2019] 『新しい人事労務管理（第6版）』、有斐閣。
  - ③平野光俊、江夏幾多郎 [2018] 『人事管理～人と企業、ともに生きるために』、有斐閣ストゥディア。
  - ④守屋貴司・中村艶子・橋場俊展編著 [2018] 『価値創発（EVP）時代の人的資源管理』、ミネルヴァ書房。
  - ⑤八代充史 [2019] 『人的資源管理論～理論と制度（第3版）』、中央経済社。
  - ⑥上林千恵子編著 [2012] 『よくわかる産業社会学』、ミネルヴァ書房。

### 【成績評価の方法と基準】

1. 第2回以降の出席を「授業における学習姿勢」として評価（40%）
  2. 報告の担当回での報告内容の評価（30%）
  3. 授業における議論への参加の評価：内容、積極性を評価（30%）
- 以上の3項目を総合して、最終的な評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

1. 人的資源管理とは、「①社会環境上の、または組織における様々な制約条件のもと、②人材と仕事・役割をマッチングしつつ、③個々の人材がパフォーマンスを発揮できるように取り組み、④組織としてのパフォーマンスを上げる」ための営みと、捉えることができます。授業の中では、各回のテーマに沿う形で、この①～④の要素についての理解が進むように、講義で話題提供と問題提起を行い、報告・ディスカッションを通じて、検討を行っていきます。
2. この授業は、海外から進学してきた大学院生が多く履修しているため、日本企業の人的資源管理についての理解を深めるとともに、海外企業と日本企業との共通点や違いがなぜ生まれるのかについて、考察できる機会にしていきたいと考えています。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

産業社会学、人的資源管理論

<研究テーマ>

- ①環境変化のもとでの日本企業の能力開発活動、キャリア管理。
- ②中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動。
- ③能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能。

<主要研究業績>

(書籍)

○労働政策研究・研修機構編 [2012] 『中小企業における人材育成・能力開発』(共著), 労働政策研究・研修機構。

○藤本真編著 [2014] 『日本企業における能力開発・キャリア形成—既存調査研究のサーベイと試行的分析による研究課題の検討』, 労働政策研究・研修機構。

○労働政策研究・研修機構編 [2017] 『日本企業における人材育成・能力開発・キャリア管理』(共著), 労働政策研究・研修機構。

○梅崎修・池田心豪・藤本真編著 [2019] 『労働・職場調査ガイドブック』, 中央経済社。

(論文)

○藤本真・大木栄一 [2010] 「ものづくり現場における技能者育成方法の変化—「OJT 中心・Off-JT 補完型」から「OJT・Off-JT 併用型」へ」, 日本労働研究雑誌 No.595。

○藤本真 [2011] 「60 歳以降の勤続をめぐる実態—企業による継続雇用の取組みと高齢労働者の意識・行動」, 日本労働研究雑誌 No.616。

○藤本真 [2018] 「「キャリア自律」はどんな企業で進められるのか」, 日本労働研究雑誌 No.691。

**[Outline and objectives]**

Students will learn the basic concept of human resource management practiced by Japanese companies and discuss their characteristics through international comparison with overseas companies and systems.

The topics covered in this class are recruitment, placement / transfer, evaluation, wage system, human resource development, working time management, industrial relations, diversification of human resources, retirement, and so on. Participants are required to understand the main issues on these topics, and to report and discuss examples and papers corresponding to each topic.

Through these learning activities, the goal is for participants to acquire the ability to think about the current status and issues of human resource management.

MAN500F1 - 0007

## 経営戦略特論

孫 徳峰

実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業はどのように自社の事業範囲を決めるか、どのように競合に対して持続的な競争優位を獲得するか、どのように効率的かつ有効なオペレーション・システムを構築し改善していくか。こういった問題を中心に、企業の中社戦略、競争戦略、イノベーション戦略を検討します。ケースメソッドを用いて具体的な企業事例の分析を通して理論の理解を深めます。

### 【到達目標】

本授業では、中社戦略、競争戦略（事業戦略）、イノベーション戦略に関する基本的な理論、概念、分析手法を学びます。既存の理論と分析フレームワークを援用して現実の経営戦略を説明し、考察する能力を養うことが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

Zoom 等を用いたリアルタイム講義を行う。講義方式とケーススタディ方式を併用して授業を進めます。プレゼンテーションとグループディスカッションを求めることがあります。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

#### 通年

回	テーマ	内容
第 1 回	経営戦略とは	経営戦略の定義と階層、戦略と組織、戦略とオペレーション。
第 2 回	競争優位と一般戦略	戦略と競争優位、一般戦略（コストリーダーシップ、差別化、集中化）、差別化の種類、持続的競争優位のメカニズム。
第 3 回	ポジショニング・アプローチ（Ⅰ）	SCP モデル、ファイブ・フォース・モデル、参入障壁、戦略グループ、移動障壁。
第 4 回	ポジショニング・アプローチ（Ⅱ）	バリューチェーン、ピムズ・モデル、SWOT 分析、戦略策定手順、PPM、ビジネススクリーン。
第 5 回	1 回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。
第 6 回	産業構造と戦略的機会（Ⅰ）	集約・統合戦略、先行者優位の戦略、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収穫戦略、撤退戦略、勝者総取り戦略。
第 7 回	産業構造と戦略的機会（Ⅱ）	トランスナショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、先制破壊戦略。
第 8 回	リソース・ベース・ビュー（RBV）	VRIO フレームワーク、競争戦略と経営資源、コア・コンピタンス、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積メカニズム、イノベーションと競争優位。
第 9 回	ゲーム論アプローチ（Ⅰ）	価値相関図（バリュー・ネット）、コーピティション（競争と協調）、「付加価値」と価値工限度、ネットワークの外部性と競争優位。
第 10 回	2 回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。

第 11 回	ゲーム論アプローチ (Ⅱ)	MFC 条項と MCC 条項、戦略的補完関係、意図的抑止。
第 12 回	創発戦略と学習アプローチ	創発戦略、学習の「場」の設定、実験による学習、ダイナミック・シナジー。
第 13 回	競争戦略パラダイムの転換	イノベーション戦略、プラットフォーム戦略、シェアリング・ビジネスの戦略など。
第 14 回	競争戦略のまとめ、中間テスト	競争戦略のまとめ、中間テスト。
第 15 回	企業戦略の基本	ドメイン、製品・市場ポートフォリオ、シナジー、成長ベクトル。
第 16 回	多角化戦略	多角化戦略の定義、多角化の誘因・動機、多角化の類型、多角化度、多角化ディスカウント、ダイナミックな学習プロセス。
第 17 回	垂直統合の戦略	垂直方向の事業展開、垂直統合度、 <b>Make or Buy</b> の意思決定、第 3 の取引形態、取引統治メカニズムの類型など。
第 18 回	国際化戦略	国際化の類型、国際化戦略における範囲の経済、海外顧客の購入意思と購入能力、輸入障壁、 <b>OLI</b> フレームワーク、統合化と適応化、国際企業の類型、 <b>CAGE</b> フレームワーク、 <b>AAA</b> 戦略、ポーンゲローバル戦略。
第 19 回	M&A 戦略と PMI 戦略	M&A の類型、戦略的関連性の源泉、M&A 戦略の動機、ターゲット企業とビディング戦略の行動規範と原則、買収後のプロセス統合戦略。
第 20 回	戦略的提携	戦略的提携の定義と形態、戦略的提携と業界構造、提携におけるリスクなど。
第 21 回	3 回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。
第 22 回	イノベーション (Ⅰ)	イノベーションの定義、イノベーションのプロセス、イノベーションのジレンマなど。
第 23 回	イノベーション (Ⅱ)	イノベーションの実現プロセス、資源動員、オープン・イノベーションなど。
第 24 回	新規事業創造 (Ⅰ)	ベンチャー企業とは何か、新規事業創造における製品開発モデルと顧客開発モデルについて説明。
第 25 回	新規事業創造 (Ⅱ)	アントレプレナーシップとはなにか、アントレプレナーシップの二つの特徴的なアプローチについて説明。
第 26 回	新規事業創造 (Ⅲ)	ビジネスモデルとはなにか、ビジネスモデルの構成要素およびビジネスモデルキャンパスについて説明し、さまざまな形態での企業の収益化、課金モデルの仕組みについて解釈。
第 27 回	4 回目ケーススタディ	ケーススタディ、グループ討論と発表。
第 28 回	全社戦略とイノベーション戦略のまとめ	全社戦略とイノベーション戦略のまとめ。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。  
 毎回授業に先立って、レジュメなどの資料を事前に予習し、指定されたリーディングを読みディスカッションに備えます。ケーススタディに際しては、プレゼンの資料（パワーポイント）を事前に作成します。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

**【参考書】**

『企業戦略論』ジェイ B. バーニー著、ダイヤモンド社。

『戦略サファリ』ヘンリー・ミンツバーク著、東洋経済新聞社。

『競争の戦略』M・E・ポーター著、ダイヤモンド社。

『戦略経営論』ガース・サローナーほか著、東洋経済新聞社。

『リーン・スタートアップ』エリック・リース著、日経 BP 社。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中の参加の度合いと貢献度 (20%)、ケーススタディの討論と発表 (25%)、中間テストの成績 (25%)、期末テストの成績 (30%) を総合して成績評価を行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

スライドの切り替え速度に気をつけます。授業中、随時質問を受け付けます。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域> 国際経営論、経営戦略論

<研究テーマ> 新興国市場における製品開発戦略、親会社と海外子会社間関係、新規事業創造

<主要研究業績> 『日系企業の知識と組織のマネジメント—境界線のマネジメントからとらえた知識転移メカニズム—』白桃書房。

「新興国市場戦略における現地での能力開発と本国資産の選択的利用—中国における日本アパレル企業 AB 社の事例分析—」『国際ビジネス研究』。

「海外製品開発拠点の能力構築における探索と活用の順序—日本分析計測機器メーカーの中国開発拠点の事例分析—」『国際ビジネス研究』など。

**【Outline and objectives】**

How do companies determine their business domain and scope; how do companies try to acquire and maintain their sustainable competitive advantage against competitors; how do companies establish and improve efficient and effective operation system. Focusing on these issues, we will examine and discuss corporate strategy, business strategy and innovation strategy in this class. Case method will be used to analyse real cases in order to help understand the relative theories deeply.

MAN500F1 - 0010

## マーケティング特論

竹内 淑恵

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

製品やブランドを日常生活の一部にする消費者の活発でインタラクティブなコミュニティづくりを行うことは、今日のマーケティング上の課題である。本講義では、顧客価値の創造とロイヤル顧客獲得の方法を学び、今日のマーケティングの本質を捉える顧客価値と顧客とのリレーションシップに関する革新的なフレームワークを理解する。また、発表の機会を通じてプレゼンテーション・スキルの向上を図るとともに、ディスカッションによって多面的な角度から問題を掘り下げる能力を身につける。

## 【到達目標】

- ・マーケティングの基本概念や理論について、自ら説明できるレベルに達する。
- ・マーケティングの理論を実務に応用し、マーケティング戦略を検討できるようになる。
- ・ディスカッションの場において、実践的かつ批判的な視点から討議できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン授業（リアルタイム配信型）、Zoom等を使用して双方向型で春学期の土曜日1・2時限に実施します。

ID、パスコードは学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で確認ください。

・2時限続きで14回開講します。

・テキストの第1章～第14章はレクチャー形式で行います。

・受講生には各章末にある「ディスカッション」を担当していただきます。予めプレゼンテーションファイルを用意し、討議のためのケースを紹介してください。その後、クラス全員で発表内容などについて検討します。

・「マーケティングと社会的責任」（第15章）をテーマに、革新的なマーケティング事例に関するグループワークをしていただきます。その内容を第14回授業でプレゼンテーションしてください。

・提出物やプレゼンテーションの内容に対して個別評価や全体講評を行い、フィードバックします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	①イントロダクション、オリエンテーション ②第1章：マーケティングの本質	①授業の進め方、文献の調査方法などを説明し、分担決定を行う。 ②マーケティングの定義、およびマーケティングの5つのステップについて学ぶ。
第2回	①第2章：企業とマーケティング戦略 ②第3章：競争優位の創造	①マーケティングのステップ2「顧客主導型マーケティング戦略の設計」およびステップ3「マーケティング・プログラムの設計」について学ぶ。 ②競合分析と競争的マーケティング戦略に関して学ぶ。

第3回	①第4章：マーケティングの基本枠組み ②ディスカッション	①顧客主導型マーケティングの基本的枠組みであるSTP(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング)について学ぶ。 ②ニッチマーケティング実践企業等のディスカッション。
第4回	①第5章：マーケティング情報とカスタマー・インサイト ②ディスカッション	①様々なマーケティング情報とその情報収集方法であるマーケティング・リサーチに関して学ぶ。 ②マーケティング・リサーチ等のケース・スタディ・ディスカッション。
第5回	①第6章：消費者の購買行動 ②ディスカッション	①消費者の購買行動に影響を与える文化的・社会的・個人的・心理的要因について学ぶ。 ②新製品の普及速度と製品特性等のディスカッション。
第6回	①第7章：製品、サービス、ブランド ②ディスカッション	①マーケティングミックスの4Pの内の一つ、Product(製品・サービス・ブランド)戦略に関して学ぶ。 ②ブランド拡張の成功例・失敗例等のディスカッション。
第7回	①第8章：新製品開発と製品ライフサイクル戦略 ②ディスカッション	①Product戦略において重要な役割を担う新製品開発のプロセスについて学ぶ。 ②製品ライフサイクルの延命成功事例等のディスカッション。
第8回	①第9章：マーケティング・チャンネルによる顧客価値の提供 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの4Pの内の一つ、Place(チャンネル)戦略に関して学ぶ。 ②開放的流通、排他的流通、選択的流通の長所と短所等のディスカッション。
第9回	①第10章：価格設定 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの4Pの内の一つ、Price(価格)戦略に関して学ぶ。 ②コストベース、顧客価値ベース、競争ベースの価格設定の長所と短所等のディスカッション。
第10回	①第11章：コミュニケーションによる顧客価値の説得 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの4Pの内の一つ、Promotion(コミュニケーション)戦略に関して学ぶ。 ②購買準備段階に応じたマーケティング・コミュニケーション事例等のディスカッション。
第11回	①第12章：広告とパブリック・リレーションズ ②ディスカッション	①Promotion戦略において重要な役割を担う広告、PR(パブリック・リレーションズ)について学ぶ。 ②消費者生成型広告の長所と短所等のディスカッション。
第12回	①第13章：人的販売と販売促進 ②ディスカッション	①Promotion戦略において重要な役割を担う人的販売、販売促進について学ぶ。 ②モバイルを用いた消費者向けセールス・プロモーション事例等のディスカッション
第13回	①第14章：ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング ②研究手法と修論について	①近年のICTの進展に伴って急成長しているダイレクト・マーケティング、オンライン・マーケティングに関して学ぶ。 ②OB・OGをゲストスピーカーとして迎え、修論完成に至るスケジュールやプロセス、心構えについて学ぶ。
第14回	グループワーク発表会	「マーケティングと社会的責任」（第15章）をテーマに、グループワークによる研究結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・テキストの予習をして内容を理解しておいてください。
- ・テキストにあるディスカッションテーマについて目を通し、ディスカッションに備えてください。
- ・プレゼンテーションを担当する回には pdf ファイルを作成し、事前提出してください。
- ・「マーケティングと社会的責任」をテーマに革新的なマーケティング事例を選定し、グループワークを行ってください。

#### 【テキスト（教科書）】

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版、2014/3/4。ISBN-10:4621066226 ISBN-13:978-4621066225 ¥5,184

#### 【参考書】

- ・授業では原著を使用しません。以下の書籍を参考にしてください。  
Kotler, Philip & Gary Armstrong, Principles of Marketing, Global ed, Pearson Education, 2015/4/2 ISBN-10:1292092483, ISBN-13:978-1292092485 ¥11,653
- ・マーケティング・コースの修了生 (OB・OG) が執筆した以下の書籍を修士論文(研究)の参考にしてください。  
竹内淑恵編著 (2014)『リレーションシップのマネジメント』文真堂, 2014/4/8。ISBN-10:4830947977 ISBN-13:978-4830947971 ¥2,808

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・担当する各章のプレゼンテーション内容 (40%)
- ・クラス討議への参加度、貢献度 (30%)
- ・グループワークによる事例発表 (30%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

- 本講義を受講した学生からの意見は以下の通りです。
- ・翻訳文をテキストとし、英語の原著は参考書とした方が良い。
  - ・ゲストスピーカーとして OB・OG を招いた講義において、研究手法について説明してほしい。
  - ・毎回のディスカッションで実務との関連が明確になった。

#### 【学生が準備すべき機器他】

担当回に使用する pdf ファイルを発表の前日までに、担当教員にメール添付ファイルにて提出してください。担当教員のメールアドレスは学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で確認ください。

#### 【その他の重要事項】

- ・マーケティング・コースの学生は、ワークショップ(マーケティング)、消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、流通システム論、サービス・マネジメント論、製品開発論を履修することをお勧めします。
- ・修士論文において、定量分析を活用した研究を計画している学生は、統計データ解析を履修することをお勧めします。
- ・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論に焦点を当てて講義します。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>マーケティング論、ブランド論、消費者行動論  
<研究テーマ>広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、ソーシャルメディアにおけるブランド・コミュニケーション  
<主要研究業績>

①竹内淑恵 (2020) 「Facebook ページにおける消費者エンゲージメント行動：「いいね」とコメントの差異」『イノベーション・マネジメント』No.17, pp.59-88.

②竹内淑恵 (2019) 「ブランド・コミュニティ研究へのマルチレベル分析の適用可能性－Facebook ページへのリレーションシップがロイヤルティに及ぼす影響の検討－」『イノベーション・マネジメント』No.16, pp.53-78.

③竹内淑恵 (2018) 「Facebook ページにおける消費者とブランドとのリレーションシップ構築」『イノベーション・マネジメント』No.15, pp.43-63.

他の研究業績等の詳細は以下を参照ください。

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001706/profile.html>

#### 【Outline and objectives】

Today's marketing challenge is to create a lively and interactive communities of consumers who make products and brands a part of their daily lives. This course will help students learn how to create customer value and acquire loyal customers. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing. The students will develop the presentation skills through presentation opportunities and acquire the ability to delve into problems from a multifaceted angle through discussions.

ECN500F1 - 0022

## ミクロ経済論

宮澤 信二郎

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個人や企業などの意思決定プロセスやそれらの相互作用に関する学問体系であるミクロ経済学についての講義を受け、問題演習を行う。経営学の諸分野を学ぶ上で基礎となるミクロ経済学の考え方・分析手法を身につける。

## 【到達目標】

以下のような事項について理解し、応用できるようになる。

- (1) 消費者は何をどれだけ購入しようとするか。また、その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすか。
- (2) 企業は何をどれだけ使って、何をどれだけ販売しようとするのか。また、その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすのか。
- (3) モノの値段がどのように決まるのか。また、その決定にどのような要因がどのような影響を及ぼすのか。
- (4) 短期的な意思決定と長期的な意思決定の違いは何か。
- (5) 人々の行動が相互に影響を及ぼしあうような状況ではどのように意思決定したらよいか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

基礎となる理論について講義した後問題演習を行う。講義の際には、聴くだけにならないようにするため、考えるきっかけ与えたり、理解を確認したりするような質問を投げかける。問題演習の際には、各自が自ら考える時間を確保するとともに、必要に応じて、正解に導くような助言を与える。本授業は Zoom を用いたリアルタイム授業で実施する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：ミクロ経済学とは？	ミクロ経済学の特徴と全体像を解説した後これを学ぶ意義について議論する。
第 2 回	需要・供給と市場均衡 (1)	教科書 4 章に基づいて、需要と供給の振る舞いおよび需要と供給による取引内容（数量・価格）決定メカニズムについて学びます。
第 3 回	需要・供給と市場均衡 (2)	教科書 5 章に基づいて、価格の変化が需要と供給に及ぼす変化の程度（弾力性）が取引内容の変化に及ぼす影響について学びます。
第 4 回	問題演習 1	第 2 回と第 3 回の内容に関する問題演習を行います。
第 5 回	消費者の理論 (1)	教科書 21 章に基づいて、消費者の意思決定に関する理論の基礎について学びます。
第 6 回	消費者の理論 (2)	教科書 21 章に基づいて、消費者の意思決定に関する理論の応用について学びます。
第 7 回	問題演習 2	第 5 回と第 6 回の内容に関する問題演習を行います。
第 8 回	生産者の理論 (1)	教科書 13 章に基づいて、企業による生産に関わる費用について学びます。

第 9 回	生産者の理論 (2)	引き続き、教科書 13 章に基づいて、企業による生産に関わる費用について学びます。
第 10 回	問題演習 3	第 8 回と第 9 回の内容に関する問題演習を行います。
第 11 回	生産者の理論 (3)	教科書 14 章に基づいて、競争市場における企業の生産量決定について学びます。
第 12 回	生産要素市場	教科書 18 章に基づいて、労働・資本・土地といった生産要素の市場取引について学びます。
第 13 回	問題演習 4	第 11 回と第 12 回の内容に関する問題演習を行います。
第 14 回	期末テスト (1)	春学期に学習した内容に関するテストを実施し、その後、解説を行います。
第 15 回	春学期の復習と秋学期の展望	春学期の内容の復習をするとともに、秋学期に扱う内容について概観します。
第 16 回	効率性と市場の失敗	教科書 7 章に基づき、取引内容の望ましきの指標として、余剰という概念を学びます。更に、市場取引により効率的な結果（余剰の合計が最大になるような結果）が実現する場合とそうでない場合について学びます。
第 17 回	外部性	教科書 10 章に基づいて、取引が当事者以外の経済主体の利害に影響を及ぼすときの取引内容に関して学びます。
第 18 回	情報の非対称性	教科書 22 章を参照しつつ、当事者間で情報が異なる場合に起こる問題とそれに対する対応策について学びます。
第 19 回	問題演習 5	第 16 回から第 18 回の内容に関する問題演習を行います。
第 20 回	独占	教科書 15 章に基づき、独占企業の生産量決定について学びます。
第 21 回	独占的競争	教科書 16 章に基づき、各企業が違いのある製品を生産している場合の企業行動について学びます。
第 22 回	問題演習 6	第 21 回と第 22 回の内容に関する問題演習を行います。
第 23 回	寡占・ゲーム理論 (1)	教科書 17 章に基づき、市場の企業数が 2 社以上だが少数である場合の企業行動について学びます。また、このような市場における企業行動を分析するために利用できるツールであるゲーム理論について学びます。
第 24 回	寡占・ゲーム理論 (2)	引き続き、教科書 17 章に基づき、市場の企業数が 2 社以上だが少数である場合の企業行動と、それを分析するために利用できるツールであるゲーム理論について学びます。
第 25 回	寡占・ゲーム理論 (3)	ゲーム理論について更に学びます。
第 26 回	問題演習 7	第 23 回から第 25 回までの内容に関する問題演習を行います。
第 27 回	その他のトピックス / まとめ	受講者の関心に合わせて、ミクロ経済学の分野のその他のトピックスについて補足説明します。最後に、全体のまとめを行います。
第 28 回	期末テスト (2)	秋学期に学習した内容に関するテストを実施し、その後、解説を行います。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に以下のテキストを読んでくることが求められます。また、毎週あるいは隔週程度で課される宿題を解くことが求められます。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

以下のテキストを使用する予定である。ただし、受講者が求める場合には、もう少しレベルの高いものを使用する可能性がある。  
マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第4版）』東洋経済新報社、2019年（あるいはその原著）

### 【参考書】

- [1] 伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣、2012年  
[2] 安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年  
[3] 芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣、2009年  
[4] 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年  
\* [1] と [2] は上記の教科書よりも易しいテキスト、[3] と [4] は上記教科書よりも難しいテキストで、易しい順になっています。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加・貢献）30%、宿題・問題演習 30%、期末テスト（2回）40%

### 【学生の意見等からの気づき】

一昨年度にこの科目を担当し、また、これまでに夜間の修士課程や通信教育課程の同等科目を担当した経験を踏まえて、ミクロ経済学を初めて勉強する学生向けの内容で実施することを想定しています。ただし、受講者の要望によっては、より発展的・応用的な内容も取り扱いたいと考えています。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Zoom 社の会議システムなどのオンラインシステムを利用しますので、これらを使うために必要な情報端末（PC、タブレットなど）と通信環境が必要になります。

### 【その他の重要事項】

学習支援システムを利用して授業に関する情報をこまめに確認するようにしてください。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 応用ミクロ経済学（特に、企業金融論、産業組織論）  
<研究テーマ>

企業金融と市場競争の相互作用に関する研究

<主要研究業績>

- [1] “Financial Contract and Capital Allocation: A Comparison between Market-based Finance and Bank Finance” 経営志林 第55巻第2号、49-58頁、2018年。  
[2] 「企業間信用に関する一考察—銀行と供給者との間の利害衝突を考慮して—」 経営志林 第53巻第4号、25-52頁、2017年。  
[3] 「EU 国家補助規制の考え方の我が国への応用について」（大久保直樹氏ほかと共著）競争政策研究センター共同研究報告書 CR03-13 2013。  
[4] 「公的金融と市場競争—産業組織論アプローチ—」 フィナンシャル・レビュー 133、147-168頁、2013。  
[5] “Optimal borrowing structure: An explanation of multiplicity of large-share creditors and asymmetry among them,” Journal of The Japanese and International Economies 26, pp434-453, 2012。  
[6] 「国家賠償と求償に関する経済分析」, 社会科学研究 第62巻第2号、55-79頁、2011年。  
[7] 「偏波弁済の許害行為取消しに関する分析—法と経済学の視点から—」（藤澤治奈氏との共著）、新世代法政策学研究 第10号、351-369頁（担当部分）、2011年。（倒産・再生法制研究奨励金賞（トリプルアイ・高木賞）（奨励賞）（財団法人民事紛争処理研究基金）受賞）  
[8] 「情報財の価格差別と著作権保護」, 知的財産法政策学研究 第24号、229-257頁、2009年。  
[9] “Innovative interaction in mixed market: An effect of agency problem in state-owned firm,” Economics Bulletin 12, pp1-8, 2008。

### 【Outline and objectives】

You will learn the foundation of microeconomics, which is a theory to analyze individuals' and firms' decision-makings and those interaction, and conduct problem exercises with some economic problems around you.

You can learn the fundamental thinking and analyzing methods of microeconomics, which can be the basis for learning respective fields of business administration.

## 組織経済学

奥西 好夫

実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。  
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考察することを学ぶ。

### 【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題など。  
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。  
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

・授業に必要な教材は、学習支援システム（Hoppii）にアップするので、各自ダウンロードすること。  
・対面授業が原則だが、コロナ感染の状況によっては困難が予想される。その場合は Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義レジュメに目を通して参加すること。  
・課題等の提出・フィードバックは Hoppii を通じて行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1.	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
2.	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
3.	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
4.	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
5.	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
6.	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
7.	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
8.	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
9.	組織デザイン (1)	・組織構造
10.	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
11.	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
12.	インセンティブ問題 (1)	・インセンティブの強度 ・ナッジ
13.	インセンティブ問題 (2)	・人事制度への応用

#### 14. インセンティブ問題 ・賃金制度への応用 (3)

##### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義レジュメや資料に目を通しておくこと。
- ・事前にアンケートや小課題の回答を求めていることがあるので、それらを誠実にこなすこと。
- ・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業の間か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

##### 【テキスト（教科書）】

- ・単一のテキストは特に用いない。
- ・担当教員が作成する授業レジュメ、参考資料等は Hoppii を通じて配付する。
- ・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

##### 【参考書】

- ・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的教科書。
- ・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。
- ・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題のエッセンスを扱っている。
- ・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
- ・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のバイオニアによる自伝的入門書。
- ・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
- ・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

##### 【成績評価の方法と基準】

- ・定期試験は行わない。その代わりに、学期中に 3～4 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。ただし、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる。
- ・課題の内容は、上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とし、講義の参考資料等を使った質問に対して答えてもらう。
- ・また、課題内容の告知から提出期限まで 2 週間程度の期間を設ける予定である。

##### 【学生の意見等からの気づき】

- ・大学院生向けに本講義を行うのは初めてなので、過年度の情報は無い。

##### 【学生が準備すべき機器他】

- ・授業は Zoom を用いて行う可能性が高いこと、また Hoppii へのアクセスが必須であるため、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

##### 【関連科目】

- ・ミクロ経済学や組織論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

##### 【担当教員の専門分野等】

- <専門領域> 労働経済学、人事制度論
- <研究テーマ> 人事制度、労働市場の統計分析、国際比較。特に雇用形態、賃金格差など。
- <主要研究業績> 下記サイトを参照されたい。  
<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001419/profile.html>

##### 【Outline and objectives】

- ・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

- ・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

ECN500F1 - 0025

## 金融論

片桐 満

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、金融に直接かかわる仕事に就く人はもちろん、金融以外の業種で働く人々も、仕事を進めていく上で、金融に関する何らかの知識が必ず求められます。このコースでは、前半部分（春学期）で、金融市場や金融機関の役割など、金融論の基礎を学び、後半部分（秋学期）では、金融政策や金融規制など、金融に関わる政策のあり方について学びます。

## 【到達目標】

このコースでは、金融理論が社会に出てからビジネスやその他の実務にどのように役立つのか、という実務的な視点を重視します。実務と理論のつながりを理解し、金融に関するビジネス上の課題について、自分なりの解決方法が見いだせるだけの十分な知識を身につけることが、このコースの到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

特にテキストは指定せず、毎回、スライドに基づいた授業を行います。各学期とも、オンライン（リアルタイム配信、もしくは、オンデマンド配信）と教室での対面授業の混合授業とします。受講者は、毎回どの方式で行われるかを必ずチェックし、リアルタイム配信や教室での対面授業において、チェック漏れによる意図せざる欠席が生じないように注意してください。春学期（第1回～第14回）は「リアルタイム2回、オンデマンド11回、対面授業1回」、秋学期（第15回～第28回）は「オンデマンド8回、対面授業6回」の予定です。以下の授業計画のなかで、\*を付した回がリアルタイム配信、\*\*を付した回が対面授業、何も付していない回がオンデマンド配信となります。本コースでは、実務とのつながりを重視する観点から、授業と関連する新聞や雑誌の記事を紹介し、授業の内容と関連付けながら解説します。また、秋学期には、参加者に課題論文を課し、内容について発表してもらう機会を設けます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	金融システムの全体像*	経済における金融の役割と金融システム全体の仕組みについて解説します。
第2回	金利の役割	金利の役割とその決定要因、短期金利と長期金利の違いなどを学びます。
第3回	債券市場（国債と社債）	債券市場について、企業・政府と投資家の両方の観点から解説します。
第4回	株式市場	株式市場について、企業と投資家の両方の観点から解説します。
第5回	資産価格の決定理論	CAPMやファクターモデルなど、金融商品の価格決定理論を学びます。
第6回	デリバティブと証券化商品	デリバティブと証券化商品の仕組みと金融市場での役割について解説します。
第7回	間接金融の役割	金融機関を介した金融仲介について、金融市場との違いを中心に学びます。
第8回	金融機関 1: 銀行*	金融システムで中心的な役割を担う銀行について、その役割を学びます。
第9回	金融機関 2: 証券会社、保険会社、資産運用会社	証券会社や保険会社、資産運用会社など、銀行以外の金融機関の役割について学びます。
第10回	金融機関 3: ベンチャーキャピタル	ベンチャーキャピタルとは何かを解説し、その役割について学びます。
第11回	企業の資本調達構造	株式や借り入れなど、企業の資金調達手段の選択について解説します。
第12回	金融のグローバル化	金融のグローバル化について、国境をまたぐお金の流れを中心に学びます。
第13回	外国為替市場	異なる通貨間の交換を行う外国為替市場について学びます。
第14回	為替レートの決定**	為替レートを決定する要因として、購買力平価と金利平価について学びます。
第15回	金融政策の目的**	金融政策の目的と、それが経済全体で果たす役割について学びます。
第16回	金融調節と短期金融市場	伝統的な金融政策の基本となる金融調節と短期金融市場について学びます。
第17回	金融政策の波及効果	短期金利の変更が、実体経済やインフレ率に影響する仕組みを学びます。
第18回	金融政策運営の実務	金融政策がどのように決定されているか（されるべきか）を学びます。

第19回	金融政策と為替市場・通貨危機**	金融政策と為替レートの関係や通貨危機を踏まえた国際協調の意義について学びます。
第20回	ブルデンス政策の役割	銀行規制など、金融危機を防ぐ上で政策が果たす役割について学びます。
第21回	グローバル金融危機：原因と帰結	グローバル金融危機とそれに続く欧州危機について、その原因と帰結について学びます。
第22回	新しい金融規制	世界金融危機の反省から、新たに導入された金融規制について学びます。
第23回	論文発表1**	為替市場についての論文を参加者に発表してもらいます。
第24回	金融政策と財政**	金融政策と財政の関係について学びます。
第25回	非伝統的金融政策①：ゼロ金利政策、付利政策	新たな金融政策の枠組みのうち、ゼロ金利政策や付利政策の意義や効果について学びます。
第26回	非伝統的金融政策②：量的緩和、信用緩和	新たな金融政策の枠組みのうち、国債等の金融商品を購入入れる政策について学びます。
第27回	論文発表2**	金融政策と財政の関係についての論文を参加者に発表してもらいます。
第28回	金融政策とブルデンス政策の今後の課題**	今後、金融政策とブルデンス政策が直面する課題について学びます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本コースの準備学習と復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。復習では、以下に挙げる参考文献のほか、関連ある新聞や雑誌の記事を読むなど、実務的な観点から学んだ内容をどう活かすかについて考えてください。発表論文は、発表日の数週間前に指定しますので、各自、発表日までにスライド作成を含む発表の準備をしてもらいます。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。発表してもらう論文は授業中に指定します。

## 【参考書】

- 参考文献として、以下の教科書を参照します。
- ・内田浩史「金融」（有斐閣）
- ・岩村充「コーポレート・ファイナンス CFO を志す人のために」（中央経済社）
- ・ブリーリー他「コーポレート・ファイナンス 第10版（上・下）」（日経BP）
- ・橋本優子ほか「国際金融論をつかむ（新版）」（有斐閣）
- ・小林照義「金融政策（ベシック+）」（中央経済社）
- ・白川方明「現代の金融政策 理論と実践」（日本経済新聞出版）

## 【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験（70%）と論文発表（30%）に基づいて決定します。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし（本年度より授業担当者変更）。

## 【学生が準備すべき機器他】

教材の共有のため学習支援システムを利用します。オンデマンドの映像教材も含まれるため、通信環境の確保をお願いします。

## 【その他の重要事項】

日本銀行や国際通貨基金（IMF）において、金融の実務に15年程度かかわりました。そうした経験から、いかに金融理論を実務的な問題解決に役立てるかを伝えられればと思います。

## 【関連科目】

マクロ経済学、ミクロ経済学が関連科目ですが、事前履修は必修ではありません。

## 【Outline and objectives】

Financial economics is essential knowledge for businesspersons in any industries. In this class, students study an introductory financial economics such as the role of financial markets and financial institutions in the spring term, and then learn about public policy including monetary policy and financial regulations in the fall term.

ECN500F1 - 0031

## 産業組織論

大木 良子

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業組織論は、ミクロ経済学とゲーム理論から、企業行動や企業間のインタラクションを分析するために有効なツールについて扱う。ミクロ経済学で最初に学習する「完全競争」の概念から離れ、より現実的で複雑な市場における競争を分析し、それらが消費者や経済全体に与える影響を明らかにする。加えて、理論的な分析から市場の競争に対する政策（競争政策）への示唆を導く。産業組織論の各トピックに対応する現実の事例について、理論の分析結果と現実との一致や相違点を参加者で議論し、経営学など隣接分野への応用可能性について考える。

## 【到達目標】

1. 産業組織論の理論的基礎を体系的に理解する。またその知識を活用して応用的な文献を理解できるようになる。
2. 学んだ理論を使って、現実の企業の行動を自らの言葉で説明し、経済学的な視点で評価することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

産業組織論の各トピックに対応する現実の事例について、理論の分析結果と現実との一致や相違点をレクチャーで解説したり、受講生による報告や質疑応答によって議論することで、産業組織論の考え方や経営学など隣接分野とのリンクをはかる。

講義の進め方としては、教員がレクチャーを行った後、そのトピックに関連する専門書を輪読する。報告者は、レジュメを作成し、要点を整理する。報告者以外は、予習の上、報告者への質問を考え教員に提出する。また、報告で用いた文献の理解度を確認するために、教員から受講者に複数の質問を行う。報告では、要点を整理する力と理論的結論を解釈する力を評価する。またレポート課題により問題を解くことによる理論の習熟度を確認する。提出された受講生のレポートについて、各学期最終回の授業でフィードバックを行い、議論のポイントや間違いやすい点について共有する。

オンラインでの講義動画配信・Zoom等を用いたりリアルタイム講義、また教室での対面講義を組み合わせる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
第1回	独占市場レクチャー 1	独占市場の経済理論について概略を説明する。経済学初学者に向けた基本的な用語解説、文献紹介を行う。
第2回	寡占市場レクチャー 2	寡占市場の具体例：数量競争・価格競争 ゲーム理論の基礎：戦略とは、ナッシュ均衡とは？
第3回	寡占市場レクチャー 3	同質財のクールノー競争・ベルトラン競争の均衡分析 クールノー競争とベルトラン競争の比較
第4回	独占市場に関するテキストの輪読 1	参加者によるテキスト 0 章の報告、ディスカッション
第5回	独占市場に関するテキストの輪読 2	参加者によるテキスト 1 章の報告、ディスカッション

第6回	価格差別レクチャー 1	企業が用いる価格差別の手法の紹介
第7回	価格差別レクチャー 2	現実の価格差別事例を経済理論で分析する。それぞれの価格差別が競争に与える影響を考える。
第8回	価格差別に関するテキストの輪読 1	参加者によるテキスト 2 章前半の報告、ディスカッション
第9回	価格差別に関するテキストの輪読 2	参加者によるテキスト 2 章後半の報告、ディスカッション
第10回	寡占市場に関するテキストの輪読 1	参加者によるテキスト 4 章前半の報告、ディスカッション
第11回	寡占市場に関するテキストの輪読 2	参加者によるテキスト 4 章後半の報告、ディスカッション
第12回	寡占市場に関するテキストの輪読 3	参加者によるテキスト 5 章の報告、ディスカッション
第13回	問題演習、事例研究	これまでに学んだ内容について、具体的な競争政策上問題になった事例を用いて分析する。またテキストの内容に沿った練習問題を解く。
第14回	レポート課題の解説	レポート課題を提出後その内容について解説する。
第15回	垂直的取引制限レクチャー 1	垂直的な取引関係と垂直的取引制限の具体的な事例
第16回	垂直的取引制限レクチャー 2	なぜ企業は垂直的取引制限を用いるのか。市場競争に与える影響。
第17回	垂直的取引制限に関するテキストの輪読	参加者によるテキスト 3 章前半の報告、ディスカッション
第18回	垂直的取引制限に関するテキストの輪読	参加者によるテキスト 3 章後半の報告、ディスカッション
第19回	製品差別化レクチャー	製品差別化と市場支配力 立地モデルによる製品差別化の分析
第20回	製品差別化に関するテキストの輪読 1	参加者によるテキスト 6 章前半の報告、ディスカッション
第21回	製品差別化に関するテキストの輪読 2	参加者によるテキスト 6 章後半の報告、ディスカッション
第22回	カルテルレクチャー	カルテルの具体的な摘発例 カルテルの経済モデルによる分析
第23回	カルテルに関するテキストの輪読 1	参加者によるテキスト 7 章前半の報告、ディスカッション
第24回	カルテルに関するテキストの輪読 2	参加者によるテキスト 7 章後半の報告、ディスカッション
第25回	ネットワーク効果に関するレクチャー	・ネットワーク外部性とはなにか ・ネットワーク外部性がある市場の具体的な例と特徴的な企業戦略とは？ ・プラットフォームと競争政策：最近の動向
第26回	ネットワーク効果に関するテキスト輪読	参加者によるテキスト 11 章の報告、ディスカッション
第27回	問題演習、事例研究	これまでに学んだ内容について、具体的な競争政策上問題になった事例を用いて分析する。またテキストの内容に沿った練習問題を解く。
第28回	レポート課題の解説	レポート課題を提出後その内容について解説する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。レクチャー部分については、レポート課題を念頭に、授業後の復習が必要です。輪読部分については、予習をし、報告者はレジュメを用意、報告者以外は質問を準備し、授業中の活発な議論に役立ててください。各受講生には、レポート課題に加え、年間 4 回程度のプレゼンテーションを求めます。

## 【テキスト（教科書）】

花蘭誠 (2018)「産業組織とビジネスの経済学」有斐閣を指定します。

## 【参考書】

レクチャー部分の参考文献として、以下を中心に適宜紹介します。

小田切宏之（2019）「産業組織論」有斐閣  
 小田切宏之（2001）「新しい産業組織論」有斐閣  
 柳川隆・川濱昇編（2006）「競争の戦略と政策」有斐閣  
 小田切宏之（2008）「競争政策論」日本評論社  
 小田切宏之（2016）「イノベーション時代の競争政策」有斐閣  
 小田切宏之（2010）「企業経済学」東洋経済新報社  
 岡田羊祐・川濱昇・林秀弥（2017）「独占法審判決の法と経済学：事例で読み解く日本の競争政策」東京大学出版会  
 岡田羊祐・林秀弥（2009）「独占禁止法の経済学」東京大学出版会  
 Belleflamme, P. and M. Peitz（2015）Industrial Organization: Markets and Strategies 2nd edition, Cambridge University Press  
 Motta, M.（2004）Competition Policy, Cambridge University Press

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の基準で決めます。

輪読時の報告 40 %

授業内における質問・討論への参加 30 %

レポート課題の評価 30 %

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルに合わせ、輪読テキストの選択やレクチャーの難易度を調整していく。

#### 【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムのオンライン授業や、授業動画配信を行うため、インターネット環境及びパソコン等の通信機器を必要とします。

#### 【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していることを受講の前提とします。学部においてミクロ経済学やそれに関連する授業を既に学習済みでない場合には、基礎的な内容を並行して学習してください。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

産業組織論

<研究テーマ>

競争政策の経済分析

<主要研究業績>

Exclusive Content in Two-sided Markets, Journal of Economics and Management Strategy, forthcoming (with Akifumi Ishihara)

#### 【Outline and objectives】

The course provides a graduate level introduction to the theoretical Industrial Organization. Students will learn firms' behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. For example, the pricing and marketing strategies of individual firms; the interactions between firms and anti-competitive issues. This course consists of lectures and presentations by students. Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

MAN600F1 - 0039

## 経営学演習

竹内 淑恵

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、マーケティングに関する修士論文作成のための研究を行います。実務的な問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文を完成させます。

より具体的には、本演習の主たる対象者は実務に携わっていない学生ですが、実務経験がない場合でも、日常的に接することができる企業のマーケティング活動に対して問題意識を持つことが重要です。そうした問題意識とマーケティングの理論とを融合させて仮説を構築し、独自性の高い研究を行って、論文を作成します。

#### 【到達目標】

- ・先行研究をレビューして、先行研究や理論を基に仮説を構築します。
- ・適切な分析方法を用いて仮説を検証します。
- ・内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指します。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

- ・Zoomを用いたリアルタイム講義を行います。
- ・上記の目的に即して、大学院在籍のメンバーと共にゼミ形式で行います。毎回、修士論文に向けての報告と、それに関するディスカッションを行います。
- ・テーマはマーケティングの包括的な領域で自由に設定してください。テーマに即した研究アプローチで論文を作成します。
- ・春学期、秋学期にそれぞれ1回ずつ開催される中間報告会に参加し、マーケティングコースに所属する教員全員による作成途上にある論文の指導を受けます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 通年

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文テーマの設定の仕方や年間スケジュールについて検討します。
第2回	リサーチ・プロポーザルの作成(1)	論文テーマについて議論し、研究の枠組みの概要を決めます。
第3回	リサーチ・プロポーザルの作成(2)	前回の議論に基づき、論文テーマを再検討し、研究の枠組みを決めます。
第4回	先行研究レビューと仮説構築(1)	レビューすべき先行研究の一覧を作成するとともに、仮説構築を始めます。
第5回	先行研究レビューと仮説構築(2)	先行研究を精査し、研究テーマとの関連性などを検討します。また、仮説構築に必要な理論的基盤を考えます。
第6回	先行研究レビューと仮説構築(3)	先行研究のレビュー結果を報告し、仮説構築のために、追加的な先行研究のレビューを行います。
第7回	先行研究レビューと仮説構築(4)	修士論文のテーマを洗練化するとともに、仮説を構築します。
第8回	春学期・中間報告会の準備	春学期の中間報告会に向け、プレゼンテーション資料を作成します。

第9回	春学期・中間報告会	中間報告会で研究の概要と理論的枠組みを発表します(日程は前後する可能性があります)。
第10回	調査方法の検討(1)	仮説検証に適切な調査方法を議論します。
第11回	調査方法の検討(2)	リサーチ・デザインを設計します。
第12回	予備調査の検討	調査票作成のための予備的な調査について検討します。
第13回	調査方法の検討(3)	予備調査の結果について検討し、本調査のアンケート票の作成を始めます。
第14回	調査方法の検討(4)	本調査のアンケート票を作成・確定し、実査を行います。
第15回	調査結果の検討(1)	記述統計量などの調査結果を報告します。
第16回	調査結果の検討(2)	調査結果に基づき、分析アプローチを確定し、予備的な分析を始めます。
第17回	分析結果の検討(1)	分析結果を報告します。
第18回	分析結果の検討(2)と 秋学期・中間報告会の 準備	分析結果を報告するとともに、秋学期の中間報告会に向け、プレゼンテーション資料を作成します。
第19回	秋学期・中間報告会	分析結果を中心に研究の進捗について報告します(日程は前後する可能性があります)。
第20回	分析結果の検討(3)	前回の分析結果を踏まえて、更なる分析を進めます。
第21回	分析結果の検討(4)	最終的な分析結果を確認するとともに、理論的及び実務的インプリケーションを考えます。
第22回	修士論文の作成(1)	研究目的と先行研究のレビューを中心に、修士論文の作成を始めます。必要に応じて追加的な先行研究のレビューを行います。
第23回	修士論文の作成(2)	仮説の導出と関連する先行研究の整理について、執筆した内容を検討します。
第24回	修士論文の作成(3)	調査概要と分析結果について執筆した内容を検討します。
第25回	修士論文の作成(4)	仮説検証について執筆した内容を検討します。
第26回	修士論文の作成(5)	結果の考察、まとめについて執筆した内容を検討します。
第27回	修士論文の最終チェック(1)	論文の修正と推敲を行います。これを提出まで繰り返します。
第28回	修士論文の最終チェック(2)	修士論文の最終的なチェックを行います。

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

・文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動については、各自授業外に行う必要があります。

・各回とも準備のために最低でも4時間、あるいはそれ以上の時間を要します。

#### 【テキスト(教科書)】

・毎年発行される「修士論文成果集」を参照してください。

・竹内淑恵編著(2014)『リレーションシップのマネジメント』文真堂。

#### 【参考書】

・テーマに応じて適宜紹介します。

・竹内淑恵(2010)『広告コミュニケーション効果－ホリスティック・アプローチによる実証分析－』千倉書房。

#### 【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、オリジナリティ、実務への貢献、論理的な一貫性などによって評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

スケジュール通りに研究を進めることが困難な場合もありますが、途中で挫折することなく、常に前向きにチャレンジすることが大事です。

#### 【その他の重要事項】

担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論に焦点を当てて指導します。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> マーケティング論、ブランド論、消費者行動論  
<研究テーマ> 広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、ソーシャルメディアにおけるコミュニケーション  
<主要研究業績>

①竹内淑恵(2020)「Facebook ページにおける消費者エンゲージメント行動：「いいね」とコメントの差異」『イノベーション・マネジメント』No.17, pp.59-88.

②竹内淑恵(2019)「ブランド・コミュニティ研究へのマルチレベル分析の適用可能性－Facebook ページへのリレーションシップがロイヤルティに及ぼす影響の検討－」『イノベーション・マネジメント』No.16, pp.53-78.

③竹内淑恵(2018)「Facebook ページにおける消費者とブランドとのリレーションシップ構築」『イノベーション・マネジメント』No.15, pp.43-63.

他の研究業績等の詳細は以下を参照ください。

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001706/profile.html>

#### 【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0039

## 経営学演習

横山 斉理

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、学術的課題を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

## 【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。

授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについての指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析
15	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
16	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
17	調査実施状況の確認②	調査データの分析
18	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
19	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
20	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
21	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
22	中間報告会の準備	中間報告準備の指導
23	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
24	論文執筆指導①	全体構成の再確認
25	論文執筆指導②	レビューパートの指導
26	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導

27	論文執筆指導④	分析パートの指導
28	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

## 【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

## 【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

## 【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

## 【担当教員の専門分野等】

&lt;専門領域&gt;

流通論、マーケティング論

&lt;研究テーマ&gt;

小売業の顧客満足、リテール・マネジメント

&lt;主要研究業績&gt;

Azuma,N., N. Yokoyama, W. Kim, (2020),""UNPACKING THE CAUSAL RECIPES OF RETAILING MIX ON CONSUMER SATISFACTION IN GROCERY SHOPPING USING QUALITATIVE COMPARATIVE ANALYSIS (QCA)"" , American Collegiate Retailing Association (ACRA)2020 Conference Proceedings 131-140.

Azuma,N., N. Yokoyama, W. Kim (2020), ""A study on Grocery Retail Competition in the 'Small Spatial Market' Setting and the Determinants of Different Levels of Customer Satisfaction - A Fuzzy-set Qualitative Comparative Analysis (fsQCA) Approach -"" , Aoyama Business Review, 42, 1-43.

Azuma,N., N. Yokoyama, W. Kim (2020), ""A Mixed-method Study on the Determinants of Different Levels of Customer Satisfaction with a 'Mini Supermarket' Multiple in a Spatially Small Urban Market Setting-A Concurrent Approach with fsQCA and MRA- "" , 青山経営論集 54(4) 1-35.

横山斉理 (2019)『小売構造ダイナミクス-消費市場の多様性と小売競争』、有斐閣

横山斉理・尾形真実哉 (2018)「マルチレベル分析を用いた店頭従業員の能力獲得に関する実証研究」、『組織科学』、51(3)、69-86.

横山斉理 (2017)「食品スーパーにおける顧客満足の規定要因： fsQCA アプローチ」、『組織科学』、51(2)、14-27.

横山斉理 (2015)「食品スーパーの顧客満足を規定する要因に関する経験的研究」、『流通研究』、17(4)、21-36.

横山斉理 (2014)「チェーン小売企業の実証分析におけるマルチレベル分析の適用～一般線形モデル (GLM) と階層線形モデル (HLM) の比較～」、『日本マーケティング学会マーケティングカンファレンス 2014 プロシーディングス』、207-209.

Yokoyama, N., & D.H. Ryu, "The characteristics of Japanese small and medium-sized retailers' business succession", Proceedings of the 7th Oxford Asia Retail Conference: The Impact of Retailing in Emerging and Mature Markets, 2014, 1-18、他。

## 【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis.

MAN600F1 - 0039

## 経営学演習

長谷川 翔平

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

## 【到達目標】

- ・研究テーマと関連のある先行研究の調査・レビューができる
- ・独自性の高い研究テーマを設定できる
- ・研究テーマに応じた分析手法を提案できる
- ・内容的に高度な修士論文を作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマに基づき、先行研究の検討、研究方法の検討を行う。研究方法の決定後には、具体的な調査やデータ収集を行い分析を行う。授業は、毎回の受講生の報告と教員からの指導で進め、最終的に修士論文の執筆を行う。

研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。

授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
第1回	研究計画の作成	研究テーマに基づき研究計画を作成
第2回	先行研究の検討①	研究テーマに関する先行研究の渉猟
第3回	先行研究の検討②	研究テーマに関する先行研究の整理
第4回	先行研究の検討③	研究テーマに関する先行研究の批判的検討
第5回	研究方法の検討①	研究方法についての指導
第6回	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
第7回	研究方法の検討③	研究方法の決定
第8回	第1回中間報告の準備	中間報告に向けて準備と指導
第9回	第1回中間報告会	中間報告での指導 (日程は前後する可能性あり)
第10回	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて再確認
第11回	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
第12回	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
第13回	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
第14回	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析
第15回	調査実施状況の確認⑥	調査データの分析
第16回	調査実施状況の確認⑦	調査データの分析
第17回	調査結果の検討①	調査結果に基づき指導
第18回	調査結果の検討②	調査結果に基づき指導
第19回	第2回中間報告の準備	中間報告に向けて準備と指導
第20回	第2回中間報告会	中間報告での指導 (日程は前後する可能性あり)
第21回	修士論文執筆の指導①	中間報告会でのコメントを踏まえた研究内容の修正

第22回	修士論文執筆の指導②	修士論文執筆の指導
第23回	修士論文執筆の指導③	修士論文執筆の指導
第24回	修士論文執筆の指導④	修士論文執筆の指導
第25回	修士論文執筆の指導⑤	修士論文執筆の指導
第26回	修士論文執筆の指導⑥	修士論文執筆の指導
第27回	修士論文の最終確認①	修士論文の最終指導
第28回	修士論文の最終確認②	修士論文の最終指導

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

## 【参考書】

適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

修士論文への取り組み（40%）

修士論文の学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など（60%）

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケートの実施実績なし。

## 【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

マーケティング・サイエンス

＜研究テーマ＞

ベイズモデリングによる消費者行動データの分析

＜主要研究業績＞

Terui, N., S. Hasegawa, A. N. Smith, G. M. Allenby (2017), "An Integrated Model for Discontinuous Preference Change and Satiation," Data Science and Service Research Discussion Paper (Tohoku University), 70, pp.1-36.

長谷川翔平 (2017), 「効用関数の構造異質性と広告戦略の最適化」, 『経営志林』, 53(4), pp.1-9.

## 【Outline and objectives】

This course is to provide research guidance for writing a master thesis on marketing. Students will write original master thesis for solving marketing issues using marketing theories and analyses.

MAN600F1 - 0039

## 経営学演習

田路 則子

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が選択した修士論文のテーマに関連した既存の学術論文のレビューを行う。これによって、テーマに関連した問題の何が解決され、何が解決されていない点であるかを明確にする。さらに、まだ解決されていない問題について、自分なりのアプローチで問題解決のための道筋を明らかにすることができる。

## 【到達目標】

修士論文の作成者が選択したテーマについて、その問題意識を明確にすることができる。関連した学術論文を読み、理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につけることができる。これによって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

論文作成の方法、選択した研究テーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて、議論を行いつつ、修士論文を仕上げていく。ZOOMによるリアルタイム講義と対面講義の併用となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
1 回目	修士論文作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの領域で検索の候補となりうる学術雑誌の紹介を行う。
2 回目	修士論文作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した最新の研究成果を実際に検索を行うことで見つける。
3 回目	研究テーマの選択①	修士論文としての研究テーマの妥当性、また何を明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討する。
4 回目	研究テーマの選択②	前回のコメントに基づく研究テーマの一層の検討。具体的には、比較的短期間で書き上げなければいけない修士論文の性質上、テーマを具体的に絞る。さらに、データの入手可能性を検討する。
5 回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い、それらの論文を批判的に検討する。
6 回目	先行研究のレビュー②	先行研究のレビューを継続すると主に、その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。

7 回目	先行研究のレビューとその評価	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかという点について議論する。
8 回目	問題意識の具体化	解明すべき問題と、解明するための方法について引き続き検討する。
9 回目	研究テーマの具体化	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき問題を明確にする。
10 回目	仮説の設定	前回設定した問題点に関連した文献を検討し、仮説を明確にする。
11 回目	仮説の設定②	設定した仮説について検討する。
12 回目	研究方法論について	研究領域で採用される可能性のある研究方法論について紹介する。
13 回目	研究方法論について	各研究方法論のメリットまたそれが有する固有のデメリットを明らかにする。
14 回目	研究方法の選択	受講者の設定した研究テーマや実現可能性を踏まえ研究方法を選択する。
15 回目	既存研究のレビュー	問題点を絞り込んだ上で、必要な論文をさらにレビューする。
16 回目	既存研究のレビュー	関連した論文を批判的にレビューする。
17 回目	データの入手方法	データの入手方法、質問票の作成、ケース研究の方法等の検討を続ける。
18 回目	データの整理	研究仮説のほか、予備的なデータに基づいた結果の報告を行い、それらについて議論する。
19 回目	データの整理、また質問票などの作成②	仮説を検証するにふさわしいデータを入手しそのデータを整理する。
20 回目	データの分析	入手したデータをもとに分析を行う。
21 回目	データの分析	前回のコメントに基づいて、一層のデータ分析を行う。
22 回目	本研究での発見事項	データ分析からどのようなことが言えるのかを報告し、それについて検討する。
23 回目	本研究での発見事項	前回の検討に基づいて、仮説との関連でどのような発見があるかを明確にする。
24 回目	論文へのコメント	論文の全体を示してもらい、それについてコメントを行う。
25 回目	修正された論文へのコメント	前回のコメントに基づいて必要な修正を行った論文を報告し検討する。
26 回目	全体の調整	論文全体の構成、またその内容を再度検討する。
27 回目	論文の評価	論文の修正を行うとともに、学術的な貢献を明らかにする。
28 回目	全体のまとめ	問題設定、仮説、方法論、データ入手方法、データから言えることを再度確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文の作成にあたって、次の点を事前に準備しておいてください。

1～2 回目 各自の問題意識に基づいて、関連した学術論文をいくつか探して読んでみる。

3～4 回目 各自の問題意識に基づいて、テーマの選定を行うとともに、この時点で何をどこまで明らかにしたいかをできるだけ明確にしておく。

5～7 回目 各自の設定した研究テーマに応じて、紹介したまた自分で入手した学術論文のレビューを行なうこと。

8～9 回目 先行研究のレビューを踏まえ、各自が解決すべき問題をより明確にできるようにすること。

10～11 回目 先行研究のレビューに基づき、修士論文で明らかにしたい問題についての仮説の設定を行う。

12～14 回目 これまでの文献で使用されてきた研究方法について検討すること。

15～16 回目 仮説との関連で、必要な論文のレビューを行うこと。

17～19 回目 データの入手方法を検討するとともに、実際にデータの収集・整理を行うこと。

20～21 回目 収集したデータについて自分なりの分析を行い、そこから何が言えるかを明らかにすること。

22～23 回目 自分の論文において明らかできた点また学術的な貢献を明確にすること。

24～28 回目 論文の作成、またコメントに基づく論文の加筆・修正を行う。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。各自の問題意識に基づき基本的な文献を紹介します。

#### 【参考書】

各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、議論の積極度 30 %および報告の内容 50 %で評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本講義は演習科目であるため授業改善アンケートは実施していません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

PC、統計ソフトウェア

#### 【専門領域】

経営戦略、技術経営

#### 【研究テーマ】

イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」

「ハイテク・スタートアップの起業プロセス」

「ハイテク産業集積のエコシステム」

#### 【主要業績】

①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年

②「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻号,pp172-184,2017 年.

③「IT ビジネスの興隆を支える移民のシリアル・アントレプレナー」田路則子・新谷優『研究技術計画』30 巻,pp.312-325,2016 年

④“Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287,2014

⑤『ハイテク産業における研究開発者のキャリア』田路則子『日本のキャリア論—専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著 白桃書房,pp.133～159,2013 年.

⑥「WEB ビジネスの起業家像—シリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号, pp.753-774,2011 年

⑦『ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社,2010 年

⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第 8 巻,5 号,pp211-231,2009 年

⑨『アーキテクチャ・イノベーション』田路則子, 白桃書房,2005 年

#### 【Outline and objectives】

The purpose of this module is to review existing scholarly articles related to the theme selected by each student for his or her master's thesis. During this process, students discern which issues have led to consistent conclusions over time and what the remaining problems for future research are. Moreover, students determine research avenues for approaching problems based on their own methods.

MAN600F1 - 0039

## 経営学演習

木村 純子

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。履修生は、実務的な問題意識を基にして、マーケティングに関する独自性の高い研究を行い、論文を作成する。

#### 【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表ができるレベルの完成度を目指す。到達目標として、以下の3点を目指します。  
①当該研究分野における既存研究に関する網羅的な文献探索ができることを目指します。  
②独自の斬新な仮説が導出できるようになることを目指します。  
③体系立てた調査設計と仮説の検証ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

Zoom 等を用いたオンライン演習を行う。

上記の目的に即して、大学院在籍のメンバーと共にゼミ形式で行う。毎回、修士論文に向けての報告と、それに関するディスカッションを行う。到達目標①については、研究の進捗状況を随時報告することにより、多角的な視点からのコメントに基づいて、漏れのないように進めます。到達目標②については、報告に基づくコメントに基づいて、毎回、仮説の修正を繰り返すことにより、より洗練させていくようにします。到達目標③については、基本的な市場調査のテキストに基づきながら、正確な調査と分析を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	問題意識の明確化①	論文のテーマに関する問題意識の重要性を指導
2	問題意識の明確化②	論文のテーマに関する問題意識の重要性を指導
3	先行研究の検討①	先行研究についての指導
4	先行研究の検討②	先行研究についての指導
5	先行研究の検討③	先行研究についての指導
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法についての指導
8	中間報告の準備	ゼミでの中間報告準備の指導
9	第1回中間報告	中間報告での指導
10	調査実施状況の確認①	調査状況に基づき指導
11	調査実施状況の確認②	調査状況に基づき指導
12	調査実施状況の確認③	調査状況に基づき指導
13	調査実施状況の確認④	調査状況に基づき指導
14	調査実施状況の確認⑤	調査状況に基づき指導
15	調査実施状況の確認⑥	調査状況に基づき指導
16	調査実施状況の確認⑦	調査状況に基づき指導
17	調査実施状況の確認⑧	調査状況に基づき指導
18	調査結果の検討①	調査結果に基づき指導
19	調査結果の検討②	調査結果に基づき指導
20	中間報告の準備	ゼミでの中間報告準備の指導
21	第2回中間報告	中間報告での指導
22	修士論文執筆の指導①	修士論文執筆の指導
23	修士論文執筆の指導②	修士論文執筆の指導
24	修士論文執筆の指導③	修士論文執筆の指導

25	修士論文執筆の指導④	修士論文執筆の指導
26	修士論文執筆の指導⑤	修士論文執筆の指導
27	修士論文執筆の指導⑥	修士論文執筆の指導
28	修士論文の最終確認	修士論文の最終指導

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

**【テキスト（教科書）】**

適宜、指定します。

**【参考書】**

適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

修士論文への取り組み姿勢ならびに修士論文内容における文献探索の網羅性、仮説の独創性、検証方法の妥当性を確認したうえで、修士論文の学術的貢献、実務への貢献、論理的一貫性などを基にして評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

初めての担当の為、学生からの意見はまだございませんので、学期が始まり授業の運営プロセスの中で改善等してまいります。

**【その他の重要事項】**

「マーケティング論」「マーケティング・リサーチ」「製品開発論」「国際マーケティング論」「消費者行動論」「流通論」「サービス・マネジメント論」を履修のこと

**【専門領域】**

地理的表示保護制度、農産物マーケティング

**【研究テーマ】**

農村開発、原産地呼称保護制度、イタリア

**【主要研究業績】**

- (1) 木村純子 (近刊) 「イタリア農業の底力：テリトリーに埋め込まれた農業活動による地域活性化」『イノベーション・マネジメント』Vol 18, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター.
- (2) 木村純子 (2021) 「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律 (地理的表示 (GI) 法)」野林厚志編『世界の食文化百科事典』丸善出版.
- (3) Kimura, Junko. & Rigolot, Cyrille. (2021) “The Potential of Geographical Indications (GI) to enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan: Overviews and insights from Mishima Potato GI Case Study,” Sustainability: Special Issue Geographical Indications, Public Goods, and Sustainable Development, 13(2), 961. DOI: <https://doi.org/10.3390/su13020961>

**【Outline and objectives】**

This class provides the skills required to write a master's thesis on marketing.

Students will gain skills for an academic methodology and marketing practices.

Major course objectives are;

- To get the knowledge in the area of consumer behavior and marketing strategy.
- To learn marketing methodology.
- To create original hypothesis.
- To get presentation skills required to communicate original ideas.
- To write a master's thesis.

MAN600F1 - 0039

**経営学演習**

安藤 直紀

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習では、国際経営に関連した修士論文を作成するための研究指導を行います。論文作成に必要な先行研究のレビュー、仮説の構築、データの収集、仮説の検証、検証結果の検討、論文の執筆等、論文作成に必要な各段階を指導します。

**【到達目標】**

学術的に見て価値の高い修士論文の完成を目指します。そのために、下のような到達目標を設定します。

- ①文献のレビューから、先行研究で行われてきたことを理解します。
- ②先行研究のレビューや理論に基づき、仮説を構築します。
- ③仮説検証に適切な方法でデータを収集し、分析をします。
- ④分析結果から理論的示唆及び実務的示唆を導出します。
- ⑤研究結果に基づき、修士論文を作成します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

この講義の形態は、オンライン形式とします。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム内の掲示板に掲載します。

先行研究のレビュー、仮説の構築、仮説検証方法のデザイン、データの収集、データの分析、分析結果の検討、論文の執筆という研究遂行の各段階において進捗状況を報告し、その内容や問題点について議論します。議論を通して方向性が見いだせるように個別に指導してまいります。

報告等は講義内に行い、それに対するフィードバックは講義内で行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****通年**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を策定する
2	リサーチ・プロポーザルの作成（1）	修士論文のテーマに関して議論する
3	リサーチ・プロポーザルの作成（2）	リサーチ・プロポーザルを行う
4	先行研究のレビュー（1）	先行研究を調査する
5	先行研究のレビュー（2）	先行研究の調査結果を報告する
6	先行研究のレビュー（3）	先行研究について議論し、テーマを再検討する
7	先行研究のレビュー（4）	先行研究の追加的な調査をする
8	先行研究のレビュー（5）	修士論文のテーマを洗練化する
9	仮説構築（1）	先行研究のレビュー結果を整理する
10	仮説構築（2）	仮説構築に必要な理論的基盤を考える
11	仮説構築（3）	仮説構築のために、追加的な先行研究のレビューを行う
12	仮説構築（4）	仮説を構築する
13	仮説検証方法の検討（1）	仮説検証に適切な研究方法を議論する

14	仮説検証方法の検討 (2)	データの収集方法を議論する
15	中間報告	これまでの進捗状況を報告する
16	仮説検証の遂行 (1)	データ収集の状況を報告する
17	仮説検証の遂行 (2)	データ分析の結果を報告する
18	仮説検証の遂行 (3)	分析結果を検討して、追加的な仮説検証のデザインを検討する
19	仮説検証の遂行 (4)	追加的なデータ収集及び分析を行う
20	仮説検証の遂行 (5)	これまでの分析を整理する
21	分析結果の検討 (1)	分析結果を報告する
22	分析結果の検討 (2)	分析結果を検討する
23	分析結果の検討 (3)	理論的及び実務的インプリケーションを導出する
24	修士論文作成 (1)	これまでの研究を整理し、修士論文の作成を始める
25	修士論文作成 (2)	追加的な先行研究のレビューを行う
26	修士論文作成 (3)	追加的な分析を行う
27	修士論文作成 (4)	追加的な分析を踏まえて、仮説検証結果を再検討する
28	修士論文作成 (5)	結果の再検討を踏まえて、論文を洗練化する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1～3 回 リサーチ・プロポーザルを作成する  
 4～8 回 先行研究の徹底的なレビューを行う  
 9～12 回 仮説を構築する  
 13～14 回 仮説の検証に適した方法を選択し、リサーチ・デザインを設計する  
 15 回 中間報告の準備を行う  
 16～20 回 仮説検証のためのデータ収集及びデータ分析を遂行する  
 21～23 回 分析結果を検討し、場合によっては追加的な分析を行う  
 24～28 回 修士論文を作成する

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

#### 【参考書】

Bailey, K.D. 2008. *Methods of Social Research* (4th ed.). Free Press: NY.  
 Yin, R.K. 2003. *Case Study Research: Design and Methods* (3rd ed.). Sage Publications: CA.

#### 【成績評価の方法と基準】

配分: 演習へのコントリビューション (100%)  
 演習へのコントリビューションには、研究の遂行状況、遂行状況の報告、ディスカッション等を含みます。

#### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当しません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際経営戦略

<研究テーマ>

多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁

<主要研究業績>

- ① Human capital, cultural distance and staffing localization. Forthcoming. *Multinational Business Review*.
- ② Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. Forthcoming. *Asian Business & Management*. (with Powell, K.S. and Lim, E.)
- ③ Intra-organizational communication and its consequences. 2019. *Management Decision*, 57(1): 71-85. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)

#### 【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to guide students to write a master's thesis in the area of international business. Students learn how to design research and conduct each step of the research such as literature review, hypothesis development, data collection, hypothesis testing, review of empirical results, and writing.

## 経営学演習

長岡 健

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、研究活動の実践を通じて、経営学（特に、人材・組織マネジメント）に関する研究を遂行するために必要な知識、スキル、考え方を学んでいく。受講者は教員の指導を受けながら主体的に研究活動に取り組み、その成果を修士論文として執筆する。

## 【到達目標】

経営学という学問分野における高水準な修士論文を執筆することを到達目標とする。具体的な学習目標は次の通り。

- (1) 研究テーマに関する高度な専門知識を幅広く持っている。
- (2) データ（質的データ／量的データ）を収集することができる。
- (3) データ（質的データ／量的データ）を分析することができる。
- (4) 分析結果について解釈・考察を行い、新たな知見を紡ぎ出すことができる。
- (5) 研究結果を論文としてまとめ、報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

少人数グループで zoom を使ったオンライン・ゼミを行い、その中で論文指導を行う。毎回のゼミにおいて、受講者は研究活動に関する進捗報告や、他の受講者とのグループ討議を行いながら、調査・分析、論文執筆に関する指導を受ける。ただし、学習者の関心領域と進捗状況に合わせて、柔軟な指導を行っていく。また、プロポーザル発表会（4月上旬）及び中間報告会（9月中旬）では、人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受け、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 通年

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善

第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究調査、データ収集、データ分析、解釈・考察、報告書（論文）の執筆という一連の研究活動については、基本的に各自が自主的に進めていく。授業では、各自が時間外に進めている研究について報告を行う。

## 【テキスト（教科書）】

- (1) 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社
- (2) 伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣
- (3) 研究進捗状況等に合わせて適宜提示する

## 【参考書】

- (1) 中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社
- (2) 松尾睦『経験からの学習』同文館出版
- (3) ロビンス、S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
- (4) 研究進捗状況等に合わせて適宜提示する

## 【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業への参画度：25%  
【評価基準】出席頻度／議論での積極性／授業への貢献度
- (2) 研究活動を通じての学習成果：25%  
【評価基準】テーマに関する知識習得／調査スキルの習得
- (3) 修士論文の内容評価：50%  
【評価基準】議論内容／構成の妥当性／新規性／進歩性／明快性

## 【学生の意見等からの気づき】

- (1) 研究方法論に関する学習指導を丁寧に行う。
- (2) 学生同士のグループ討議を積極的に行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom（web 会議システム）を使ったオンライン指導用の機器と環境は各自で準備する。
- (2) 資料配布・課題提出等に「学習支援システム」を利用する。

## 【その他の重要事項】

- (1) 今年度は基本的にオンライン（web 会議システム）で論文指導を行う。
- (2) 受講者の人数、関心、研究の進捗を勘案し、受講者と相談の上で、指導の内容や進め方を修正する場合がある。

## 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

組織社会学、経営学学習論、質的調査法

〈研究テーマ〉

組織と学習、組織エスノグラフィー、創造的なコラボレーションのデザイン

〈主要研究業績〉

- 『ダイアログ 対話する組織』（共著）  
『企業内人材育成入門』（共著）  
『越境する対話と学び』（共著）

〈ウェブサイト〉

<http://www.tnlab.net/>

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is to write a dissertation for the degree of MBA. For this purpose, you will learn the basics of research such as reviewing relevant studies, collecting data, analyzing data, and reporting the output.

MAN600F1 - 0039

経営学演習

永山 晋

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、人材・組織マネジメント領域、とりわけに創造性やイノベーション、計算社会科学に関わるテーマの修士論文の作成とこれを通じた当該分野における研究作法の習得を目的とする。

【到達目標】

「その学問分野に触れていない人が聞いても面白く、学術的にも高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とする。具体的には、①創造性・イノベーション、計算社会科学の観点に即して研究テーマを絞り込む、②研究テーマに関連する先行研究を探索し、批判的に読み込み、論点を整理する、③先行研究を踏まえて、自らの研究課題、仮説を具体的に設定する、④課題・仮説を検証するための調査方法を検討し、選択した方法に則って調査を実施する、⑤収集したデータを分析し、課題・仮説の検証を行う、⑥研究成果の学術的・実践的意義およびその限界について検討する、⑦分析結果を論文として論理的にまとめる、⑧以上について、口頭での説明や他者との意見交換、が必要となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

Zoom等を用いたりリアルタイム講義を行う。履修者の人数、研究テーマ、研究方法、進捗度合等に応じて、指導スタイルが変わるが、基本的には、個別ではなく修論執筆予定の学生全員参加の形式で、各々の研究進捗報告をベースに進める。したがって人数分の資料準備が求められる。場所や時間帯はある程度融通を持たせ、週末や平日の時間帯等を利用して行う。この他に、4月上旬のプロポーザル発表会（1～2日）、9月の中間報告会では、人材・組織マネジメントコース全教員からの指導を受けることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会が設けられている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業運営や参加ルールの説明、および修論執筆計画の年間計画について
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告

第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的には毎回、各自の報告をベースに進める。報告内容は進捗によって異なるが、研究計画書の作成、先行研究の検討状況、分析方法の自学自習、質問票や聞き取りガイドラインの作成、分析結果のまとめ、論文の目次や文献表など、適宜指示を行う。

#### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は用いない。当該授業向けのシラバスおよび論文執筆要綱を配布する。

#### 【参考書】

その都度必要な内容に応じて指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業参加時の報告内容、進捗状況などの平常点：50点  
修士論文の出来：50点

#### 【学生の意見等からの気づき】

留学生も含まれるため、出来るだけ明確な日本語で指導を行う。

#### 【学生が準備すべき機器他】

プログラミングなどに使用するパソコンを持参すること。参加者人数分の各自の報告資料。データ共有時や執筆原稿などの量が多くなる場合は事前にメール等で共有すること。なお、必要なら指導内容を録音してよいが、その際は申し出ること。

#### 【担当教員の専門領域等】

<専門領域>

経営組織論、計算社会科学

<研究テーマ>

創造性

<主要研究業績>

永山晋（2017）「日本企業の生産性は本当に低いのか：1321社に基づく提言」『DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー』7月号、ダイヤモンド社、pp.72-86、

#### 【Outline and objectives】

This seminar aims to develop your academic skills to study creativity, innovation, and computational social science in order to write up your master thesis in these fields.

## 経営学演習

戎谷 梓

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、修士論文作成のための研究指導を行う。受講者は、論文作成に必要な先行研究のレビュー、リサーチクエスションの構築、データの収集、適切で客観的なデータ分析と考察の各段階を通して、修士論文の完成を目指す。

#### 【到達目標】

- (1) 研究に必要な資料の収集ができ、適切に先行研究をレビューできる。
- (2) 先行研究のレビューに基づき、オリジナルのリサーチ・クエスションを立てることができる。
- (3) リサーチ・クエスションへの答えを得るために行うべき調査方法やデータ収集方法を特定し、実施することができる。
- (4) 収集したデータを効果的に分析し、リサーチ・クエスションへの答えを導くための考察を行うことができる。
- (5) 修士論文を完成させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

少人数のゼミ形式で体系的に研究指導を行う。毎回、受講者が各自の研究活動に関する進捗報告を行い、他の受講者とのディスカッションや教員からの指導を通して調査・分析、論文執筆を進めていく。なお本授業は当面の間、新型コロナウイルスの感染リスクへ配慮してZoomによるリアルタイムでのオンライン授業の形式で実施します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	コース・イントロダクション	-研究指導の進め方について確認する。 -修士論文執筆の年間計画を立てる。
2	先行研究のレビュー（1）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカッションを行う。
3	先行研究のレビュー（2）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカッションを行う。
4	先行研究のレビュー（3）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカッションを行う。
5	先行研究のレビュー（4）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカッションを行う。
6	先行研究のレビュー（5）	-受講者各自の研究テーマに関連する先行研究のレビューを行う。 -受講者同士でディスカッションを行う。

7	リサーチ・クエスチョンの構築（1）	-受講者各自の研究内容に基づき、先行研究で明らかにされていることとこれから明らかにされるべきこととを整理する。 -修士課程の研究で明らかにしたい点を見極め、クエスチョンを立てる。	22	考察（4）	-受講者各自の調査から抽出した新規の知見を挙げ、論じる。 -リサーチ・クエスチョンへの答えをまとめる。 -本研究の意義をまとめる。
8	リサーチ・クエスチョンの構築（2）	-受講者各自の研究内容に基づき、先行研究で明らかにされていることとこれから明らかにされるべきこととを整理する。 -修士課程の研究で明らかにしたい点を見極め、クエスチョンを立てる。	23	修士論文の執筆（1）	-研究テーマに沿った、論理的で読みやすい論文を執筆する。 -研究論文を執筆する際のルールやマナーをマスターする。
9	調査方法の構築（1）	-リサーチ・クエスチョンへの回答を得るために行うべき調査を見極める。 -調査の内容や実施方法を整理する。	24	修士論文の執筆（2）	-研究テーマに沿った、論理的で読みやすい論文を執筆する。 -研究論文を執筆する際のルールやマナーをマスターする。
10	調査方法の構築（2）	-リサーチ・クエスチョンへの回答を得るために行うべき調査を見極める。 -調査の内容や実施方法を整理する。	25	修士論文の執筆（3）	-研究テーマに沿った、論理的で読みやすい論文を執筆する。 -研究論文を執筆する際のルールやマナーをマスターする。
11	調査方法の構築（3）	-リサーチ・クエスチョンへの回答を得るために行うべき調査を見極める。 -調査の内容や実施方法を整理する。	26	修士論文の執筆（4）	-研究テーマに沿った、論理的で読みやすい論文を執筆する。 -研究論文を執筆する際のルールやマナーをマスターする。
12	調査の実施（1）	-受講者各自が計画した調査を実施する。 -収集したデータを整理する。	27	修士論文の発表準備（1）	-受講者各自の研究内容を適切かつ効果的にプレゼンテーションするための準備を行う。 -模擬発表を行い、受講者同士で改善点についてコメントし合う。
13	調査の実施（2）	-受講者各自が計画した調査を実施する。 -収集したデータを整理する。	28	修士論文の発表準備（2）	-受講者各自の研究内容を適切かつ効果的にプレゼンテーションするための準備を行う。 -模擬発表を行い、受講者同士で改善点についてコメントし合う。
14	調査の実施（3）	-受講者各自が計画した調査を実施する。 -収集したデータを整理する。			
15	データ分析（1）	-収集し整理したデータと向き合い、適切な分析方法を見極める。 -効果的な視点でデータを分析する。			
16	データ分析（2）	-収集し整理したデータと向き合い、適切な分析方法を見極める。 -効果的な視点でデータを分析する。			
17	データ分析（3）	-収集し整理したデータと向き合い、適切な分析方法を見極める。 -効果的な視点でデータを分析する。			
18	データ分析（4）	-収集し整理したデータと向き合い、適切な分析方法を見極める。 -効果的な視点でデータを分析する。			
19	考察（1）	-受講者各自の調査から抽出した新規の知見を挙げ、論じる。 -リサーチ・クエスチョンへの答えをまとめる。 -本研究の意義をまとめる。			
20	考察（2）	-受講者各自の調査から抽出した新規の知見を挙げ、論じる。 -リサーチ・クエスチョンへの答えをまとめる。 -本研究の意義をまとめる。			
21	考察（3）	-受講者各自の調査から抽出した新規の知見を挙げ、論じる。 -リサーチ・クエスチョンへの答えをまとめる。 -本研究の意義をまとめる。			

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

受講者の関連研究の文献探索やデータ収集のための調査対象への依頼、データ分析、執筆活動等は各受講者が授業時間外に行うものとする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。

**【参考書】**

必要に応じてその都度、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

進捗状況の報告：40%

ディスカッションへの参加：30%

模擬発表：30%

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート対象外につき該当なし

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

国際人的資源管理

<研究テーマ>

多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理

<主要研究業績>

(1)Ebisuya, A., & Hettiarachchi, G. P. (2020). Role of the process model in aligning mental models in global virtual teams. *The Hosei Journal of Business*, 57(3): 37-46.

(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., & Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring. *Management International Review*, 59(5): 825-853.

(3)Liu, T., Ebisuya, A., & Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. *Proceedings of Academy of International Business 2019*.

## 【Outline and objectives】

This course will provide research guidance for writing a master's thesis. Students will aim to complete their master's thesis through the steps of reviewing previous research, building research questions, collecting data, and appropriate data analysis.

MAN600F1 - 0042

## 企業家養成演習

金 容度

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

## 【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に1時間40分（100分間）、あるいは、隔週土曜日に3時間20分（200分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、春学期は、基本文献の輪読の比重が高い。7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	プロポーザルの作成指導(1)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を検討する。
第3回	プロポーザルの作成指導(2)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を確定する。
第4回	先行研究の調査、報告、議論(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第5回	先行研究の調査、報告、議論(2)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第6回	先行研究の調査、報告、議論(3)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第7回	先行研究の調査、報告、議論(4)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第8回	先行研究の調査、報告、議論(5)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第9回	先行研究の調査、報告、議論(6)	先行研究の調査を踏まえて、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究の調査、報告、議論(7)	前回の議論を、さらに深める。
第11回	中間発表会準備(1)	企業家養成コースで行われる中間発表会の準備を行う。
第12回	中間発表会準備(2)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備をさらに進める。
第13回	中間発表会準備(3)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備を完成させる。
第14回	中間発表後の改善案検討	中間発表会の時に受けたコメントを論文作成に反映するための案をまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

## 【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）。

## 【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が50%、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が50%である。

発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

## 【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

## 【学生が準備すべき機器他】

無し。

## 【その他の重要事項】

当面は対面による授業は行わず、zoom等のオンライン会議ソフトを使用する。ただし、進め方は感染状況によって変化する可能性がある。

## 【Outline and objectives】

The objectives of Seminar on Entrepreneur Training is to complete to write a dissertation for master's degree.

MAN600F1 - 0042

## 企業家養成演習

## 金 容 度

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

## 【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に1時間40分（100分間）、あるいは、隔週土曜日に3時間20分（200分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期は、修士論文の指導のウェイトが高い。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	仮説の検討と調査計画の確定(1)	修士論文の仮説を検討し、今後の調査計画についても検討を行う。
第2回	仮説の検討と調査計画の確定(2)	教員の助言を受けて、仮説と調査計画を確定する。
第3回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討(1)	調査の依頼状況を報告し、助言を受ける。
第4回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討(2)	調査の依頼状況と、実施済みの調査の結果を報告し、助言を受ける。
第5回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討(3)	調査結果を報告し、助言を受ける。
第6回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討(4)	調査の依頼・実施状況を確認し、今後の方針を確定する。
第7回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討(5)	調査結果および分析結果の報告・ディスカッションを行う。
第8回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討(6)	調査結果および分析結果についてディスカッションを行い、修士論文のアウトラインを確定する。
第9回	修士論文執筆のチェックと助言(1)	修士論文執筆状況のチェックと、内容に関するディスカッションを行う。
第10回	修士論文執筆のチェックと助言(2)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加された内容に関するディスカッションを行う。
第11回	修士論文執筆のチェックと助言(3)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関するディスカッションを行う。
第12回	修士論文執筆のチェックと助言(4)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関する追加のディスカッションを行う。

- 第13回 修士論文執筆のチェックと助言(5) 修士論文執筆が完一通り完了したことを確認し、修正された内容に関するディスカッションを行う。
- 第14回 修士論文の最終チェック 修士論文の内容に関して最終的なチェックを行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは用いない。

**【参考書】**

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）。

**【成績評価の方法と基準】**

成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が50%、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が50%である。

発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

**【学生の意見等からの気づき】**

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

**【学生が準備すべき機器他】**

無し。

**【その他の重要事項】**

当面は対面による授業は行わず、zoom等のオンライン会議ソフトを使用する。ただし、進め方は感染状況によって変化する場合がある。

**【Outline and objectives】**

The objectives of Seminar on Entrepreneur Training is to complete to write a dissertation for master's degree.

MAN600F1 - 0042

**企業家養成演習**

**近能 善範**

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

**【到達目標】**

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に90分間、あるいは、隔週土曜日に3時間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェイトが高まる。

毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先論文について検討する
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。

第 11 回	先行研究のレビュー (6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 12 回	中間発表会の準備 (1)	中間発表のための報告スライドの準備
第 13 回	中間発表会の準備 (2)	中間発表のための報告スライドの準備
第 14 回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから新たに論文を再構成

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外におこなう。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

#### 【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）を参照のこと

#### 【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、出席（50%）、発表・報告（50%。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）である。発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし

#### 【その他の重要事項】

当面は対面による授業は行わず、zoomを使用し、遠隔で開催する。

#### 【Outline and objectives】

This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop MA thesis.

MAN600F1 - 0042

## 企業家養成演習

### 近能 善範

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

#### 【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に90分間、あるいは、隔週土曜日に3時間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェイトが高まる。

毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告
第 2 回	調査ノートの作成 (1)	調査計画の策定
第 3 回	調査ノートの作成 (2)	調査の実施とデータの収集、成果報告
第 4 回	調査ノートの作成 (3)	調査の実施とデータの収集、成果報告。
第 5 回	調査ノートの作成 (4)	調査データの分析と成果報告。
第 6 回	論文の執筆と課題の確認 (1)	論文の執筆、添削
第 7 回	論文の執筆と課題の確認 (2)	論文の執筆、添削
第 8 回	論文の執筆と課題の確認 (3)	論文の執筆、添削、再構成
第 9 回	論文の執筆と課題の確認 (4)	論文の執筆、添削、再構成
第 10 回	論文の執筆と課題の確認 (5)	論文の執筆、添削、再構成
第 11 回	論文の執筆と課題の確認 (6)	論文の執筆、添削、再構成
第 12 回	論文の完成に向けた調整 (1)	論理の整合性の確認
第 13 回	論文の完成に向けた調整 (2)	論理の整合性の確認
第 14 回	最終報告会	完成論文のグループ内報告

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外におこなう。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

**【参考書】**

『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと

**【成績評価の方法と基準】**

成績の評価基準は、出席(50%)、発表・報告(50%)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む)である。発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

**【学生の意見等からの気づき】**

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

**【学生が準備すべき機器他】**

なし

**【その他の重要事項】**

当面は対面により授業は行わず、zoomを使用し、遠隔で開催する。

**【Outline and objectives】**

This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop MA thesis.

MAN600F1 - 0042

**企業家養成演習**

福島 英史

実務教員：

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

**【到達目標】**

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に90分間、あるいは、隔週土曜日に3時間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の講読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェイトが高まる。

毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先論文について検討する
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。

- 第 11 回 先行研究のレビュー (6) 修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
- 第 12 回 中間発表会の準備 (1) 中間発表のための報告スライドの準備
- 第 13 回 中間発表会の準備 (2) 中間発表のための報告スライドの準備
- 第 14 回 中間発表後のフィードバック 中間発表会のコメントから新たに論文を再構成

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外におこなう。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

#### 【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）を参照のこと

#### 【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、出席（50%）、発表・報告（50%。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）である。発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし

#### 【その他の重要事項】

当面は対面による授業は行わず、zoomを使用し、遠隔で開催する。

#### 【Outline and objectives】

This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop MA thesis.

MAN600F1 - 0042

## 企業家養成演習

福島 英史

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

#### 【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に90分間、あるいは、隔週土曜日に3時間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の講読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェイトが高まる。

毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画の策定
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施とデータの収集、成果報告
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施とデータの収集、成果報告。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査データの分析と成果報告。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆、添削
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆、添削
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆、添削、再構成
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆、添削、再構成
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆、添削、再構成
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆、添削、再構成
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性の確認
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性の確認
第14回	最終報告会	完成論文のグループ内報告

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外におこなう。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと

【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、出席(50%)、発表・報告(50%)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む)である。発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

当面は対面により授業は行わず、zoomを使用し、遠隔で開催する。

【Outline and objectives】

This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop MA thesis.

MAN600F1 - 0042

企業家養成演習

二階堂 行宣

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に90分間、あるいは、隔週土曜日に3時間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェイトが高まる。

毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先論文について検討する
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。

第 11 回	先行研究のレビュー (6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 12 回	中間発表会の準備 (1)	中間発表のための報告スライドの準備
第 13 回	中間発表会の準備 (2)	中間発表のための報告スライドの準備
第 14 回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから新たに論文を再構成

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外におこなう。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

#### 【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）を参照のこと

#### 【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、出席（50%）、発表・報告（50%。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）である。発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし

#### 【その他の重要事項】

当面は対面によらず授業は行わず、zoom を使用し、遠隔で開催する。

#### 【Outline and objectives】

This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop MA thesis.

MAN600F1 - 0042

## 企業家養成演習

### 二階堂 行宣

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

#### 【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に90分間、あるいは、隔週土曜日に3時間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェイトが高まる。

毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告
第 2 回	調査ノートの作成 (1)	調査計画の策定
第 3 回	調査ノートの作成 (2)	調査の実施とデータの収集、成果報告
第 4 回	調査ノートの作成 (3)	調査の実施とデータの収集、成果報告。
第 5 回	調査ノートの作成 (4)	調査データの分析と成果報告。
第 6 回	論文の執筆と課題の確認 (1)	論文の執筆、添削
第 7 回	論文の執筆と課題の確認 (2)	論文の執筆、添削
第 8 回	論文の執筆と課題の確認 (3)	論文の執筆、添削、再構成
第 9 回	論文の執筆と課題の確認 (4)	論文の執筆、添削、再構成
第 10 回	論文の執筆と課題の確認 (5)	論文の執筆、添削、再構成
第 11 回	論文の執筆と課題の確認 (6)	論文の執筆、添削、再構成
第 12 回	論文の完成に向けた調整 (1)	論理の整合性の確認
第 13 回	論文の完成に向けた調整 (2)	論理の整合性の確認
第 14 回	最終報告会	完成論文のグループ内報告

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外におこなう。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと

【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、出席(50%)、発表・報告(50%)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む)である。発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

当面は対面により授業は行わず、zoomを使用し、遠隔で開催する。

【Outline and objectives】

This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop MA thesis.

MAN600F1 - 0042

企業家養成演習

稲垣 京輔

実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本演習では、夜間修士課程(企業家養成コース)の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に90分間、あるいは、隔週土曜日に3時間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェイトが高まる。

毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テーマの選定(1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第2回	テーマの選定(2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む
第3回	テーマの選定(3)	修士論文のテーマに関する先論文について検討する
第4回	プロポーザルの作成(1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第5回	プロポーザルの作成(2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第6回	先行研究のレビュー(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第7回	先行研究のレビュー(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第8回	先行研究のレビュー(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第9回	先行研究のレビュー(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第10回	先行研究のレビュー(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。

- 第 11 回 先行研究のレビュー (6) 修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
- 第 12 回 中間発表会の準備 (1) 中間発表のための報告スライドの準備
- 第 13 回 中間発表会の準備 (2) 中間発表のための報告スライドの準備
- 第 14 回 中間発表後のフィードバック 中間発表会のコメントから新たに論文を再構成

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外におこなう。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

#### 【参考書】

『研究成果集』（毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集）を参照のこと

#### 【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、出席（50%）、発表・報告（50%）。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）である。発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし

#### 【その他の重要事項】

当面は対面による授業は行わず、zoom等のオンライン会議ソフトを使用する。ただし、進め方は担当指導教員や感染状況によって変化する可能性がある。

#### 【Outline and objectives】

This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop MA thesis.

MAN600F1 - 0042

## 企業家養成演習

稲垣 京輔

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、夜間修士課程（企業家養成コース）の2年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

#### 【到達目標】

実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に90分間、あるいは、隔週土曜日に3時間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェイトが高まる。

毎年7月には、企業家養成コースの2年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。

なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告
第2回	調査ノートの作成(1)	調査計画の策定
第3回	調査ノートの作成(2)	調査の実施とデータの収集、成果報告
第4回	調査ノートの作成(3)	調査の実施とデータの収集、成果報告。
第5回	調査ノートの作成(4)	調査データの分析と成果報告。
第6回	論文の執筆と課題の確認(1)	論文の執筆、添削
第7回	論文の執筆と課題の確認(2)	論文の執筆、添削
第8回	論文の執筆と課題の確認(3)	論文の執筆、添削、再構成
第9回	論文の執筆と課題の確認(4)	論文の執筆、添削、再構成
第10回	論文の執筆と課題の確認(5)	論文の執筆、添削、再構成
第11回	論文の執筆と課題の確認(6)	論文の執筆、添削、再構成
第12回	論文の完成に向けた調整(1)	論理の整合性の確認
第13回	論文の完成に向けた調整(2)	論理の整合性の確認
第14回	最終報告会	完成論文のグループ内報告

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外におこなう。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

## 【参考書】

『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)を参照のこと

## 【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は、出席(50%)、発表・報告(50%)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む)である。発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

## 【学生の意見等からの気づき】

本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし

## 【その他の重要事項】

「当面は対面による授業は行わず、zoom等のオンライン会議ソフトを使用する。ただし、進め方は担当指導教員や感染状況によって変化する可能性がある。

## 【Outline and objectives】

This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop MA thesis.

MAN500F1 - 0043

## ワークショップ(企業家養成)

稲垣 京輔

実務教員：

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

企業家養成ワークショップは、第一線で活躍されている経営者、企業家をお招きして、設定したテーマに関する講演とその後の質疑応答やディスカッションを通じて、企業家活動についての理解を深めます。2021年度のテーマは「事業の再構築」です。

## 【到達目標】

企業や事業を起こされた経緯や動機と、そのときの苦労や問題点、現在までに実際に直面した経営上の問題点や課題とその解決方法などについて経営者、企業家の講演と、その後の質疑応答やディスカッションを通じて、企業家と構想と事業の構築・成長・再生の関連を説明できるようになることが本ワークショップ授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

当面はオンラインで開講します。初回授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムまたは同システムに登録されているメールアドレス宛メールを参照してください。

今年度のワークショップは、新たな企業を立ち上げた経営者はもちろん、既存企業内で新規事業を立ち上げた方、スタートアップ企業の支援に携わる方など、多彩な「企業家」をゲスト・スピーカーとしてお招きしてお話をうかがい、その後に質疑応答やディスカッションを行うことによって、「企業家活動」についての理解を深めます。ワークショップでは、学生が積極的に質問して、ゲスト・スピーカーの生の声を聞き出すようにして下さい。なお、ワークショップで学んだことを課題レポートとして、次週までに提出していただきます。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション①	授業の概要と進め方等の説明
第2回	イントロダクション②	ゲスト・スピーカーの概要等についての説明
第3回	ゲスト・スピーカー①	「事業の再構築」に関するゲスト・スピーカー①の講演
第4回	ゲスト・スピーカー①	ゲスト・スピーカー①との質疑応答、ディスカッション
第5回	ゲスト・スピーカー②	「事業の再構築」に関するゲスト・スピーカー②の講演
第6回	ゲスト・スピーカー②	ゲスト・スピーカー②との質疑応答、ディスカッション
第7回	ゲスト・スピーカー③	「事業の再構築」に関するゲスト・スピーカー③の講演
第8回	ゲスト・スピーカー③	ゲスト・スピーカー③との質疑応答、ディスカッション
第9回	ゲスト・スピーカー④	「事業の再構築」に関するゲスト・スピーカー④の講演
第10回	ゲスト・スピーカー④	ゲスト・スピーカー④との質疑応答、ディスカッション
第11回	ゲスト・スピーカー⑤	「事業の再構築」に関するゲスト・スピーカー⑤の講演
第12回	ゲスト・スピーカー⑤	ゲスト・スピーカー⑤との質疑応答、ディスカッション
第13回	ゲスト・スピーカー⑥	「事業の再構築」に関するゲスト・スピーカー⑥の講演

- 第14回 ゲスト・スピーカー⑥ ゲスト・スピーカー⑥との質疑応答、ディスカッション
- 第15回 ゲスト・スピーカー⑦ 「事業の再構築」に関するゲスト・スピーカー⑦の講演
- 第16回 ゲスト・スピーカー⑦ ゲスト・スピーカー⑦との質疑応答、ディスカッション
- 第17回 ゲスト・スピーカー⑧ 「事業の再構築」に関するゲスト・スピーカー⑧の講演
- 第18回 ゲスト・スピーカー⑧ ゲスト・スピーカー⑧との質疑応答、ディスカッション
- 第19回 ゲスト・スピーカー⑨ 「事業の再構築」に関するゲスト・スピーカー⑨の講演
- 第20回 ゲスト・スピーカー⑨ ゲスト・スピーカー⑨との質疑応答、ディスカッション
- 第21回 ゲスト・スピーカー⑩ 「事業の再構築」に関するゲスト・スピーカー⑩の講演
- 第22回 ゲスト・スピーカー⑩ ゲスト・スピーカー⑩との質疑応答、ディスカッション
- 第23回 ゲスト・スピーカー11 「事業の再構築」に関するゲスト・スピーカー11の講演
- 第24回 ゲスト・スピーカー11 ゲスト・スピーカー11との質疑応答、ディスカッション
- 第25回 ディスカッション① ゲスト・スピーカー①～⑤についての振り返りとディスカッション
- 第26回 ディスカッション② ゲスト・スピーカー⑥～11についての振り返りとディスカッション
- 第27回 まとめ① 「事業の再構築」についてのまとめとディスカッション
- 第28回 まとめ② 授業のまとめ

The main topic of Workshop in Entrepreneurship in 2019 is the "Entrepreneurs' Conception of Business".

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。  
インターネット等を使って、事前にゲスト・スピーカーやその企業について調べておくこと。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しません。

#### 【参考書】

参考書は特に使用しませんが、ゲスト・スピーカーが執筆した著書等があれば、第1回目の授業で紹介しします。

#### 【成績評価の方法と基準】

配分：レポート提出（50%）、出席およびディスカッションへの貢献（50%）

評価基準：単位取得のためには、6回以上のレポート提出が求められます。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、特に無し。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

#### 【その他の重要事項】

ゲスト・スピーカーや具体的な講義スケジュールは、第1回目の授業で説明します。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>経営組織論、組織社会学

<研究テーマ>成熟産業における企業家活動とイノベーション、組織変革活動に関する研究

<主要研究業績>① "Collaborative Relationships Developing in Cluster Management", in Boari C., Elfring T., Molina F.X., Entrepreneurship and cluster dynamics, 2016 Rutledge.

② 「中小製造業経営者にみる協働組織の形成と協働関係を構築する能力に関する研究」RIETI Discussion Paper Series(独立行政法人経済産業研究所), 13-J-021, 1-36, 2013.

③ 『イタリアの起業家ネットワーク』白桃書房、2003.

#### 【Outline and objectives】

In Workshop in Entrepreneurship, ten entrepreneurs lecture on their experience and thinking as well as discuss specific topics on the lectures with participants of workshop. The objective of this workshop is to acquire the ability to see through the essence of entrepreneurship.

## 企業家史

## 二階堂 行宣

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この授業は、市場経済の均衡を破壊・創造する力を持つ「革新」の遂行者である企業家に注目することで、経済発展の長期的なダイナミズムを考察することを目的とする。

・J. シュンペーターは『経済発展の理論』（1912年）において、企業家を「創造的破壊」による「新結合」の実現者と定義し、企業家の「革新」行動によって均衡状態が攪乱されることで経済発展のダイナミズムが生じるとした。さらにA. H. コールらは、企業家の非連続的・飛躍的側面だけでなく、連続的・漸進的な側面にも注目し、均衡から不均衡を創り出すこと（創造的破壊）だけでなく、不均衡から均衡に向かう過程（競争）によって経済発展が生み出されると論じた。

・こうした企業家をめぐる理論・仮説は、実際の歴史の中でどのように観察されるのだろうか。この授業では、企業家の革新行動とその定着過程としての企業発展を、具体的な事例に基づきながら、長期の歴史的な文脈の中で考えていきたい。

## 【到達目標】

・近現代日本の経済・経営発展の歴史について知識を習得し、企業家活動の前提となるそれぞれの時代の経済環境を、明確に把握する。

・その上で、企業家がある時代背景と外部環境の中で、どこにビジネス・チャンスを見出し、それをいかにして掴もうとしたのか、ケース・スタディを用いながら考える。

・以上を通して、長期的な視野にもとづく戦略的行動とは何かを学び、歴史的な思考様式を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

・現時点では、以下のような授業運営方法を想定している。

①学習支援システムから教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。

②学習の到達度を確認するため、定期的に対面またはWeb上でディスカッションを実施する。その際、参加者は自身の論点や疑問点を明確にしたレジュメを用意する。

③最終評価にあたっては、特定の起業家に関するレポートを提出していただくことを想定している。

・初回授業（4月7日を予定）の際に、参加者の確定と、授業のスケジュールを決定する。履修希望の学生は必ず出席すること。

・授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・企業家分析への歴史的視点
第2回	幕末維新期の経営	・概説：幕末維新期の日本経済
第3回	幕末維新期の経営	・新興商人の登場 ・遠隔地交易の活性化
第4回	明治前期の経営	・概説：明治前期の日本経済
第5回	明治前期の経営	・政商の登場 ・「大店」の明治維新 ・企業家活動の組織化
第6回	産業革命期の経営	・概説：日本の産業革命
第7回	産業革命期の経営	・専門経営者の台頭 ・地方からの産業革命

第8回 第一次世界大戦期の経営  
・概説：第一次大戦ブーム

第9回 第一次世界大戦期の経営  
・大戦ブームと商社  
・好況時のリスク管理

第10回 両大戦間期の経営  
・概説：1920～30年代の日本経済

第11回 両大戦間期の経営  
・都市型産業の登場  
・新興コンサルティングの成長

第12回 戦後復興期～高度経済成長期の経営  
・概説：戦時統制経済から戦後改革へ  
・概説：高度経済成長と大衆消費社会

第13回 戦後復興期～高度経済成長期の経営  
・流通革命  
・東海道新幹線

第14回 授業内容の復習  
・ケース・スタディをふまえ、近現代日本の企業家活動の特徴について議論する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2～3時間を標準とする。

・授業内容をふまえたディスカッションでは、積極的に発言することが求められる。

## 【テキスト（教科書）】

・使用しない。

## 【参考書】

- ①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』有斐閣、2004年。
- ②宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎『日本経営史 [新版]』有斐閣、2007年。
- ③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』東京大学出版会、2010年。
- ④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣、2011年。
- ⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第3版）』東京大学出版会、2012年。
- ⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』名古屋大学出版会、2012年。
- ⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』中央公論新社、2013年。
- ⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』有斐閣、2016年。
- ⑨武田晴人『日本経済史』有斐閣、2019年。

## 【成績評価の方法と基準】

・現時点では、①定期的実施されるディスカッションでの発言・資料内容、②最終レポートの内容、の2点で評価することを想定している。

・成績評価の際は、企業家に関する知識の習得よりも、企業家活動を長期的・俯瞰的視野から体系化し、歴史的に位置づける能力を重視する。

## 【学生の意見等からの気づき】

・単なる「企業家列伝」のような授業は行わないことを心がけたい。

・むしろ、近現代の政治史・経済史の流れをふまえ、各時代の企業家をその流れの中に位置づけることで、経済・経営発展のダイナミズムを理解することに重点を置く。

## 【学生が準備すべき機器他】

・なし

## 【その他の重要事項】

・定期的なディスカッションは、可能な限り教室での対面形式で実施する予定である。ただし、感染状況や受講者の希望によっては、Web上でのディスカッションに切り替える可能性がある。

・初回授業は、4月7日（水）の18時半より実施する。現時点では、教室での確認すること。

・初回授業では、授業の概要説明、参加者の確定、授業スケジュールの決定を予定している。履修希望の学生は必ず出席すること。

・ゼミ形式という授業の性格上、参加者数は最大でも8名程度を想定している。そのため、履修登録に際しては、企業家養成コースの学生を優先する場合がある。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

- ・日本経営史
- ・日本経済史

<研究テーマ>

- ・鉄道事業経営と運輸政策に関する歴史研究

・オーラル・ヒストリー

<主要研究業績>

・二階堂行宣（2020）「三陸鉄道をめぐる危機と希望—地域公共交通経営の普遍性・特殊性—」『地域の危機・釜石の対応』東京大学出版会。

・二階堂行宣（2020）「日本国有鉄道と東海道新幹線—計画期における組織内業務運営とマネジメント—」『経営志林』第56巻第4号。

・二階堂行宣（2017）「陸運業の展開」『日本経済の歴史4（近代2）』岩波書店。

・二階堂行宣（2015）「戦間期鉄道貨物輸送システムの形成」『経営史学』49巻4号。

・二階堂行宣（2014）「鉄道貨物輸送における設備・営業業務の形成」『鉄道史学』32号。

#### 【Outline and objectives】

・The purpose of this course is to look at the long-term dynamism of economic development by paying attention to entrepreneurs who are the performers of "innovation" with the power to destroy and create the equilibrium of market economy.

・In this lesson, I would like to consider the innovative behavior of entrepreneurs and the development of enterprises as a process of consolidation based on concrete examples in a long-term historical context.

MAN500F1 - 0046

## 経営戦略論

吉田 健二

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

#### 【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

この授業は、ハイフレックス授業形式で行います。対面授業をオンラインでもリアルタイムで配信します。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。授業の前半では文献のレビューに努め、後半ではそれらが実際にどのように企業において応用されているのかを学生に発表してもらったり、ビデオを見たりします。その後、皆でディスカッションを行います。

授業に対するコメント等は授業内で紹介し、次回以降の授業に活かすようにします。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
第2回	経営戦略の概念	経営戦略とは何か
第3回	経営戦略の策定プロセス	経営戦略の策定プロセス
第4回	経営理念と企業ドメイン	経営理念、企業ドメイン
第5回	外部環境分析（1）	顧客分析、競争業者分析
第6回	外部環境分析（2）	業界分析、マクロ環境分析
第7回	自社能力分析	自社能力分析
第8回	事業戦略（1）	3つの基本戦略
第9回	事業戦略（2）	競争地位別の戦略
第10回	事業戦略（3）	製品のライフサイクル
第11回	企業戦略（1）	製品・市場マトリックス
第12回	企業戦略（2）	多角化戦略
第13回	企業戦略（3）	PPM
第14回	経営戦略の実行	経営戦略の実行

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定された部分を事前に読むこと。

発表者は、発表の準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

①デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002年。

②沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略【新版】』有斐閣、2008年。より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。

#### 【参考書】

①網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。

②清水勝彦『戦略の原点』日経BP社、2007年。

③三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013年。

④M. E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995年。

- ⑤M. E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985年。  
 ⑥ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2003年。  
 ①②⑥は経営戦略論のテキストで、③は100年の経営戦略論の流れを描いた本で、④と⑤は経営戦略論の古典と言われる本です。  
 他は、授業時にその都度指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

配分：クラス参加 (15%)、プレゼンテーション (25%)、レポート (60%)

評価基準：4回以上欠席した場合には、単位は与えられません。プレゼンテーションは、テキストの要約と自分の会社のケースを発表します。レポートは、自分の会社の経営戦略を分析します。詳細は、第1回目に説明します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。また、学生の発表時間をコントロールすることなどによって、授業の時間管理に努めます。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>経営戦略論

<研究テーマ>経営戦略の策定と実行

<主要研究業績>

- ① “Perceptions about Teamwork: An Empirical Comparison of Japanese, Mexican, and American Faculty,” Association on Employment Practices and Principles: Proceedings of the 2002 Annual International Conference, pp.14-19, 2002 (with coauthors).
- ② “Differences in Culture and Attitudes toward Teamwork: An Empirical Comparison of Perceptions among Chinese, Japanese, Mexican, and American Faculty,” American Society of Business and Behavioral Sciences: 2006 Proceedings, pp.136-142, 2006 (with coauthors).
- ③ “Work Performance and Group Harmony: An Empirical Comparison of Japanese and Other Cultural Attitudes toward Teamwork,” The 2007 International Conference in Management Sciences and Decision Making: Proceedings, pp.1-16, 2007 (with coauthors).

#### 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn concepts and theories of strategic management and their applications in order to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.

MAN500F1 - 0048

## イノベーション・マネジメント概論

### 近能 善範

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。及び、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、携帯電話やパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。イノベーションは、われわれの生活を一変するインパクトを有するばかりでなく、企業や経済が持続的に成長していくために必要不可欠な役割を果たします。

こうしたイノベーションを実現していく上では、一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激烈な競争に勝ち残っていくためのマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、単なる技術マネジメントを超えた、組織や戦略に対する深い理解と実践が問われることになります。

そこで本講義では、こうしたイノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる組織論・戦略論の考え方や概念などを、基礎から最新の理論まで含めて幅広く身につけて、実践できるようになっていただきたいと思います。

#### 【到達目標】

イノベーション・マネジメントを実践していく上で重要となる考え方や概念などを身につけて、実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は、前半の講義部分（概論部分）を YouTube 等で動画にて配信し、これを予め視聴したことを前提に、後半の応用部分の説明（講義）と質疑応答、受講生全員参加のディスカッションを、教室での対面方式か、Zoom でのリアルタイム・オンライン方式で行う予定です。

なお、配信動画や Zoom の URL については、学習支援システム内の「課題」の箇所でお知らせする予定です。学習支援システムに登録されているメールアドレス宛にもご連絡する予定ですが、念のため、授業期間中は毎回必ず、上記箇所を確認するようにしてください。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イノベーション・マネジメントとは何か、なぜ重要なのかについて学ぶ
2	企業とは何か／組織とは何か、グループとチームのマネジメント	企業とは何か／組織とは何か、グループとチームのマネジメントについて学ぶ
3	モチベーションとインセンティブのマネジメント	モチベーションとインセンティブのマネジメントについて学ぶ
4	人的ネットワークのマネジメント	人的ネットワークのマネジメントについて学ぶ
5	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメント	リーダーシップ（ミドルクラス）のマネジメントについて学ぶ

6	組織構造と組織デザイン のマネジメント	組織構造と組織デザインのマネジ メントについて学ぶ
7	組織学習と知識創造の マネジメント	組織学習と知識創造のマネジメ ントについて学ぶ
8	組織文化と組織変革の マネジメント	組織文化と組織変革のマネジメ ントについて学ぶ
9	競争戦略のマネジメン ト	ポジショニング戦略と資源・能力 ベースの戦略について学ぶ
10	新製品開発のマネジメ ント	新製品開発のマネジメントについ て学ぶ
11	企業間関係のマネジメ ント	企業間関係のマネジメントについ て学ぶ
12	イノベーションのプロ セス/パターン	イノベーションが、どのようなブ ロセスを経て、どのようなパター ンを描きながら発展していくのか を学ぶ
13	イノベーションと企業 の競争力	さまざまなタイプのイノベーショ ンと企業の競争力について学ぶ
14	ビジネスモデルのマネ ジメント	ビジネスモデルのイノベーション について学ぶ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込み、課題のレポートを作成しておくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2010 年。

その他に、パワーポイントのレジュメ（毎回）、補助テキスト（適宜）、ケース（適宜）を配布します。

#### 【参考書】

参考書は特にありません。必要があれば、講義の中で適宜指定します。

#### 【成績評価の方法と基準】

(1) 下記の合計で、成績を評価する予定です。

①出席+毎回のレポート提出（A4 で 1~2 枚程度の簡潔なもの）が 70 %

②授業内でのディスカッション参加（毎回）が 30 %

(2)3 分の 2 以上の出席を最低ラインとします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

タイムコントロールに注意します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットを介して、Youtube 等で動画を視聴し、また授業支援システムを利用して課題を提出することのできる情報機器をご準備ください。

課題提出の際には A4 一枚（1200~1500 字）程度の文字入力に伴う場合がありますので、スマートフォンよりも、PC やタブレット端末の方が望ましいと思います。

#### 【その他の重要事項】

配信動画や Zoom の URL については、学習支援システム内の「課題」の箇所でお知らせする予定です。学習支援システムに登録されているメールアドレス宛にもご連絡する予定ですが、念のため、授業期間中は毎回必ず、上記箇所を確認するようにしてください。

また、上記「授業計画」に記載したスケジュールは 2020 年度のものであり、授業の詳細なシラバスは第 1 回目の講義の際に配布します。

加えて、本年度も、実施形態・計画・内容等が新型コロナウイルス感染状況に応じて直前になって変更される可能性もありますので、予めご了承ください。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門分野>

イノベーション・マネジメント、経営戦略論、企業間関係論

<研究テーマ>

イノベーションと企業間関係

#### 【担当教員の主要研究業績】

1.『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』（高井文子との共著），新世社，2010 年。

2.「サプライヤーの顧客範囲と製品範囲の拡大が取引継続に及ぼす影響」, 『日本経営学会誌』, 41 号, 2018 年 10 月。

3.「顧客との取引関係とサプライヤーの成果：日本自動車部品産業の事例」, 『一橋ビジネスレビュー』, 65 巻 1 号, 2017 年 6 月。

4.「日本自動車産業における関係の技能の高度化と先端技術開発の深化」, 『一橋ビジネスレビュー』, 54 巻 4 号, 2007 年 3 月。

5.「自動車部品取引のネットワーク構造とサプライヤーのパフォーマンス」, 『組織科学』, Vol.35(3), pp. 83-100, 2002 年 3 月。

#### 【Outline and objectives】

The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts and ideas on “Innovation management” through reading of introductory textbooks, business cases and discussions, etc.

MAN600F1 - 0052

## 国際経営演習

横内 正雄

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習は、国際経営コースに所属する大学院生に対して修士論文の作成に関する指導を行うものである。修士論文は、その中に学術的に新しい知見を必要とするものであり、この演習を通じてこの知見の発見を目指すことになる。

## 【到達目標】

春学期は主に先行研究のレビューと調査計画が出来上がった状況が到達目標となる。修士論文には、調査が不可欠であるが、その方法は多様である。インタビュー、アンケート、計量分析などの方法が考えられるが、指導教授との議論の中から自分の修士論文のテーマに応じて最適な調査方法を選択することになる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

演習の日程や進め方は、担当する指導教員によって異なるが、日程は平日の夜ないしは土曜日に行われ、進め方は院生が前回の演習で出された課題を報告し、それに関連して教員との間でディスカッション・アドバイスが行われる。国際経営コースでは10月初めに修士論文の中間発表会が開催されるので、それに向けた準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆に関する年間計画の策定する。
第2回	研究計画書の作成(1)	リサーチクエッションを検討する。
第3回	研究計画書の作成(2)	士論文のテーマと概要を確定する。
第4回	先行研究の検討(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第5回	先行研究の検討(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第6回	先行研究の検討(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第7回	先行研究の検討(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第8回	先行研究の検討(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第9回	先行研究の検討(6)	先行研究のまとめと研究課題を確定させる。
第10回	調査方法の検討(1)	調査対象の検討を行う。
第11回	調査方法の検討(2)	テーマに適する調査方法の検討を行う。
第12回	調査方法の検討(3)	分析枠組みの検討を行う。
第13回	調査方法の検討(4)	パイロット調査の検討を行う。
第14回	中間報告の準備	発表資料の検討を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員から提示された文献以外の文献探索、課題の検討、データ収集、調査先の選定、分析方法の検討などを自発的に行うことが求められる。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

## 【参考書】

担当する指導教員から適宜提示される。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の議論への参加状況など平常点 50 %、報告内容の評価 50 % で評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本演習は授業改善アンケートの対象外であるので特になし。修士論文を作成する大学院生には作成にあたって余裕を持った計画を立てて進めることが望ましい。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンラインで行う場合があるのでインターネット接続環境が必要となる。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際金融・金融史

<研究テーマ>

国際銀行の歴史的研究

<主要研究業績>

・「グローバリゼーションと国際通貨ドル」・「国際資本移動とアジア通貨危機」SGCIME 編『グローバル資本主義と世界編成・国民国家システム：I 世界経済の構造と動態』御茶の水書房 2003 年

・「1990 年代の香港金融市場における邦銀」法政大学経営学会『経営志林』第 40 巻第 1 号, 2003 年

・『国際金融論 I』法政大学通信教育部、2020 年

## 【Outline and objectives】

This seminar provides guidance to graduate students belonging to the International Management Course on the preparation of their master's thesis. Master's theses require new academic knowledge, and this seminar will help them to discover this knowledge.

MAN600F1 - 0052

**国際経営演習**

横内 正雄

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この演習は、国際経営コースに所属する大学院生に対して修士論文の作成に関する指導を行うものである。修士論文は、その中に学術的に新しい知見を必要とするものであり、この演習を通じてこの知見の発見を目指すことになる。

**【到達目標】**

秋学期は主に調査結果の分析と修士論文の執筆指導が行われ、学術的な新しい知見が盛り込まれた修士論文を作成することが目標となる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

演習の日程や進め方は、担当する指導教員によって異なるが、日程は平日の夜ないしは土曜日に行われ、進め方は院生が前回の演習で出された課題を報告し、それに関連して教員との間でディスカッション・アドバイスが行われる。国際経営コースでは10月初めに修士論文の中間発表会が開催されるので、それを受けて修士論文の執筆に取り組むこととなる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	修士論文中間報告の準備	中間報告のための資料の作成とプレゼンテーションについての助言を受ける。
第2回	修士論文中間報告会	指導教員以外の国際経営コース教員からの助言を受ける。
第3回	中間報告に対するコメントの検討	教員からのコメントを受けて調査方法等について修正を行う。
第4回	調査結果の報告	調査結果の報告と分析方法に関する指導が行われる。
第5回	調査結果の分析(1)	調査結果を報告し助言を受ける。
第6回	調査結果の分析(2)	調査結果を報告し助言を受ける。
第7回	調査結果の分析(3)	調査結果を報告し助言を受ける。
第8回	調査結果の分析(4)	調査結果を報告し助言を受ける。
第9回	修士論文草稿の検討(1)	修士論文の草稿を報告し助言を受ける。
第10回	修士論文草稿の検討(2)	修士論文の草稿を報告し助言を受ける。
第11回	修士論文草稿の検討(3)	修士論文の草稿を報告し助言を受ける。
第12回	修士論文草稿の検討(4)	修士論文の草稿を報告し助言を受ける。
第13回	修士論文草稿の検討(5)	修士論文の草稿を報告し助言を受ける。
第14回	修士論文の最終調整	修士論文を完成させるとともに口述試験についての助言を受ける。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

調査対象の選定、データ収集・分析、修士論文草稿の作成などを自発的に行うことが求められる。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。

**【参考書】**

担当する指導教員から適宜提示される。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の議論への参加状況など平常点 50 %、報告内容の評価 50 % で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本演習は授業改善アンケートの対象外であるので特にない。修士論文を作成する大学院生には作成にあたって余裕を持った計画を立てて進めることが望ましい。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンラインで行う場合があるのでインターネット接続環境が必要となる。

**【その他の重要事項】**

特にない。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

国際金融・金融史

<研究テーマ>

国際銀行の歴史的研究

<主要研究業績>

・「グローバリゼーションと国際通貨ドル」・「国際資本移動とアジア通貨危機」SGCIME 編『グローバル資本主義と世界編成・国民国家システム：I 世界経済の構造と動態』御茶の水書房 2003 年

・「1990 年代の香港金融市場における邦銀」法政大学経営学会『経営志林』第 40 巻第 1 号, 2003 年

・『国際金融論 I』法政大学通信教育部、2020 年

**【Outline and objectives】**

This seminar provides guidance to graduate students belonging to the International Management Course on the preparation of their master's thesis. The master's thesis will require new academic knowledge, and the students will aim to discover this knowledge through this exercise.

MAN600F1 - 0052

**国際経営演習**

高橋 理香

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この演習は、国際経営コースに所属する大学院生に対して修士論文の作成に関する指導を行うものである。修士論文は、その中に学術的に新しい知見を必要とするものであり、この演習を通じてこの知見の発見を目指すことになる。

**【到達目標】**

春学期は主に先行研究のレビューと調査計画が出来上がった状況が到達目標となる。修士論文には、調査が不可欠であるが、その方法は多様である。インタビュー、アンケート、計量分析などの方法が考えられるが、指導教授との議論の中から自分の修士論文のテーマに応じて最適な調査方法を選択することになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

演習の日程や進め方は、担当する指導教員によって異なるが、日程は平日の夜ないしは土曜日に行われ、進め方は院生が前回の演習で出された課題を報告し、それに関連して教員との間でディスカッション・アドバイスが行われる。国際経営コースでは10月初めに修士論文の中間発表会が開催されるので、それに向けた準備を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	修士論文執筆に関する年間計画の策定する。
第2回	研究計画書の作成(1)	リサーチクエッションを検討する。
第3回	研究計画書の作成(2)	士論文のテーマと概要を確定する。
第4回	先行研究の検討(1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第5回	先行研究の検討(2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第6回	先行研究の検討(3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第7回	先行研究の検討(4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第8回	先行研究の検討(5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調査し、報告する。
第9回	先行研究の検討(6)	先行研究のまとめと研究課題を確定させる。
第10回	調査方法の検討(1)	調査対象の検討を行う。
第11回	調査方法の検討(2)	テーマに適する調査方法の検討を行う。
第12回	調査方法の検討(3)	分析枠組みの検討を行う。
第13回	調査方法の検討(4)	パイロット調査の検討を行う。
第14回	中間報告の準備	発表資料の検討を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

指導教員から提示された文献以外の文献探索、課題の検討、データ収集、調査先の選定、分析方法の検討などを自発的に行うことが求められる。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。

**【参考書】**

担当する指導教員から適宜提示される。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の議論への参加状況など平常点 50 %、報告内容の評価 50 % で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本演習は授業改善アンケートの対象外であるので特になし。修士論文を作成する大学院生には作成にあたって余裕を持った計画を立てて進めることが望ましい。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンラインで行う場合があるのでインターネット接続環境が必要となる。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

国際経済学・農業経済学

<研究テーマ>

日本の農業分野における貿易政策

<主要研究業績>

"Welfare Losses from Non-Tariff Barriers: The Japanese Beef Quota Case," Japanese Economic Review 56(4), pp. 457-468, 2005 (with Makoto Yano and Hideo Mizuno).

**【Outline and objectives】**

This seminar provides guidance to graduate students belonging to the International Management Course on the preparation of their master's thesis. Master's theses require new academic knowledge, and this seminar will help them to discover this knowledge.

MAN600F1 - 0052

**国際経営演習**

高橋 理香

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この演習は、国際経営コースに所属する大学院生に対して修士論文の作成に関する指導を行うものである。修士論文は、その中に学術的に新しい知見を必要とするものであり、この演習を通じてこの知見の発見を目指すことになる。

**【到達目標】**

秋学期は主に調査結果の分析と修士論文の執筆指導が行われ、学術的な新しい知見が盛り込まれた修士論文を作成することが目標となる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

演習の日程や進め方は、担当する指導教員によって異なるが、日程は平日の夜ないしは土曜日に行われ、進め方は院生が前回の演習で出された課題を報告し、それに関連して教員との間でディスカッション・アドバイスが行われる。国際経営コースでは10月初めに修士論文の中間発表会が開催されるので、それを受けて修士論文の執筆に取り組むこととなる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	修士論文中間報告の準備	中間報告のための資料の作成とプレゼンテーションについての助言を受ける。
第2回	修士論文中間報告会	指導教員以外の国際経営コース教員からの助言を受ける。
第3回	中間報告に対するコメントの検討	教員からのコメントを受けて調査方法等について修正を行う。
第4回	調査結果の報告	調査結果の報告と分析方法に関する指導が行われる。
第5回	調査結果の分析(1)	調査結果を報告し助言を受ける。
第6回	調査結果の分析(2)	調査結果を報告し助言を受ける。
第7回	調査結果の分析(3)	調査結果を報告し助言を受ける。
第8回	調査結果の分析(4)	調査結果を報告し助言を受ける。
第9回	修士論文草稿の検討(1)	修士論文の草稿を報告し助言を受ける。
第10回	修士論文草稿の検討(2)	修士論文の草稿を報告し助言を受ける。
第11回	修士論文草稿の検討(3)	修士論文の草稿を報告し助言を受ける。
第12回	修士論文草稿の検討(4)	修士論文の草稿を報告し助言を受ける。
第13回	修士論文草稿の検討(5)	修士論文の草稿を報告し助言を受ける。
第14回	修士論文の最終調整	修士論文を完成させるとともに口述試験についての助言を受ける。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

調査対象の選定、データ収集・分析、修士論文草稿の作成などを自発的に行うことが求められる。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。

**【参考書】**

担当する指導教員から適宜提示される。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の議論への参加状況など平常点 50 %、報告内容の評価 50 % で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本演習は授業改善アンケートの対象外であるので特にない。修士論文を作成する大学院生には作成にあたって余裕を持った計画を立てて進めることが望ましい。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンラインで行う場合があるのでインターネット接続環境が必要となる。

**【その他の重要事項】**

特にない。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

国際経済学・農業経済学

<研究テーマ>

日本の農業分野における貿易政策

<主要研究業績>

"Welfare Losses from Non-Tariff Barriers: The Japanese Beef Quota Case," Japanese Economic Review 56(4), pp. 457-468, 2005 (with Makoto Yano and Hideo Mizuno).

**【Outline and objectives】**

This seminar provides guidance to graduate students belonging to the International Management Course on the preparation of their master's thesis. The master's thesis will require new academic knowledge, and the students will aim to discover this knowledge through this exercise.

MAN500F1 - 0053

## ワークショップ（国際経営）

安藤 直紀、後藤 哲郎

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営コースの2021年度ワークショップは、「国際経営の現状と課題」というテーマを設定します。実務家や、本大学院の卒業生などをゲストスピーカーとして招聘して、今年度のテーマに関連する講義をしてもらいます。講義の聴講や質疑応答、議論を通して「国際経営の現状と課題」に関する理解を深めるとともに、国際経営戦略、組織運営、人材活用、異文化における経営などについても実務と理論の面から理解していきます。

## 【到達目標】

1. ゲストスピーカーの講義と、質疑応答、ディスカッションを通して、国際経営の実務に関する理解を深めます。
2. ゲストスピーカーの講義と、質疑応答、ディスカッションを通して、理論を実務で裏付けて理解し、かつ実務プロセスの必要性を理論で裏付けて理解できるようになることを目指します。
3. ゲストスピーカーの講義の内容をノートにとり、まとめる、という作業を通じて、ヒアリング内容をまとめるという社会科学的調査の基礎を習得します。
4. ゲストスピーカーの講義を通して、相手に伝わるプレゼンテーション方法を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

本講義はオンライン授業を基本としますが、ゲストスピーカーの意向によっては一部対面授業になることもあります。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム内の掲示板に掲載します。講義は、実務家を中心としたゲストスピーカーによる講義と、担当教員による講義、学生によるプレゼンテーションから構成されます。ゲストスピーカーの講義を、国際経営の最前線で何が生じており、それら事象を経営学の理論からどうとらえるかについて考えながら聴講してもらいます。その後、ゲストスピーカーへの質疑応答と、ゲストスピーカーとのディスカッションを行います。4人のゲストスピーカーの講義が終わった後に、論点整理を2回行います。ゲストスピーカーによる講義を理論面から理解するために必要な国際経営の理論のほか、社会科学の方法についての講義も行います。報告やディスカッション等へのフィードバックは、7回目、12回目、14回目に行います。短いフィードバックは、毎回の講義の中で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要とオリエンテーション、担当教員の研究領域紹介
2	社会科学の方法	経営学で多く用いられる研究手法
3	ゲストスピーカーの講演①	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答・ディスカッション①
4	ゲストスピーカーの講演②	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答・ディスカッション②
5	ゲストスピーカーの講演③	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答・ディスカッション③
6	ゲストスピーカーの講演④	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答・ディスカッション④

7	前半のまとめ	3回目から6回目に行われたゲストスピーカーによる講義について論点整理と報告、ディスカッション
8	ゲストスピーカーの講演⑤	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答・ディスカッション⑤
9	ゲストスピーカーの講演⑥	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答・ディスカッション⑥
10	ゲストスピーカーの講演⑦	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答・ディスカッション⑦
11	ゲストスピーカーの講演⑧	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答・ディスカッション⑧
12	後半のまとめ	8回目から11回目に行われたゲストスピーカーによる講義について論点整理と報告、ディスカッション
13	国際経営の理論	国際経営の主要な理論、最近の研究動向
14	プレゼンテーション	期末レポートに関するプレゼンテーション

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1回から6回：3回目から6回目のゲストスピーカーが所属する企業に関する調査  
7回：3回目から6回目のゲストスピーカーによる講義の論点整理と報告の準備  
8回から11回：8回目から11回目のゲストスピーカーが所属する企業に関する調査  
12回：8回目から11回目のゲストスピーカーによる講義の論点整理と報告の準備  
13回から14回：プレゼンテーションの準備

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

## 【参考書】

ゲストスピーカーの指示等に基づき、適宜提示します。

## 【成績評価の方法と基準】

配分：グループあるいは個人での報告（30%）、ディスカッションへの貢献（40%）、レポート（30%）  
評価基準：毎回の質疑応答での発言やディスカッション、グループあるいは個人での報告、レポートの内容から成績評価を行います。レポートについては講義の中で説明します。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心に合わせたゲストスピーカーの招聘を心がけます。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

## 【その他の重要事項】

各回とも、100分×2時限の連続授業です。

## 【担当教員の専門分野等】

安藤直紀  
<専門領域>  
国際経営戦略  
<研究テーマ>  
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁  
<主要研究業績>

- ① Human capital, cultural distance and staffing localization. Forthcoming. *Multinational Business Review*.
- ② Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. Forthcoming. *Asian Business & Management*. (with Powell, K.S. and Lim, E.)
- ③ Intra-organizational communication and its consequences. 2019. *Management Decision*, 57(1): 71-85. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)

## 【担当教員の専門分野等】

後藤哲郎  
<専門領域>  
国際経営組織論、プロジェクト管理論  
<研究テーマ>

国際的なソフトウェア開発組織研究、組織間知識移転  
 <主要研究業績>

① “Big data innovation for Agri-tech Businesses: Knowledge Transfer Adaptation Model for AI Collective Knowledge”, POMS2019, Annual Conference, 2019 年.

② “Organization Attribute Optimization of International Knowledge Transfer – Two-point Comparison of Software Development Organization –”, Promac2017, Annual Conference, 2017 年.

③ 「国際的ソフトウェア開発における知識移転・展開 -上海オフショア開発調査」『法政大学大学院紀要』、2007 年.

#### 【Outline and objectives】

The primary topic of this course is "The current situation and issues of international business". Practitioners will be invited to give lectures related to the topic. Students will advance their understanding of the topic through lectures and discussions. Also, they will understand from the viewpoint of theory and practice such issues as global business strategy, organization of multinationals, international human resource management and cross-cultural management.

MAN500F1 - 0054

## 国際経営論

安藤 直紀

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本国で競争力のある企業が、必ずしも海外で成功するとは限りません。本国と外国とのさまざまな違いが、本国における成功要因の有効性を下げることが理由として考えられます。それでは企業は外国でどのように競争したらよいのでしょうか。本講義では、この問題を考えるために必要な事項を学びます。国際経営学における伝統的な研究領域や、近年注目されている研究領域を、国際経営の理論と関連させながら学んでいきます。

#### 【到達目標】

1. 国境を越えた企業の経営活動（国際経営）を理解するために必要な理論を習得します。
2. 国際経営の伝統的なトピックおよび近年のトピックを概観し、理解します。
3. 理論に基づき企業の海外での事業活動を分析する能力の習得を目指します。
4. 国際経営に関する論文を読むスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

本講義の授業形態は、オンライン授業とします。リアルタイムオンラインを基本としますが、一部、オンデマンドでも行います。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム内の掲示板に掲載します。

授業計画に示したトピックについて、まず基本的な事項（理論や研究動向など）を講義します。その後、トピックに関連したディスカッションを行います。トピックに関連した論文を読んでもらい、それについてディスカッションも行います。また、トピックに関連した課題やケースについて調査してもらい、報告やディスカッションを行います。

学期の中盤で、プロジェクトの課題を提示します。課題について各自研究を行い、研究成果のプレゼンテーションを学期の終盤に行います。

課題の提出等は学習支援システムを通じた提出と E メールによる提出を併用します。課題や質問、意見等に対するフィードバックは、適宜講義内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

##### 春学期

回	テーマ	内容
第 1 週	イントロダクション	講義の概要とオリエンテーション 海外進出する日本企業が直面する課題 国際経営の研究手法
第 2 週	グローバル・ビジネス環境	海外で直面する外部環境と企業への影響、Liabilities of foreignness
第 3 週	制度と多国籍企業	新興経済の制度、制度が多国籍企業に与える影響、制度理論
第 4 週	文化的距離	多国籍企業が海外で直面する文化の壁
第 5 週	言語の障壁	多国籍企業の本社・海外子会社間および海外子会社内での言語の壁
第 6 週	海外直接投資	海外直接投資を説明する理論、取引費用理論

第7週	多国籍企業のパフォーマンスと地域性	多国籍性のベネフィット、グローバルイゼーションとローカライゼーション、国際化の程度と多国籍企業のパフォーマンス
第8週	エントリー戦略	エントリー・モードの類型、エントリー・モードの選択、エントリー・タイミング
第9週	多国籍企業の戦略	グローバル戦略、マルチドメスティック戦略、国際企業戦略と組織
第10週	国際提携戦略	グローバル戦略的提携の類型と形成プロセス、グローバル戦略的提携のマネジメント
第11週	海外子会社の人的資源管理	海外子会社の人材戦略、PCN,HCN,TCNの役割、エージェンシー理論
第12週	海外子会社の現地化(1)	海外子会社の現地化の動機、日本企業の海外子会社の現地化の状況と課題
第13週	海外子会社の現地化(2)	海外子会社の現地化と海外子会社のパフォーマンスの関係
第14週	プレゼンテーション	プロジェクトの発表

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1週 社会科学の方法論に関して調べる
- 2-3週 国ごとの政治的、法的、経済的差異に関して調べる
- 4週 文化の違いが企業経営に及ぼす影響について考える
- 5週 言語の違いが企業経営に及ぼす影響について考える
- 6週 取引費用理論に関して調べる
- 7週 企業が地理的に拡大することのベネフィットについて考える
- 8週 完全子会社とジョイント・ベンチャーの違いについて考える
- 9週 多国籍企業の競争戦略の類型に関して調べる
- 10週 国際戦略的提携の事例を調べる
- 11週 エージェンシー理論に関して調べる
- 12-13週 日本企業の海外子会社の人材現地化を阻害する要因に関して考える
- 14週 プロジェクトのプレゼンテーションを準備する

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない予定です。詳細は、最初の講義で指示します。

#### 【参考書】

Cavusgil, S.T., Knight, G. & Riesenberger, J.R. 2008. International Business: The New Realities (2nd ed.). Prentice Hall: NJ.  
Cullen, J.B. & Parboteeah, K.P. 2008. Multinational Management: A Strategic Approach. South-Western: OH.  
Peng M. & Meyer, K. 2019. International Business (3rd ed.). Cengage: UK.  
Rugman, A.M. & Collinson, S. 2012. International Business (6th ed.). Pearson: England.  
Shenkar, O. & Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

#### 【成績評価の方法と基準】

プロジェクト：50%  
クラスへの貢献：50%  
プロジェクトの評価には、ペーパー自体と、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含みます。  
クラスへの貢献には、課題の準備、課題に関する報告、ディスカッションへの貢献等を含みます。  
ここでいう課題とは、プロジェクトとは別の、講義内で提示される課題です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

より高度な理論にも言及します。  
理論と実務のつながりに言及します。  
活発なディスカッションになるよう、モデレートします。

#### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

#### 【その他の重要事項】

各回とも、100分×2時限の連続授業です。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
国際経営戦略  
<研究テーマ>  
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁  
<主要研究業績>

- ① Human capital, cultural distance and staffing localization. Forthcoming. Multinational Business Review.
- ② Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. Forthcoming. Asian Business & Management. (with Powell, K.S. and Lim, E.)
- ③ Intra-organizational communication and its consequences. 2019. Management Decision, 57(1): 71-85. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)

#### 【Outline and objectives】

Firms that are competitive in their home country often fail overseas. This is partially because the environment of the host country, which is different from that of the home country, reduces the value of their firm-specific advantages. How should firms compete overseas?

This course introduces students to key concepts and frameworks of international business studies. It also gives an overview of recent research topics of international business studies as well as traditional ones.

ECNe500F1 - 0057

## 地域経済研究（アジア）

苑 志佳

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は東アジアおよび中国経済を中心にこの地域経済の発展過程と発展条件、経済発展の背景と要因、経済発展の特徴・形態などについて様々な視点から研究する。授業内容が前半と後半によって構成される。授業の前半は、東アジア地域の経済発展に関わる内容であり、理論から実証研究まで東アジア経済を徹底検証する。後半では、世界の新興経済大国—中国を中心にして講義する。具体的には「改革・開放」方針の導入を境に中国経済はどのように経済大国になったかを問題意識とし、中国経済の過去・現在および今後について分析・研究する。

## 【到達目標】

- ①アジア経済の研究視点、方法について理解する；
- ②アジア経済の発展に関わる諸仮説および理論をマスターする；
- ③中国経済の発展メカニズムおよび移行過程を理解することができる；
- ④中国経済の高度成長の背景・要因および特徴についてマスターすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

本授業は教員講義を中心に出席者による討論という方式を採用する。毎回の授業は、1つのテーマを中心に教員がまず講義して論点を絞り出し、出席者全員参加の形式で討論することによって内容への理解を深める。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体に関する説明
第2回	アジア地域研究にあたって	東アジア・中国経済の現状と問題提起
第3回	東アジア経済の研究視点	東アジア経済の研究手法
第4回	アジア経済研究の歴史	アジア経済研究の理論
第5回	東アジア経済発展の背景	東アジア経済発展背景
第6回	戦後の東アジア経済発展の条件	東アジア経済発展の内部・外部条件
第7回	政府か、市場か	政府主導型モデル
第8回	東アジア経済発展と政府の役割	東アジア経済の発展戦略
第9回	東アジア経済発展の担い手	欧米と異なる特徴
第10回	「鼎構造」	〔公企業・外資系企業・地場資本〕の三位一体型構造の検証
第11回	対内直接投資と途上国経済	外資と東アジアの経済発展
第12回	何故、外資が必要か	対内直接投資の役割・意義の検証
第13回	華人・華僑とは	東アジア地域の華人・華僑の歴史と所在国の経済発展への役割
第14回	東アジア経済と華人・華僑資本	東南アジアを中心とする検証
第15回	「チャイナ・ミラクル」	中国経済をどう捉えるか

第16回	改革・開放	制度移行の背景と過程
第17回	中国経済の発展モデル	「北京コンセンサス」
第18回	漸進主義的市場化改革	比較制度分析による検証
第19回	中国経済制度の改革	農業改革 (1)
第20回	中国経済制度の改革	工業改革 (2)
第21回	中国経済制度の改革	国有企業をめぐる改革 (3)
第22回	中国経済制度の改革	民営企業の発展 (4)
第23回	対外開放の狙いと効果	対外開放の過程と結果
第24回	国際分業へ関わり	経済発展への対外貿易の役割
第25回	海外資本の「引進來」 (外資導入)	外資の対中進出の意義
第26回	中国の経済発展と対内 直接投資の役割	中国経済成長への外資の貢献
第27回	中国資本の「走出去」 (海外進出)	中国企業の対外直接投資
第28回	中国経済のグローバル 化	世界経済へのインパクト

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。
- ②授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。
- ③授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。

## 【テキスト（教科書）】

少数の教科書を持って本授業の内容をカバーしきれないため、テキストを使用しない方針。その代わりに教員が用意する独自の教材を使用する。

## 【参考書】

- (1) 北原 淳・西澤信善編著 [2004] 『アジア経済論』 ミネルヴァ書房。
- (2) 星野妙子・末廣昭編 [2006] 『ファミリービジネスのトップマネジメント』 岩波書店。
- (3) 末廣昭著 [2000] 『キャッチアップ型工業化論—アジア経済の軌跡と展望』 名古屋大学出版会。
- (4) 渡辺利夫編 [1997] 『アジア経済読本』 東洋経済新報社。
- (5) 南 亮進・牧野文夫編 [2012] 『中国経済入門』（第3版）日本評論社。
- (6) 加藤弘之・上原一慶編 [2011] 『現代中国経済論』 ミネルヴァ書房。
- (7) 毛里和子 [1997] 『改革・開放時代の中国』 日本国際問題研究所。
- (8) 苑 志佳著 [2009] 『現代中国企業変革の担い手—多様化する企業制度とその焦点』 批評社。
- (9) 苑 志佳 [2014] 『中国企業対外直接投資のフロンティア—後発国型多国籍企業』の対アジア進出と展開—』 創成社。
- (10) 加藤弘之 [2016] 『中国経済学入門—「曖昧な制度」はいかに機能しているか』 名古屋大学出版会

## 【成績評価の方法と基準】

## 配分方針

- (1) 平常点 (50点)：予習状況、報告準備状況、問題提起のレベルなどを考慮する。
- (2) クラス討論への貢献点 (50点)：クラス討論への参加を強く勧める。質問の有無やコメントの質をも重視する。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業改善にかかわるご意見、アイデアなどあれば、オンラインクラス中だけでなく、メールなどを通して率直に発言してください。

## 【学生が準備すべき機器他】

この授業は、オンライン形式を採用するため、学生は、授業を受けるためのIT機器（パソコン、i-Padなど）を必ず事前に用意してください。

## 【その他の重要事項】

やむを得ない事情によって欠席する場合、必ず事前に連絡してください。

**【担当教員の専門分野等】**

＜専門領域＞世界経済論（アジア経済、中国経済）  
 ＜研究テーマ＞中国の産業競争力の実証研究、中国対外直接投資の研究

＜主要研究業績＞①『現代中国企業変革の担い手—多様化する企業制度とその焦点』（単著、批評社、2009年）

②『中国社会主義市場経済の現在』（共著、御茶ノ水書房、2011年）。

③『中国多国籍企業の海外経営』（共著、日本評論社、2013年）

④『中国企業対外直接投資のフロンティア——「後発国型多国籍企業」の対アジア進出と展開——』（単著、創成社、2014年）

⑤『グローバル競争下の自動車産業——新興国市場における攻防と日本メーカーの戦略』（共著、日刊自動車新聞社、2014年）

⑥『21世紀資本主義世界のフロンティア—経済・環境・文化・言語による重層的分析—』（共編、批評社、2017年4月）

**【Outline and objectives】**

This course will concentrate the research on East Asian and Chinese economic development by taking different point of views. The special attention will be given to the concerns like, why economic high growth in the area has been realized so successfully, what backgrounds, conditions and characteristics existed there, and so on. The course is consisted of two parts. The first part focuses on East Asia study. Various theories, models and hypothesis will be introduced and demonstrated. The second part will study a newly emerging economic power in East Asia – China. The “China miracle” will be discussed in detail.

MAN500F1 - 0058

**国際人事**

戎谷 梓

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業では、多国籍企業や海外進出を目指す企業が検討・実践する必要のある人的資源管理について様々な視点から考えます。本授業を通して受講者は、人的資源管理に関する既存の知識を土台とし、国際的・多文化的な観点から人的資源の活用について深い考察を得ることができます。

**【到達目標】**

本授業を通して受講者は、国際人的資源管理に関する最先端の研究に触れ、「採用」「育成」「評価」「報酬」など人事の面で多国籍企業が直面する様々な課題について考察することができます。また受講者は、ドメスティックな環境と国際的な環境における人的資源管理上の相違点を理解し、異文化環境ならではの問題および問題への対処方法について深い理解を得ることができます。これにより、特定の国際的・多文化的コンテキストにおけるふさわしい人的資源管理方法について自分自身で有意義な検討を行えるようになります。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

本授業は、国際人的資源管理に関して多角的・包括的に扱った書籍“International Human Resource Management” (Reiche et al., 2019) を教科書として輪読形式で進めます。受講者は当該教科書を各自で購入し、毎回授業前までに授業で扱う章を熟読の上、内容に基づくディスカッションに参加できるよう準備しておく必要があります。また受講者は学期中、教科書のいずれかの章に基づくプレゼンテーションを1度か2度、行うことが求められます。加えて学期末には、多国籍企業における多様性管理または多国籍企業の社会的責任に関するテーマでレポートを提出することが求められます。

なお本授業は、新型コロナウイルスの感染リスクへ配慮し、学期を通して Zoom 会議システムによるオンライン形式で授業を実施します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第1回	授業イントロダクションとクラスビルディング	授業コンセプトを説明した後、教科書を外観します。教員および受講者同士で自己紹介を行い、プレゼンテーションの担当章を決めます。
第2回	第1章：文化および異文化間マネジメント	経営における多文化の現状に対する肯定的・否定的・中間的な立場それぞれに基づいた研究を外観します。
第3回	第2章：人的資源管理における様々な比較	人的資源管理のグローバル化およびコンテキストへの配慮の重要性について議論します。
第4回	第3章：多国籍企業における国際的な雇用の実践	国境を越えた転職や、多国籍企業における効果的な多文化人材の雇用について議論します。
第5回	第4章：国際人的資源管理の様々なアプローチ	一般的な人的資源管理と国際人的資源管理を比較しながら議論し、相違点について考察します。

第 6 回	第 5 章：多国籍企業における海外派遣や出向の実践	国際的な人事や人材のモチベーション管理、海外赴任者の様々な役割について議論します。
第 7 回	第 6 章：多国籍企業と現地国要因	現地国要因を多角的に議論し、多国籍企業の現地国における効果的な振る舞いについて考察します。
第 8 回	第 7 章：グローバルな文脈における国家間の規制や政策	経営上の関係国における政策への理解の重要性と、多国籍企業経営への影響について議論します。
第 9 回	第 8 章：国際的 M&A における人的資源管理	文化的な相違が M&A パフォーマンスへ与える影響や、効果的なインテグレーションについて議論します。
第 10 回	第 9 章：国際人的資源管理のポリシーと実践	多国籍企業におけるナレッジ共有に影響を与える要因や、効果的なナレッジ管理の方法について議論します。
第 11 回	第 10 章：国際人材の育成と開発	グローバルな環境における人材トレーニングやリーダーの育成、人材開発のための海外派遣について議論します。
第 12 回	第 11 章：グローバルかつローカルな資源管理	外部労働市場の活用と内部での人事戦略について、日本、台湾、中国、ベトナムの事例から考察します。
第 13 回	第 12 章：国際的な人事評価	効果的な人材パフォーマンス管理について、中国、ドイツ、インド、日本、韓国、イギリス、アメリカの事例をもとに議論します。
第 14 回	第 13 章：国際的な文脈におけるトータルリワード	本国人材、第三国人材、現地人材へのトータルリワードの仕組みの導入やその上での障害、対処方法について議論します。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は輪読形式で行われるため、各授業でプレゼンテーションを行う受講者はそのための準備、それ以外の受講者は章の内容に基づいたクラスディスカッションに参加できるよう、毎回事前に章全体を熟読しておく必要があります。そのため受講者には、授業の準備と復習を合わせて、毎週平均 3 時間程度の学習時間が授業外で必要となります（教科書は英語で執筆された書籍であるため、受講者の英語読解力によって必要な準備時間にばらつきが生じるものと思います）。加えて学期末には、レポート提出のため 10 時間程度の執筆時間が必要となります。

#### 【テキスト（教科書）】

B. Sebastian Reiche, Anne-Wil Harzing, & Helene Tenzer (2019) "International Human Resource Management (5th Edition)", SAGE Publications Ltd.

#### 【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点：14 %  
 ディスカッションへの参加：28 %  
 プレゼンテーション：28 %  
 期末レポート：30 %

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本授業はオンラインで実施するため、受講者には、授業への参加や課題の提出のため学期を通して各自のパソコンとネットワーク環境が必要となります。また使用するパソコンには、Zoom 会議システムのアプリをインストールしておく必要があります。

#### 【その他の重要事項】

オフィスアワーで研究相談を希望する受講者は、指定の手続き（事務より別途連絡）で事前に申し込みをしてください。なお、オフィスアワーもオンラインでの対応となります。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
 国際人的資源管理

#### <研究テーマ>

多文化チーム管理、国際バーチャルチーム管理

#### <主要研究業績>

(1)Ebisuya, A., & Hettiarachchi, G. P. (2020). Role of the process model in aligning mental models in global virtual teams. *The Hosei Journal of Business*, 57(3): 37-46.

(2)Sekiguchi, T., Takeuchi, N., Takeuchi, T., Nakamura, S., & Ebisuya, A. (2019). How Inpatriates Internalize Corporate Values at Headquarters: The Role of Developmental Job Assignments and Psychosocial Mentoring. *Management International Review*, 59(5): 825-853.

(3)Liu, T., Ebisuya, A., & Sekiguchi, T. (2019). Liability or asset? Multifaceted bridging functions in HQ-subsidiary relationships: Transfer, adaption, and within-subsidiary relationships from a multilevel perspective. *Proceedings of Academy of International Business 2019*.

#### 【Outline and objectives】

This course is designed to provide with the opportunities to discuss the international human resource management practices by multinational enterprises through various perspectives. The attendees will be able to deepen their own knowledge on human resource management by applying the knowledge to the international or multicultural managerial environment.

MAN500F1 - 0061

## 国際会計論

松井 泰則

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のグローバル資本市場における開示制度の中で、財務会計にかかわる高度な知識と技術を理解したうえで、国際連結財務諸表を正しく読み取ることができるようにすることを目的とする。特に連結財務諸表の仕組みと、IFRSの構造上の概念を正しく理解していくことに重点を置く。また、簿記ならびに会計の歴史は、今日の国際会計を理解する上で不可欠な教養であることから、その概要は理解しておく必要がある。

## 【到達目標】

国際資本市場での財務会計上の基本的な概念を理解することにより、国際的な（具体的にはIFRSのもとでの）会計利益計算の考え方を理解する。そのために、IFRSならびにASBJ基準において重要とされる財務会計基準を取り上げ各会計処理について理解を深めていきたい。特に議論の過程では、単なる会計処理的な計算的な問題としてではなく、その基底にある資産概念あるいは利益概念などの会計概念を正しく把握したうえで理解することが重要である。こうした今日の財務会計の仕組みに対して、会計の有する本質的な課題を念頭に置いて理解できるようにすることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

IFRSならびにASBJ基準に関して、重要な財務会計基準を取り上げ議論を深めていく。具体的には、まずは講義の前半では、財務会計における基本財務諸表（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結キャッシュ・フロー計算書）についての理解を中心に学習を進めていく。続く後半では、IFRSに規定される重要な基準について講義形式で理解を深めていく。最後に総括として、今日のグローバル資本市場と企業財務会計との関連性について将来を展望しながら、国際的視点からその課題を探っていききたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	An Introduction to Financial Statements	今日の国際資本市場における財務諸表の役割と今後の展望。
第2回	The Balance sheet	貸借対照表に関して、資産・負債・純資産のそれぞれの概念に対する理論的考察。
第3回	The Income Statement	利益計算に関して、新しい利益概念としての包括利益に対する理論的考察。
第4回	The Statement of Cash Flows	キャッシュ・フロー計算書の仕組みと読解。
第5回	How the Financial Statements Relate to Each Other	基本財務諸表間の連関についての考察と実務上のポイント。
第6回	Generally Accepted Accounting Principles and International Financial Reporting Standards(IFRS)	主要各国の会計基準：英米型会計基準 vs 独仏型会計基準。国際財務報告基準の概要。

第7回	日本で提要される4つの会計基準について	4つの会計基準。 日本基準 IFRS JMIS SEC基準
第8回	会計の歴史と国際会計	簿記の歴史と会計基準の発達史。利益計算構造に関する学説的分析。
第9回	利益構造論と会計概念	資産負債アプローチ vs 費用収益アプローチ。IFRSにおける利益概念と計算構造。
第10回	IFRS 各論研究1	主に貸借対照表に関連する会計処理を中心に、各会計基準を理解・究明する。
第11回	IFRS 各論研究2	主に損益計算書に関連する会計処理を中心に、各会計基準を理解・究明する。
第12回	IFRS 各論研究3	その他、連結財務諸表作成上、重要と思われる特殊かつ重要な会計基準を理解・究明する。
第13回	ビジネスモデルの変化と会計パラダイムのシフト	多国籍企業会計と今日の経済取引：金融商品取引と経済価値の変動と会計測定。
第14回	総括	今日の財務会計の意義と抱えている限界、そして将来への展望。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。基本的に簿記・会計の基礎知識を習得していることを本講義の受講前提としている。そのレベルについては必ずしも高いレベルを要求するものではないが、各自において日々そのレベルアップを図ってほしい。

## 【テキスト（教科書）】

毎回の講義中において、資料等を配布しながら講義を進めていくので、授業テキストとしての特定の書籍の使用予定はないが、必要な場合あるいはテーマによっては適宜、授業中において著書や論文等を紹介していく。

## 【参考書】

必要な場合あるいはテーマによっては適宜、授業中において関連する著書や論文等を紹介していきたい。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点60点、レポート課題40点

## 【学生の意見等からの気づき】

会計学は、簿記など専門的要素の強い学問であり、したがって一方的な講義形式になりがちだが、可能な限り理解しやすいように心がけて講義を行っていくつもりである。このためにも学生からの質問や要望も受けやすいオープンな雰囲気づくりを心がけるとともに、学生からの質問に対しては、その都度、耳を傾けながら進めていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義受講のためのネットワーク接続環境

## 【その他の重要事項】

本講義の担当教員（松井泰則）は、日本公認会計士試験委員の担当経験を有することから、会計学を学習する際の重要な論点となる理論ならびに計算についての学習アドバイスも行っていきたい。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
国際会計論  
<研究テーマ>  
IFRS  
<主要研究業績>  
各国比較会計制度論

## 【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to enable students to correctly read international consolidated financial statements with an understanding of advanced knowledge and techniques related to financial accounting in today's global capital market disclosure system. Lectures will focus particularly on understanding the structure of consolidated financial statements and the structural concepts of IFRS. In addition, the students will understand the history of bookkeeping and accounting, which is indispensable for managing today's international accounting.

ECN500F1 - 0062

## 国際金融論

横内 正雄

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代はグローバル化が進展し、金融化現象（金融グローバル化）が世界経済に大きな影響を与えてきている。本講義では、グローバル化下の国際金融の問題を理論、制度、歴史、政策の側面から多面的にとらえ、分析を試みるものである。

## 【到達目標】

現在生じている様々な国際金融の現象について、その理論的背景とともに、歴史や制度について理解することを目標とする。これによって、経営学・経済学を学ぶ大学院生が、現代の国際金融の問題について理解を深めるとともに、歴史的な流れの中で現在の問題を捉えることができるようになればよいと考えている。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

ZOOM によるオンラインの講義あるいは対面での講義とオンラインでの講義での併用を予定している。講義方式で進めることになるが、各回に演習問題を用意し、講義の後半で解くことを予定している。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	外国為替相場	外国為替相場の概説と基本問題および応用問題を解く
第 2 回	国際収支	国際収支に関する概説と基本問題および応用問題を解く
第 3 回	金利平価	金利平価の理論の概説と基本問題および応用問題を解く
第 4 回	外国為替相場の理論 I	外国為替相場の決定に関する古典理論を解説する
第 5 回	外国為替相場の理論 II	外国為替相場の決定に関する近代理論を解説する
第 6 回	国際収支の理論 I	国際収支に関する弾力性アプローチとその応用を解説する
第 7 回	国際収支の理論 II	国際収支に関する貯蓄投資バランスアプローチとその応用を解説する
第 8 回	国際金融とマクロ経済政策	マンデル＝フレミング＝モデルとその応用について解説する
第 9 回	固定為替相場制度	固定為替相場制度の理論と歴史について解説する
第 10 回	変動為替相場制度	変動為替相場制度の理論と為替相場制度の分類について解説する
第 11 回	為替リスクとその管理	為替リスクの管理手法について解説する
第 12 回	国際通貨	国際通貨の理論について解説する
第 13 回	通貨危機	通貨危機の理論と通貨危機の歴史について解説する
第 14 回	通貨統合	最適通貨圏の理論と EU 通貨統合の過程について解説する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。横内正雄『国際金融論 I』（通教テキスト）を事前に配布するので、これを読んで講義に参加することが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。担当教員が作成した印刷物（レジュメ、資料等）を配付する。

## 【参考書】

- ・M.Melvin and S.C.Norrbin, *International Money and Finance*, 8th Edition, Elsevier, 2013.
- ・P.R.Krugman and M.Obstfeld, *International Economics : Theory and Policy*, 10th Edition, Pearson Education, 2014.
- ・小川英治・岡野衛士『国際金融』東洋経済新報社、2016年。
- ・高木信二『入門 国際金融』[第4版]日本評論社、2011年。

## 【成績評価の方法と基準】

レポートの提出（70%）に加え、授業中の参加の度合・貢献度（30%）を考慮して判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

一般に国際金融論は難解であるとの感想が寄せられることが多い。本講義は出来るだけ平易に国際金融の理論等を解説したいと考えている。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際金融・金融史

<研究テーマ>

国際銀行の歴史的研究

<主要研究業績>

- ・「グローバリゼーションと国際通貨ドル」・「国際資本移動とアジア通貨危機」SGCIME 編『グローバル資本主義と世界編成・国民国家システム：I 世界経済の構造と動態』御茶の水書房 2003年
- ・「1990年代の香港金融市場における邦銀」法政大学経営学会『経営志林』第40巻第1号、2003年
- ・『国際金融論I』法政大学通信教育部、2020年

## 【Outline and objectives】

In the modern world, globalization has progressed, and the phenomenon of financialization (financial globalization) has had a major impact on the world economy. This lecture attempts to analyze global financial issues under globalization from a theoretical, institutional, historical, and policy perspective.

MAN600F1 - 0065

## 人材・組織マネジメント演習

西川 真規子

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

## 【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導	① テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導	② テーマ設定について
第5回	研究計画書の作成指導	③ 研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討

第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

#### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

#### 【Outline and objectives】

Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.

MAN600F1 - 0065

## 人材・組織マネジメント演習

西川 真規子

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

#### 【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討

第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

#### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

#### 【Outline and objectives】

Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.

MAN600F1 - 0065

## 人材・組織マネジメント演習

奥西 好夫

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

#### 【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討

第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

#### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

#### 【Outline and objectives】

You will learn the basics of research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is you who actually conduct research, and the instructor will advise you to proceed on the right track.

MAN600F1 - 0065

## 人材・組織マネジメント演習

奥西 好夫

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

#### 【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討

第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

#### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

#### 【Outline and objectives】

You will learn the basics of research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is you who actually conduct research, and the instructor will advise you to proceed on the right track.

## 人材・組織マネジメント演習

長岡 健

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

#### 【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討

第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

#### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

#### 【Outline and objectives】

Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise you to proceed on the right track.

MAN600F1 - 0065

## 人材・組織マネジメント演習

長岡 健

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

#### 【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討

第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

#### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

#### 【Outline and objectives】

Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise you to proceed on the right track.

MAN600F1 - 0065

## 人材・組織マネジメント演習

小川 憲彦

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

#### 【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討

第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

#### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

#### 【Outline and objectives】

You will learn the basics of research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is you who actually conduct research, and the instructor will advise you to proceed on the right track.

MAN600F1 - 0065

## 人材・組織マネジメント演習

小川 憲彦

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

#### 【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討

第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

#### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

#### 【Outline and objectives】

You will learn the basics of research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is you who actually conduct research, and the instructor will advise you to proceed on the right track.

MAN600F1 - 0065

## 人材・組織マネジメント演習

岸 真理子

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

#### 【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討

第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

#### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

#### 【Outline and objectives】

You will learn the basics of research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is you who actually conduct research, and the instructor will advise you to proceed on the right track.

MAN600F1 - 0065

## 人材・組織マネジメント演習

岸 眞理子

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

#### 【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討

第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第25回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第26回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第27回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第28回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

#### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

#### 【Outline and objectives】

You will learn the basics of research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is you who actually conduct research, and the instructor will advise you to proceed on the right track.

MAN600F1 - 0065

## 人材・組織マネジメント演習

佐野 嘉秀

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

#### 【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第2回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第3回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第4回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第5回	先行研究の検討①	先行研究の渉獵方法
第6回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第7回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第8回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第9回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討

- 第12回 調査方法の検討④ 調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
- 第13回 調査方法の検討⑤ パイロット調査の報告
- 第14回 コース中間報告会の準備 発表報告資料やプレゼンへの助言

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんです。テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

#### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点5割、修士論文の評価5割で総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

#### 【Outline and objectives】

You will learn the basics of research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is you who actually conduct research, and the instructor will advise you to proceed on the right track.

MAN600F1 - 0065

## 人材・組織マネジメント演習

佐野 嘉秀

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

#### 【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第16回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第17回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第18回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第19回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第20回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第21回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第22回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第23回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第24回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について

第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

**【テキスト（教科書）】**

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

**【参考書】**

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

**【成績評価の方法と基準】**

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

**【学生が準備すべき機器他】**

クラス人数分の報告資料。

**【Outline and objectives】**

You will learn the basics of research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is you who actually conduct research, and the instructor will advise you to proceed on the right track.

MAN600F1 - 0065

**人材・組織マネジメント演習**

永山 晋

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

**【到達目標】**

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に依りて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月25日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定

第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的課題に指示された文献等はもちろんです。テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

#### 【テキスト（教科書）】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【参考書】

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

クラス人数分の報告資料。

#### 【Outline and objectives】

You will learn the basics of research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is you who actually conduct research, and the instructor will advise you to proceed on the right track.

MAN600F1 - 0065

## 人材・組織マネジメント演習

永山 晋

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

#### 【到達目標】

「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。

（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

演習は1～3名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。

ただし、4月上旬のプロポーザル発表会と9月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について

第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

**【テキスト（教科書）】**

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

**【参考書】**

履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

**【成績評価の方法と基準】**

報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

**【学生が準備すべき機器他】**

クラス人数分の報告資料。

**【Outline and objectives】**

You will learn the basics of research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is you who actually conduct research, and the instructor will advise you to proceed on the right track.

MAN500F1 - 0066

**ワークショップ（人材・組織マネジメント）**

長岡 健

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

人材と組織のマネジメントにおいて、「変化」は避けることのできない現象である。ビジネス環境の変化、戦略の転換、組織内に発生する硬直化などに伴い、大小さまざまな規模で「変化への対応」が絶えず要求されている。この授業では、実務家や研究者をゲスト講師として招き、様々なビジネス分野における事例や、実践的研究について紹介してもらう。そして、「ビジネス環境の変化にいかに対応するか」という問題意識を起点として、これらの事例／実践的研究に対する検討を進める。今年度は、「組織変革の戦略と方法」、「ダイバーシティ推進の可能性と課題」、「人材／組織マネジメントの新潮流を探る」という3つの視点から、今日の人材／組織マネジメントが直面する諸問題に対する洞察力を磨いていくことをめざす。

**【到達目標】**

- 1) 授業で取り上げた「組織変革戦略／方法」の事例を分析し、その組織マネジメント上の可能性と課題を理解する。
- 2) 授業で取り上げた「ダイバーシティ推進」の事例を分析し、その人材マネジメント上の可能性と課題を理解する。
- 3) 授業で取り上げた事例の分析／検討を通じて、人材／組織マネジメントの今日的課題の所在を知ると共に、その背後にある社会環境の変化について理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

- 1) 全 14 回を zoom を使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）で進めていく。
- 2) 一方向的な講義形式ではなく、双方参加型の授業運営を行う。
- 3) 〈ゲスト講義〉〈担当教員の講義〉の基本的な進め方は以下の通り。

- ゲスト講義（事例の紹介）：100 分
- 検討課題についてのグループ討議：40 分
- グループ討議の結果報告&全体討議：40 分
- 教員による総括（まとめ講義）：20 分

〈グループ発表〉では、少人数のグループで「ゲスト講義の要約」「興味深かった点」「疑問点/問題点」を検討し、20 分程度の発表を行う。加えて、クラス全体でのディスカッション、及び、担当教員による関連する理論の解説を通じて考察を深める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	〈担当教員の講義 1〉 ・授業のねらいと進め方 ・ビジネスにおける実践と研究の関係
第 2 回	導入講義	〈担当教員の講義 2〉 ・組織変革の戦略と方法に関する導入講義 ・ダイバーシティ・マネジメントに関する導入講義

- 第3回 組織変革の戦略と方法 (1) 〈ゲスト講義 1〉  
組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
- 第4回 組織変革の戦略と方法 (2) 〈ゲスト講義 2〉  
組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
- 第5回 組織変革の戦略と方法 (3) 〈ゲスト講義 3〉  
組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
- 第6回 組織変革の戦略と方法 (4) 〈ゲスト講義 4〉  
組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
- 第7回 中間報告会 (1) 〈グループ発表 1〉  
ゲスト講義 1～4 についてのグループ発表とまとめ講義
- 第8回 ダイバーシティ推進の可能性と課題 (1) 〈ゲスト講義 5〉  
ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
- 第9回 ダイバーシティ推進の可能性と課題 (2) 〈ゲスト講義 6〉  
ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
- 第10回 ダイバーシティ推進の可能性と課題 (3) 〈ゲスト講義 7〉  
ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
- 第11回 ダイバーシティ推進の可能性と課題 (4) 〈ゲスト講義 8〉  
ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
- 第12回 中間報告会 (2) 〈グループ発表 2〉  
ゲスト講義 5～8 についてのグループ発表とまとめ講義
- 第13回 人材／組織マネジメントの新潮流を探る (1) 〈ゲスト講義 9〉  
人材マネジメントの新潮流に関する事例の紹介と検討
- 第14回 人材／組織マネジメントの新潮流を探る (2) 〈ゲスト講義 10〉  
組織マネジメントの新潮流に関する事例の紹介と検討

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 授業内での検討をもとに、ゲスト講義に関する気づきをまとめ、「リフレクションシート」を個人で作成する。
- 2) ゲスト講義について、授業時間外にグループで議論を行い、「中間報告会」において、グループ発表を行う。
- 2) 全授業終了後、授業全体を振り返った上で、気づきをまとめ、「最終レポート」を個人で作成する。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。

#### 【参考書】

講義の中で適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業（14回）への参画度：30%  
（評価基準）出席頻度；議論での積極性；授業への貢献度。
- 2) リフレクションシート（10回）：40%  
（評価基準）ゲスト講義についての理解の深さ；考察内容の深さ。
- 3) 中間報告会（2回）：10%  
（評価基準）ゲスト講義についての理解の深さ；；表現の明快性。
- 3) 最終レポート：20%  
（評価基準）考察内容の妥当性/新規性/進歩性；表現の明快性。

#### 【学生の意見等からの気づき】

「参加型」の授業運営を進めるよう心掛ける。

#### 【学生が準備すべき機器他】

- 1) 資料配布や課題提出のために、授業支援システムを利用する。
- 2) 受講者グループによる中間発表を行う。

#### 【その他の重要事項】

受講者の人数、関心、理解の進捗を勘案し、受講者と相談の上で、内容や構成を修正する場合がある。

#### 【担当教員の専門分野等】

《専門領域》

組織社会学、  
経営学習論、  
ポストモダン・エスノグラフィー

《研究テーマ》

組織と学習、  
組織エスノグラフィー、  
創造的なコラボレーションのデザイン

《主要研究業績》

『越境する対話と学び』（共著）  
『ダイアローグ 対話する組織』（共著）  
『企業内人材育成入門』（共著）

《ウェブサイト》

<http://www.tnlab.net/>

#### 【Outline and objectives】

In the areas of human resource management and organisation management, “change” is an indispensable phenomenon. In fact, business persons are ceaselessly required to cope with “changes” of various sizes, from a small team level to a large-scale corporate group level, in their organizational lives. Therefore, it can be said that the theme of “organisational change” has practical value in the field of organization studies. In this course, 10 guest speakers, including university-based researchers, business persons, and practitioners of NPO, deliver lectures on “organisational change” in various aspects, as they relate to the cases and/or the studies that the guest speakers are involved in. By discussing and analysing those cases and studies, we try to deepen our understanding of “organisational change”, and to find practical lessons learnt about how to cope with “change” issues in business organisations.

In particular, the main objectives of this course are to deepen our understanding of the following three points, 1) strategies and methodologies for organizational change, 2) diversity management in business organisations, and 3) new trend in the areas of human resource management and organisation management.

MAN500F1 - 0067

## 人的資源管理論

佐野 嘉秀

実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人的資源管理の基本的な考え方を学ぶとともに、個別の人的資源管理の分野、すなわち雇用区分、社員格付け、採用、教育訓練、配置転換、昇進、人事評価、賃金管理、福利厚生等について、主要な議論を把握する。また、そうした知見にてらして、参加者は、各人の身近にある企業や職場の事例をとりあげ、対応する実態や課題について報告・議論する。これらを通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人事管理の現状や課題について考える力を身につけることを目標としたい。

### 【到達目標】

①人事管理論の対象領域の広がりや基本的な考え方を学ぶ。②人事管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。③以上を踏まえ、身近な事例について考察する視点を学ぶ。④人事管理に関連する論文について批判的に検討する視点を学ぶ。⑤修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

授業時間（月曜 6 限・7 限）にリアルタイムのオンライン授業を行います。授業は、①人的資源管理論の基本的な理論・考え方・議論に関する講義と、②参加者による課題文献・事例の報告とディスカッションによる演習を組み合わせて進めます。できるだけ毎回、講義形式の部分に加えて、演習の部分があるようにし、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・ディスカッションの準備が課題となります。授業内容に関するおおよそのスケジュールは下記（授業計画）のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：人的資源管理の考え方と「理論」	人的資源管理の機能と担い手、「伝統的」人事管理と人的資源管理（HRM）のちがいや「理論」について学ぶ
第 2 回	雇用区分の多様化と人材ポートフォリオ	雇用区分の多様化の現状、人材ポートフォリオの理論について理解する
第 3 回	雇用区分の設計とキャリア管理	異なる雇用区分のあいだの仕事・キャリアの設計、雇用区分間の転換の仕組みについて考える
第 4 回	社員格付け制度の機能と多様性	社員格付け（等級）制度にもとめられる要件、格付け基準の多様性について理解する
第 5 回	社員格付け制度の変化と「成果主義」	「能力主義」および「成果主義」のもとでの社員格付け制度の特徴と合理性について考える
第 6 回	労働市場の変化と採用	採用の前提となる労働市場の変化について理解する、育成（make）か採用（buy）かの選択および R J P の理考え方について検討する

第 7 回	人的資源管理（HRM）のなかの人材育成（HRD）	人的資源管理のなかの人材育成の位置づけ、教育訓練の機能、配置転換の人的資源管理機能について理解する
第 8 回	人的資源管理の変化と人材育成	「投資」としての教育訓練の性格、変化する人的資源管理のもとでの配置転換・教育訓練について考える
第 9 回	昇進管理の機能と多様性	昇進の機能、国際的にみた日本の昇進管理の特徴、早期のエリート選抜について考える
第 10 回	昇進管理の変化と専門職制度	「フラット化」・高齢化のもとでの昇進の課題、専門職制度について検討する
第 11 回	変化のなかの賃金管理	賃金管理の基礎、「成果主義」化のなかでの賃金管理の特徴、雇用区分間の均衡処遇について考える
第 12 回	評価制度の課題と福利厚生	人事評価制度の課題のほか、福利厚生に関する近年の変化について考える
第 13 回	まとめ：人的資源管理の変化とライン・マネジャーの役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでのラインマネジャーの役割（人事部門との連携関係）について総括的に検討する
第 14 回	まとめ：人的資源管理の変化と人事部門の役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでの人事部門の役割（ライン・マネジャーとの連携関係）について総括的に検討する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各回のテーマに関連する課題の論文を授業内に提示します。受講者は、事前に論文を読んで、論点を把握し、疑問点やコメントを考えて授業にのぞんでください。それをもとに授業内で議論し、テーマに関する理解を深める予定です。また、各回について、1～2 名程度の代表者に課題論文についてのレジュメ作成を行ってもらいます。

### 【テキスト（教科書）】

テキストはとくに設定しません。学習支援システム上のパワーポイント資料をもとに授業を進めます。

### 【参考書】

- ①日本労働研究雑誌（<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/>）
- ②今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（第3版）』日本経済新聞社
- ③佐野嘉秀『英国の人事管理・日本の人事管理一日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（20 点）、文献・事例の報告（30 点）、議論への貢献（30 点）、最終レポート（20 点）  
授業への参加度、報告の担当回での報告内容のほか、授業内での議論への貢献度を評価します。最終的には、各自の問題関心に即した人的資源管理に関するレポートを提出してもらいます。以上を総合して最終的な評価を判定します。

### 【学生の意見等からの気づき】

人事管理の基礎に関する体系的な講義編成、学習支援システムによる配布資料の共有、参加者の実務を踏まえたディスカッションなど、高く評価していただいている本授業の良さを大事にしたいと思えます。

### 【その他の重要事項】

授業で利用するパワーポイント資料は、学習支援システムにて事前に入手できるようにします。適宜、プリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしてください。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>人的資源管理・産業社会学  
<研究テーマ>雇用システムの日英比較、就業形態の多様化と人事管理、人事部門とライン管理者の人事管理上の連携等  
<近年の主な業績（市販書籍のみ）>  
①『英国の人事管理・日本の人事管理一日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会、2021 年

- ②「生産職種の請負・派遣社員の就業意識」佐藤博樹・大木栄一編『人材サービス産業の新しい役割』有斐閣、2014年
- ③「企業内キャリアと人事管理」上林千恵子編『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房、2012年
- ④『実証 日本の人材ビジネス－新しい働き方と人事マネジメント』（共編著）日本経済新聞社、2010年
- ⑤「非典型雇用の人材活用－非典型雇用の仕事とその割り振り」佐藤博樹編『人事マネジメント』ミネルヴァ書房、2009年
- ⑥「『成果主義』先進企業の変革」（共著）中村圭介・石田光男（編）『ホワイトカラーの仕事と成果』東洋経済新報社、2005年

#### 【Outline and objectives】

Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system. We are to focus on each area of HRM system respectively. Wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM. Both lecture and discussion is expected. Students are supposed to participate in the discussion actively. Making presentation is also required.

MAN500F1 - 0069

## キャリアマネジメント論

小川 憲彦

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアに関する基本的な考え方・理論を学ぶことを目的とします。理論と受講者自身や他の受講生のキャリア事例とを照らし合わせることで、自身のキャリアの展望を考える機会を提供します。

#### 【到達目標】

授業を終えた段階で学生に期待するのは以下三点です。

- ①キャリアに関する主要理論を知っており、それら理論間の関係、発展のあり方を理解している
- ②個別具体の事例を理論と照らし合わせて、理論の意義や限界を考えることができる
- ③理論を参照しながら受講生自身のキャリア展望・開発を自律的に考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

クラスの前半では、キャリアに関する諸理論の講義を行います。その中で適宜、課題や課題を踏まえた受講者同士の意見交換・共有の場を設ける予定です。

クラスの後半は、受講者自身のキャリアに関する事例報告とこれに基づく意見交換を行う予定です。

ただし、受講人数によって発表時間や形式は変更があります。授業内容のおおよそのスケジュールは下記の通りですが、進捗状況や参加者人数等によって順序や内容の大幅な変更もあります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義方針や参加ルールの説明、発表順などを決めるので参加は必須です。
2	キャリア論の性質	経営学におけるキャリア論の位置づけについて
3-4	職業の決定①	社会学的職業決定の理論
5-6	職業の決定②	心理学的職業決定の理論
7-9	キャリア発達の理論	ライフサイクル論
10	職場適応	組織社会化
11	職場の人間関係と出世	LMX、キャリア・ツリー
12-13	キャリアの移行期	キャリア・トランジション論
14	キャリア中期	キャリア・プラトー
15	近年のキャリア論	偶発性、不確実性の意思決定

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回、その場で記入する課題と、次回までに準備する課題があります。いわゆるレポートも数回予定しています。事前に指示された本や論文（英文を含む）を読んできてもらうこともあります。最大の課題は、各自のキャリアについての発表準備です。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。

#### 【参考書】

Greenhaus, J.H., Callanan, G.A., & Goldshalk, V.M. (1999). Career Management 3rd. Orlando, FL: Harcourt.

Gunz, H. & Peiperl, M. eds. (2007). Handbook of Career Studies. Thousand Oaks, California: Sage.

金井壽宏 (2002)『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。

エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏 (訳) (2003)『キャリア・アンカー ―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

#### 【成績評価の方法と基準】

以下の配分で総合的に評価します。

講義への参加:50点

- ・出席や発言の頻度、議論への参加度や貢献度、課題の質など
- ・担当回における報告内容や資料・準備の度合い・質、提出物や質疑応答の内容等

レポート：50点

内容、形式、論理性、期限など

(レポート内容は講義内で指示します)

#### 【学生の意見等からの気づき】

スケジュールは昨年度のものであり、受講者数等によって講義内容や方法は変わることがあります。それらを理解したうえで参加して下さい。

また、科目履修生の方等も資料等の配布や連絡に授業支援システムを使いますので必ず登録し、適宜チェックして下さい。その方法は大学院事務で事前に確認しておいて下さい。

システムが使えない場合や緊急連絡は以下にメールしてください。

nogawa ■ hosei.ac.jp (■を@に変換)

#### 【学生が準備すべき機器他】

自身の発表資料などは人数分印刷して準備して臨んで下さい。

#### 【その他の重要事項】

・履修者は、初回講義での説明内容を踏まえ、これに同意したとみなします(初回講義の参加の有無は加味しませんので各自でフォローして下さい)。

・経営学研究科でのキャリア論という性質上、組織という文脈を前提とした議論が多いため、組織での仕事経験がない方にはあまり適したものではないかもしれません。それを踏まえて参加して下さい。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

経営管理論、組織行動論

<研究テーマ>

組織社会化、組織文化、人材採用等

<主要研究業績>

・Norihiko Ogawa, Osato, D. & K.Takahashi (2015) "Criteria for Screening Job Applicants in Japanese Companies: Policy Capturing Approach," *Journal of Academy of Business and Economics*, Vol.15 (1), pp.101-109.

・Norihiko Ogawa, Takahashi, K. & D.Osato (2014) "The Empathetic Sorting Technique: Measuring Corporate Culture by Sorting Illustrated Value Statements" *Business Studies Journal*, Vol.6, pp.81-103.

・小川憲彦 (2013)「人材育成方針がもたらす若手従業員への影響」金井壽宏・鈴木

木竜太編著『日本のキャリア研究組織人のキャリア・ダイナミクス』白桃書房、第Ⅲ部第6章、169 - 196頁。

#### 【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn basic career theories and their relationships. You are expected to participate class discussions actively as well as to reflect your own career using those theoretical tools.

MAN500F1 - 0071

## 労働市場論

藤本 真

実務教員：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業では、日本の労働市場の構造と現状について、制度的なアプローチから説明していきます。ここでいう「制度」とは、政府が法律などを通じて管理しつつ、求人者と求職者そして仲介者ら市場関係者の日々の参加によって作り上げられていく労働力需給調整システムを意味します。

現実の労働市場は、単純なマーケットメカニズムによって構造化されるものではなく、その国・地域の社会・文化や政治・経済が色濃く反映され組み上げられた「制度」から数々の制約を受けつつ、長い経緯を経て形成されてきた社会システムであるからです。具体的には、職業紹介、労働者派遣、求人広告などの「制度(事業システム)」を舞台に、それらの事業マーケット担当者(公的機関の職業相談担当者や人材紹介コンサルタントなど)の目線を加えながら、その市場の構造と規模、法の規制と経緯、需給(求人者と求職者)双方の動向、情報化・国際化・高齢化の影響などについて検討していきます。

#### 【到達目標】

現在、日本も含め、多くの先進諸国において労働市場は、政府の法制度によって管理されています。日本の政府はこれまで、日本の労働市場に対してどう関与してきたのか、そしてその関与によって現在のマーケットがどう動き、経済社会の変化とともに今後どこへ向かうとしているのか。授業の到達目標は、こうした労働市場に関する洞察力を向上させることにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

1. 本授業は、オンライン授業(リアルタイム配信型)として、実施します。

2. 第1回から第3回までは、この授業の進め方などに関するイントロダクション、ガイダンスと、労働市場および日本の労働市場についての基本的な枠組みに関する講義を実施します。

3. 第4回目以降は、日本の労働市場に関わる個別のテーマを取り上げ、そのテーマについての「講義」(6時限目)と「演習」(7時限目)を行います。

4. 「講義」では、各回のテーマに関連して、これまでの傾向や近年の変化の動向、生じている課題や新たに進められている取り組みについてトピックを整理し、そのテーマに関する基本的な理解の促進を目指します。

5. 「演習」では、各回のテーマに関連して、現状と課題及び個人的な問題意識をまとめた参加者作成のレポートの報告に基づき、ディスカッションを行います。

6. 授業で取り上げる予定の個別テーマとしては、「授業計画」に挙げたものや、以下のようなものを考えています(「授業計画」には、2020年度の授業で取り上げたテーマとそのテーマに関わるトピックを、取り上げた順に記しています)。今年度の授業で実際に取り上げるテーマと順番については、第2回のガイダンスの際に参加者の皆さんと協議の上、決定します。

<取り上げる個別テーマの例：「授業計画」に挙げたもの以外>

- ホワイトカラー労働市場の流動化
- 公共職業訓練とキャリア形成支援の諸政策
- 職業能力評価のための社会的枠組みと課題
- 就職・キャリア形成困難者に対する支援の取り組み
- 副業、雇用類似の働き方と労働市場
- 新型コロナウイルスの感染拡大と労働市場

7. 授業期間中、マッチングや採用、労働市場の諸制度に関わる実務者の経験をうかがうことで、日本の労働市場についての理解をより深める機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明。
第 2 回	ガイダンス（6 時間目）・労働市場論の基礎①「労働市場とは」（7 時間目）	ガイダンス参加者の問題関心の共有、取り上げるテーマの検討 労働市場論の基礎①- 「労働市場」を捉える 3 つの観点、労働市場の参加者、労働市場の機能
第 3 回	労働市場論の基礎②「日本の労働市場の基本的枠組み」	日本における雇用・就業機会と賃金、雇用・就業契約とその終了、労働市場の「セーフティネット」
第 4 回	日本の労働市場の現状と課題①「高卒・大卒の労働市場」	「売り手市場」・「買い手市場」、就職氷河期、リクナビ、エントリーシート、インターン、新卒一括採用、通年採用、第 2 新卒、一人一社制、就職協定、採用活動に関する指針、採用活動の早期化・長期化、「オワハラ」、就活サークル、就活塾、グローバル採用
第 5 回	日本の労働市場の現状と課題②「国際労働力移動に関わる諸制度と課題」	日本国内で働く外国人雇用者の急増、外国人の採用と外国人労働者、日系人出稼ぎ労働者、労働許可制、入国管理制度、在留資格、技能実習生、特定技能制度
第 6 回	日本の労働市場の現状と課題③「非正規化の進展と格差対策」	フリーター、七五三問題、日雇い派遣の禁止、正規登用制度、労働契約法の改正、同一労働・同一賃金
第 7 回	日本の労働市場の現状と課題④「日本の「雇用改革」について考える」	労働ビッグバン、「働き方改革」、規制改革会議、解雇の金銭解決
第 8 回	日本の労働市場の現状と課題⑤「労働者派遣・請負・アウトソーシングの現状と課題」	登録型、常用型、自由化業務、事前面接、紹介予定派遣、派遣法の度重なる改正、構内請負労働、事務処理請負業、BPO、偽装請負
第 9 回	日本の労働市場の現状と課題⑥「女性就業者をめぐる労働市場」	M 字カーブ、マミートラック、パートタイム労働、103 万円の壁・130 万円の壁、男女間賃金格差、女性の大学進学率、性別職域分離、統計的差別、男女雇用機会均等法、コース別採用、女性活躍推進法、アフターマティブ・アクション、ファミリー・フレンドリー、ワークライフバランス
第 10 回	日本の労働市場の現状と課題⑦「高齢化する労働市場」	高齢者雇用安定法、年金制度改革、雇用と年金の接続、雇用確保措置、長澤運輸事件、65 歳定年制、出向・転籍、早期退職、アウトプレースメント、産業雇用安定センター、シルバー人材センター、NPO / ボランティア、高齢者の能力開発・意識改革
第 11 回	日本の労働市場の現状と課題⑧「労働市場における「差別」の問題」	「差別」の現状、問題への対応、残された課題：性差別（直接差別・間接差別）、LGBT の問題、定年制と年齢差別、人種差別、同和問題、ダイバーシティ、思想・信仰による差別
第 12 回	日本の労働市場の現状と課題⑨「労働市場における都市と地方」	年齢別・業種別などの観点から見た都市・地方の労働市場の特徴、マッチング・プロセスの相違、人材サービスの活動状況、地方-都市間の労働移動

第 13 回 日本の労働市場の現状と課題⑩「中小企業の人手不足とマッチング支援」

第 14 回 日本の労働市場の現状と課題⑪「技術の進化・革新と労働市場」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。

【参考書】

毎回、次の回のテーマの参考となる文献・資料等を、提示します。

【成績評価の方法と基準】

1. 各回の出席を「授業における学習姿勢」として評価します。（第 2 回以降。2 点 × 出席回数）
2. 第 4 回目以降の各回におけるレポートの提出を評価します。（3 点 × 提出回数）
3. 出席、レポート提出に加えて、演習での「レポート報告」を評価します。

（15 点 × 担当教員の指名により授業内で報告した回数）

以上の 3 つの評価項目において

- 「授業における学習姿勢」（上限 26 点）
- 「演習時のレポート全提出」（上限 33 点）
- 3 回の「レポート報告」（45 点）

を達成すれば、100 点（A+）に到達するというイメージです。

【学生の意見等からの気づき】

1. 「講義」では、日本の労働市場に関わる多種多様なテーマについて、①現状を左右する制度的な枠組み、②各テーマに関わる現象の経済・社会全体における位置付け、③それぞれのテーマに関わる当事者（企業、労働者、政策当局など）の活動・意向を、データに基づきながら、わかりやすく、具体的に説明し、労働市場の問題を立体的・複眼的にとらえるきっかけを提供していきます。
2. 「演習」では、「講義」の内容と、参加者のこれまでの経験や関心を踏まえて、日本の労働市場の活性化やよりよいあり方につながる今後の取組みについて、活発に議論していきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

産業社会学、人的資源管理論

<研究テーマ>

①中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動。

②能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能。

③環境変化のもとでの日本企業の能力開発活動、キャリア管理。

<主要研究業績>

（書籍【共著】）

○労働政策研究・研修機構編 [2012] 『中小企業における人材育成・能力開発』, 労働政策研究・研修機構。

○労働政策研究・研修機構編 [2014] 『求職者支援制度に関する調査研究—訓練実施機関についての調査・分析—』, 労働政策研究・研修機構。

○労働政策研究・研修機構編 [2017] 『日本企業における人材育成・能力開発・キャリア管理』, 労働政策研究・研修機構。

○梅崎修・池田心豪・藤本真編者 [2019] 『労働・職場調査ガイドブック』, 中央経済社。

（論文）

○藤本真 [2012] 「民間教育訓練プロバイダーにおける教育訓練サービスの改善活動—サービス改善に向けた活動を規定する要因」, 日本労働研究雑誌 619 号。

○藤本真 [2018] 「「キャリア自律」はどんな企業で進められるのか」, 日本労働研究雑誌 691 号。

○藤本真 [2019] 「中小企業セクターで働くシニア労働者」, 日本政策金融公庫論集 44 号。

## 【Outline and objectives】

The actual labor market is never structured by a simple market mechanism. It has received numerous constraints from the "institution" that was reflected in the society, culture, politics and economy of the country/region. It is a social system that has been formed over a long process.

In the lesson, we try to understand the structure and current situation of Japanese labor market from an institutional approach. Specifically, with the theme of employment introduction, worker dispatch, matching business, and so on, we will consider the structure and scale of the market, the regulation, and the impact of globalization and aging.

MAN500F1 - 0072

## 労使コミュニケーション論

呉 学殊

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における労使コミュニケーションの実態と問題点を把握して望ましいあり方を探ってその実践に向けた企業、労働組合、政府のなすべき方向性を具体的に認識する。

## 【到達目標】

企業の労使コミュニケーションの実態を把握できる思考力を得る。  
 労使コミュニケーションの経営資源性の内容を把握できる。  
 労使コミュニケーションを中心に企業、労働組合、国のあり方を的確に認識できる。  
 社会の望ましいあり方を考える力を得る。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

基本的に学生は講師の書いた本、論文、報告書を毎回読んで報告して議論する。講師は、論文等の執筆背景等を述べて議論を深めていく。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形式は、オンライン授業（リアルタイム配信型）を予定している。ただし、受講生の要望や状況によって変更する場合がある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション (1)	授業の基本的な方針について述べて学生からコメントを頂き方向性を確定する
第2回	オリエンテーション (2)	授業で取り上げる講師の本、論文、報告書について概略的にその内容を紹介する
第3回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点 (1)	日本の内部労働市場、国際比較等から労使コミュニケーションの問題点を明らかにする
第4回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点 (2)	労働組合の組織率、従業員過半数代表制の問題点を明らかにする
第5回	日本の労使コミュニケーションの方向性 (1)	問題点の解決に繋がる法的な措置のあり方を探る
第6回	日本の労使コミュニケーションの方向性 (2)	諸外国の法制を紹介しながらより具体的に法的な組織の内容を考える
第7回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化 (1)	労働組合の結成の実態、結成に伴う労使関係の変化を確認する
第8回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化 (2)	労働組合結成効果を考える
第9回	パートタイマーの組織化と異見反映システム (1)	非正規労働者問題の実態と労働組合の組織化実態
第10回	パートタイマーの組織化と異見反映システム (2)	組織化戦略の違いがどう現れてその結果はどのようなものかを学ぶ

第 11 回	CSR と企業別組合の役割 (1)	CSR の内容と動向
第 12 回	CSR と企業別組合の役割 (2)	企業別組合が CSR におけるどのような役割を果たせるかを学ぶ
第 13 回	企業グループ連結経営と人事労務管理 (1)	個別企業の事例を取り上げて、企業グループ経営の実態を把握する
第 14 回	企業グループ連結経営と人事労務管理 (2)	企業グループ経営に伴う人事労務管理の変化や課題、また、労使関係の変化を学ぶ
第 15 回	純粋持株会社企業グループの労使関係 (1)	4 つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性を把握する
第 16 回	純粋持株会社企業グループの労使関係 (2)	4 つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性について議論と理解を深める
第 17 回	企業グループの労使関係の望ましい姿 (1)	企業グループの労使関係の望ましい姿の事例を把握する
第 18 回	企業グループの労使関係の望ましい姿 (2)	企業グループの労使関係の望ましい姿についての議論を通じて、その姿の波及可能性を探る
第 19 回	中小企業の労使コミュニケーション (1)	中小企業の労使コミュニケーションの実態についてアンケート調査結果から学ぶ
第 20 回	中小企業の労使コミュニケーション (2)	中小企業の労使コミュニケーションの多様性について議論を通じて理解力を高める
第 21 回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例 (1)	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例の実態を学ぶ
第 22 回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例 (2)	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例から労使コミュニケーションの経営資源性を理解する
第 23 回	個別労働紛争の実態と解決 (1)	個別労働紛争の実態をヒアリング調査とアンケート調査から理解する
第 24 回	個別労働紛争の実態と解決 (2)	個別労働紛争の解決・予防におけるユニオン・合同労組の役割・意義について議論を通じて理解度を高める
第 25 回	事例発表 (1)	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第 26 回	事例発表 (2)	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第 27 回	労使コミュニケーションの経営資源性 (1)	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために必要な課題を労使関係の実態、法制等の観点から探り、解決への認識を高める
第 28 回	労使コミュニケーションの経営資源性 (2)	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために想像力を高めて、その実現可能性を目指す

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週に発表する論文等を読むこと

#### 【テキスト（教科書）】

呉学殊（2013）『労使関係のフロンティアー労働組合の羅針盤』（増補版）労働政策研究・研修機構、本体定価 3500 円。

労働政策研究・研修機構（2013）『労使コミュニケーションの経営資源性と課題』労働政策研究・研修機構。

#### 【参考書】

下記、講師の勤め先 HP

<http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html>

#### 【成績評価の方法と基準】

授業発表内容（30 %）

授業への貢献度：出席、積極的な発言（30 %）

レポート（自分の事例発表をベースにしたもの）（40 %）

#### 【学生の意見等からの気づき】

今後自分の職場における労使コミュニケーションの改善と日本の本質的な再生に向けた授業と考えて積極的に参加してほしい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

ない。

#### 【労使コミュニケーション論】

<専門領域> 労使関係論、産業社会学

<研究テーマ> 労使関係、CSR、労働組合の組織化、企業組織再編

<主要研究業績> 次のサイトをご参照

<http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html>

#### 【Outline and objectives】

This class aims to understand the actual conditions and problems of labor-management communication in Japan, and to explore desirable ways and specifically recognize the direction that companies, labor unions and governments should take for practicing.

## 組織行動論

西川 真規子

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織という場における個人の態度や行動、人と人との関係性において生じるさまざまな問題・課題について、社会心理学、社会学を中心とした学際的なアプローチを用いて理解を深め、解決・改善をはかるのが組織行動論である。この授業の目的は、このような組織行動論の基本アプローチを理解し、組織行動に関わる主要概念・理論を学習し、組織の現場へ応用する力を身につけていくことにある。今期の授業ではリーダーシップに注目しつつ、学術的アプローチへの理解を深めていく。

## 【到達目標】

①組織の現場で生じる「ひと」に関わる現象について、社会科学の概念・理論を通じて客観的に捉えられるようになる ②自らの職場における組織行動上の課題・問題を抽出し、関連する先行研究を参照し、課題・問題を分析（診断）できる ③②の分析（診断）結果をもとに、職場の「ひと」に関わる課題・問題の有効な改善・解決策を提示できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で実施する。

授業は以下 3 つの活動によって構成される

①講義や専門文献の読解を通じて組織行動に関する基礎理論や応用を学ぶ ②受講者自らの組織体験、他の受講生の体験の共有をはかり、これらに対する討議を通じて、現場での「ひと」に関わる現象を組織行動の視点から客観的に振り返る ③受講者自らが所属する組織の「ひと」に関わる課題・問題について先行研究を参考にしつつ分析し、解決・改善策をレポートとしてまとめる

尚、授業（講義や発表、議論）、レポートは日本語を使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	社会科学のアプローチ	組織行動論と職場の課題 リーダーシップ論への導入 授業の進め方
2	Trait Approach	課題共有 1 テキスト発表 1 ケース分析 1
3	Skills Approach	課題共有 2 テキスト発表 2 ケース分析 2
4	Behavioral Approach	課題共有 3 テキスト発表 3 ケース分析 3
5	Situational Approach	課題共有 4 テキスト発表 4 ケース分析 4
6	Path-Goal Theory	課題共有 5 テキスト発表 5 ケース分析 5
7	中間発表	これまで学んだアプローチを用いた自組織の分析を発表

8	Leader-Member Exchange Theory	課題共有 6 テキスト発表 6 ケース分析 6
9	Transformational Leadership	課題共有 7 テキスト発表 7 ケース分析 7
10	Authentic Leadership	課題共有 8 テキスト発表 8 ケース分析 8
11	Servant Leadership	課題共有 9 テキスト発表 9 ケース分析 9
12	Adaptive Leadership	課題共有 10 テキスト発表 10 ケース分析 10
13	Followership	課題共有 11 テキスト発表 11 ケース分析 11
14	まとめ レポート発表	これまでの学習のまとめ 自らの職場の課題についての分析結果と改善策を提示

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①次週の本テキストの読解:発表担当者を指定するので、担当者は資料を事前に準備する。担当者以外も事前に予習の上、分からない箇所、質問等を準備して討議に備える。②次週に向けて自己、自組織の分析を行う。③各回の学習内容を生かし、自らの組織課題の改善策を適宜修正する。以上の準備や復習に必要な学習時間は 4 時間程度とする（但し、発表担当の場合はこれ以上の時間を要する）。

## 【テキスト（教科書）】

*Leadership: Theory and Practice 9th edition* by Peter G. Northouse, 2021, Sage (ISBN-10: 1544397569 ISBN-13: 978-1544397566)

最新版である第 9 版を購入のこと。尚、電子書籍ではなくペーパーバックをすすめる。

## 【参考書】

以下は参考書であり購入の必要はない。但し、社会科学を初めて学ぶ受講生の場合は、購入をすすめる。①山岸俊男（編）『社会心理学キーワード』有斐閣、2001 ②西川真規子『はじめての組織行動論』新世社、2021

## 【成績評価の方法と基準】

①担当箇所の準備・発表・討議への参加（授業への貢献） 50 点  
②レポート 50 点（レポートは、組織で生じる事象を客観的に捉えられているか、理論・概念を正確に理解・応用しメカニズムの解明がなされているか、メカニズムの解明に沿って実践可能な解決策が提示されているか、にて評価。）

## 【学生の意見等からの気づき】

専門知識の理解にとどまらず応用力が身につくという本授業のメリットをさらに強化していく。進行速度が速いと指摘を受け、受講生の習熟度に合わせより丁寧な講義を心がける。

## 【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを利用するので受講者は授業開始後速やかに学習支援システムへ登録のこと。

## 【その他の重要事項】

この授業は就業経験を有する社会人院生を対象とする。授業では受講生のこれまでの就労体験の振り返りや実際の就労現場での生きたデータの参照を必要とする。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 組織行動論、経済社会学 <研究テーマ> ジェンダーと労働、労働と生活 <主要研究業績> ①“(Re)defining Care Workers as Knowledge Workers”, *Gender, Work and Organization*, Vol.18 No.1 January 2011 ②『ケアワーク 支える力をどう育むか：スキル習得の仕組みとワークライフバランス』日本経済新聞出版社 2008 年 ③『感情労働とその評価』『大原社会問題研究所雑誌』2006 年 No.567

## 【Outline and objectives】

Organizational behavior seeks to understand human behavior in organizational contexts. Students will learn the approaches of organizational behavior, by studying concepts and theories mainly developed in the field of social psychology and sociology. Students will also acquire the knowledge and skills to analyse problems found in their organization and to propose prospective solutions to the problems.

MAN500F1 - 0075

## 経営情報論

岸 眞理子

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報論は、経営の視点から、企業を中心に様々な組織の情報処理活動について、これまで培われてきた理論やモデルを学び、これを応用し発展させると同時に、実際の組織の情報処理活動の事例から、実践的知見を得ることで、これを一般化しようとする学問領域です。

この授業では、ICT(情報技術)環境を前提とし、組織がいかにして有効な情報処理システムとして機能し得るのかについて考察することを目的としています。

## 【到達目標】

経営情報論は、理論と実践とを相互作用させ、その相乗効果によってレベルアップを図っていく独特の学問領域です。

この授業では、経営情報論の主要なテーマについて基礎となる理論や概念を学び、これらを実際の企業活動の様々な事例に応用することで、どのようにして企業組織が一つの有効な情報処理システムとして機能し得るのかについて、理論から実践へと向かう領域について検討できるようになるとともに、実際の企業事例の詳細な分析によって、実践から得られた知見を理論にフィードバックし、これを発展させていく領域にも目を向けることを学びます。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

コロナ禍の状況が改善しなければ、オンラインでの開講となります。具体的な実施方法については、授業開始日までに、学習支援システム上でお知らせします。受講を検討されている方は、必ず、学習支援システムで仮登録をするようにしてください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の確認 経営情報論の学問領域 経営情報論への接近方法
2	組織と情報処理	情報処理システムとしての組織
3	技術と組織	プロセスとアクション
4	組織の意思決定	問題解決と意思決定プロセス
5	ケース・スタディ (1)	ゲスト・スピーカーによる事例紹介と分析
6	組織コミュニケーションの変革	ICTによるコミュニケーション
7	デジタル・メディアと相互理解	メディア能力の組織的開発
8	メッセージの新たな活用	ネットワーク分析
9	ケース・スタディ (2)	ゲスト・スピーカーによる事例紹介と分析
10	企業戦略と情報活用	組織のケイパビリティと組織ルーティン
11	ナレッジ・マネジメント	知識の創造と活用
12	組織と組織化	ICTによる組織間関係の展開

- 13 ケース・スタディ ゲスト・スピーカーによる事例紹介(3)  
14 課題についての報告会 課題報告、レポート提出

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。理論や概念の理解と事例分析に積極的に参加できるよう、予め指定された教材を学習して授業の臨むことが求められます。

授業の詳細や報告会の課題については、初回のイントロダクションにおいて説明されます。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しませんが、初回のイントロダクションにおいて、毎回ごとに主要教材が指定されます。

#### 【参考書】

初回のイントロダクションにおいて、毎回ごとに参考教材一覧が提示されます。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価配分は基本的には下記のとおりですが、授業の実施方法の変更により成績評価も変更となる可能性があります。変更となった場合、学習支援システムに掲示します。

- ・平常点（発言の頻度や内容、議論への貢献度）：30%
- ・発表内容：40%
- ・レポート内容：30%

#### 【学生の意見等からの気づき】

ゲスト・スピーカーによるスピーチとディスカッションは好評により継続します。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経営情報論、経営組織論  
<研究テーマ> 組織のコミュニケーション、ICTと組織の情報処理  
<関連研究業績>

- ①『経営情報学入門』（共編著、放送大学振興会、2019年）
- ②『メディア・リッチネス理論の再構想』（中央経済社、2014年）
- ③ Perceptions and use of electronic media: Testing the relationship between organizational interpretational differences and media richness, *Information and Management* 45(5), 2008.
- ④『情報技術を活かす組織能力ーITケイパビリティの事例研究ー』（共編著、中央経済社、2004年）

#### 【Outline and objectives】

Organizations and Information Management involves learning the theories and models of corporate information processing, applying it to practice and developing it, and at the same time obtaining practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.

The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.

MAN600F1 - 0078

## マーケティング演習

竹内 淑恵

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

#### 【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。

授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】

##### 春学期

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについての指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

#### 【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

#### 【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

#### 【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

#### 【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

## 【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

## マーケティング演習

竹内 淑恵

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

## 【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。

授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探査やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

## 【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

## 【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

## 【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

**【Outline and objectives】**

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

**マーケティング演習**

田路 則子

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

**【到達目標】**

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外にもフィードバックを行う。

授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

**春学期**

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

**【テキスト（教科書）】**

適宜紹介する。

**【参考書】**

指導教員からの指示に従うこと。

**【成績評価の方法と基準】**

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

**【学生の意見等からの気づき】**

スケジュール管理に留意する。

## 【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

## マーケティング演習

田路 則子

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

## 【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。

授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探査やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

## 【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

## 【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

## 【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

**【Outline and objectives】**

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

**マーケティング演習**

木村 純子

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

**【到達目標】**

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。

授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

**春学期**

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

**【テキスト（教科書）】**

適宜紹介する。

**【参考書】**

指導教員からの指示に従うこと。

**【成績評価の方法と基準】**

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的の一貫性など。

**【学生の意見等からの気づき】**

スケジュール管理に留意する。

## 【講師の研究業績】

- (1) 木村純子 (近刊) 「イタリア農業の底力：テリトリーオに埋め込まれた農業活動による地域活性化」『イノベーション・マネジメント』Vol 18, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター.
- (2) 木村純子 (2021) 「特定農林水産物等の名称の保護に関する法律 (地理的表示 (GI) 法)」野林厚志編『世界の食文化百科事典』丸善出版.
- (3) Kimura, Junko. & Rigolot, Cyrille. (2021) “The Potential of Geographical Indications (GI) to enhance Sustainable Development Goals (SDGs) in Japan: Overviews and insights from Mishima Potato GI Case Study,” Sustainability: Special Issue Geographical Indications, Public Goods, and Sustainable Development, 13(2), 961. DOI: <https://doi.org/10.3390/su13020961>
- (4) 木村純子 (2020) 「テリトリーオ・アプローチによる農村の内発的発展：トスカナ州アミアータ・テリトリーオの事例 (特集:イタリアに学ぶ豊かさ)」『都市計画学会特集号』第 327 号, 78-81.
- (5) 木村純子 (2020) 「酪農と SDGs との関わりによる豊かな社会の実現」『日本草地学会誌特集号』第 66 巻第 2 号, 111-115.

## 【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

## マーケティング演習

木村 純子

実務教員：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

## 【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。

授業形式 (対面、オンライン授業等) は受講生と指導教員で相談して決定する。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

## 【テキスト (教科書)】

適宜紹介する。

## 【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

## 【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

## 【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

**【Outline and objectives】**

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

**マーケティング演習**

横山 斉理

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

**【到達目標】**

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

流通・マーケティング領域でテーマが設定され、理論的、定量・定性的アプローチにより、テーマに即した研究方法で論文を作成する。研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。

授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

**春学期**

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについての指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

**【テキスト（教科書）】**

適宜紹介する。

**【参考書】**

指導教員からの指示に従うこと。

**【成績評価の方法と基準】**

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

**【学生の意見等からの気づき】**

スケジュール管理に留意する。

## 【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

## マーケティング演習

横山 斉理

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

## 【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

流通・マーケティング領域でテーマが設定され、理論的、定量・定性的アプローチにより、テーマに即した研究方法で論文を作成する。研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。

授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

## 【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

## 【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

## 【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

## 【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

## マーケティング演習

長谷川 翔平

実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

### 【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。

授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについての指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

### 【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

### 【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

### 【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

### 【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

**マーケティング演習**

長谷川 翔平

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

**【到達目標】**

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。

授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

**【テキスト（教科書）】**

適宜紹介する。

**【参考書】**

指導教員からの指示に従うこと。

**【成績評価の方法と基準】**

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

**【学生の意見等からの気づき】**

スケジュール管理に留意する。

**【Outline and objectives】**

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

## マーケティング演習

猪狩 良介

実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

### 【到達目標】

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。

授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについての指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

### 【テキスト（教科書）】

適宜紹介する。

### 【参考書】

指導教員からの指示に従うこと。

### 【成績評価の方法と基準】

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

### 【学生の意見等からの気づき】

スケジュール管理に留意する。

### 【Outline and objectives】

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 - 0078

**マーケティング演習**

猪狩 良介

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

**【到達目標】**

本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

研究内容については、各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に、年2回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。

授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

**【テキスト（教科書）】**

適宜紹介する。

**【参考書】**

指導教員からの指示に従うこと。

**【成績評価の方法と基準】**

修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

**【学生の意見等からの気づき】**

スケジュール管理に留意する。

**【Outline and objectives】**

This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN500F1 - 0079

## ワークショップ（マーケティング）

朝岡 崇史

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタルトランスフォーメーション（DX）のスピードがさらに加速する時代、テクノロジーの進化やビジネスモデルの多様化によって企業間の競争ルールも大きく変わりつつあります。企業は生き残りのために「なりわい」\*革新にチャレンジすると同時に、様々な社会課題にも真摯に向き合うことが求められています。本ワークショップではマーケティングの各領域における現場プロフェッショナルや企業担当者をゲスト講師として招き、実務的な観点から企業のマーケティングに起きているゲームチェンジについて理解を深めていきます。

\*「なりわい」とは企業の基幹事業ドメインに創業時から培ってきた企業風土や価値観などの精神性を加えた新しい概念のことです。

## 【到達目標】

- ・デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速によって、企業のマーケティングに起きているゲームチェンジの本質について深い理解ができています。
- ・企業がチャレンジしている「なりわい」革新について、そのパターンと背景を実例を挙げながら説明できる。
- ・生き残りのためこれからの企業に求められるマーケティング面での対応について、実務的な観点から自分なりの考え方や指針を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

- ・Zoomによるオンライン授業で行います。
- ・金曜日の夕方から2時限連続の授業になります（休憩は適宜設けます）。
- ・ゲスト講師にはオンライン上で資料を共有しながら講義していただき、質疑応答とディスカッション（ワークショップ）を中心に進めます。
- ・授業からの学びを確認記録するため、ゲスト講師のお話から得た気づきを簡単なレポートにまとめていただきます（授業終了後、1週間以内に提出）。
- ・毎回の授業の初めに提出されたレポートから良い気づきをいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・コースの中間と終了時に講義の振り返りとして小グループ（1グループ3名程度）による報告会を実施し、講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：DX時代に起きているマーケティングのゲームチェンジ	授業の目的と概要の共有
第2回	イントロダクション：企業の「なりわい」革新とは何か	授業の目的と概要の共有、ゲスト講師紹介、受講生の自己紹介など
第3回	ゲスト講師による講義(1)：現場プロフェッショナル（コンサルタントを想定）	企業の「なりわい」とブランディング

第4回	ゲスト講師を交えたワークショップ(1)：現場プロフェッショナル（コンサルタントを想定）	質疑応答、グループディスカッション
第5回	ゲスト講師による講義(2)：企業担当者（ブランド統括責任者を想定）	「本業消失」による「なりわい」創出
第6回	ゲスト講師を交えたワークショップ(2)：企業担当者（ブランド統括責任者を想定）	質疑応答、グループディスカッション
第7回	ゲスト講師による講義(3)：企業担当者（CDO/CIOを想定）	「カリスマ経営者の野望」による「なりわい」創出
第8回	ゲスト講師を交えたワークショップ(3)：企業担当者（CDO/CIOを想定）	質疑応答、グループディスカッション
第9回	ゲスト講師による講義(4)：企業担当者（経営企画担当を想定）	「再成長の事業イノベーション」による「なりわい」創出
第10回	ゲスト講師を交えたワークショップ(4)：企業担当者（経営企画担当を想定）	質疑応答、グループディスカッション
第11回	ゲスト講師による講義(5)：企業担当者（経営企画担当を想定）	企業担当者（インターネット事業部門担当を想定）
第12回	ゲスト講師を交えたワークショップ(5)：企業担当者（経営企画担当を想定）	質疑応答、グループディスカッション
第13回	講義の振り返り<前半>	小グループによる報告会
第14回	【中間まとめ】	中間まとめのグループディスカッションとプレゼンテーション
第15回	ゲスト講師による講義(6)：現場プロフェッショナル（コンサルタントを想定）	企業の「なりわい」とコーポレートアイデンティティ
第16回	ゲスト講師を交えたワークショップ(6)：現場プロフェッショナル（コンサルタントを想定）	質疑応答、グループディスカッション
第17回	ゲスト講師による講義(7)：現場プロフェッショナル（コンサルタントを想定）	CX活動とファンベースのマーケティング
第18回	ゲスト講師を交えたワークショップ(7)：現場プロフェッショナル（コンサルタントを想定）	質疑応答、グループディスカッション
第19回	ゲスト講師による講義(8)：企業担当者（グローバル企業）	EX活動とイノベーションを生み出すアジャイル型組織（グローバル企業編）
第20回	ゲスト講師を交えたワークショップ(8)：企業担当者（グローバル企業）	質疑応答、グループディスカッション
第21回	ゲスト講師による講義(9)：企業担当者（魅力的な中小企業）	EX活動とイノベーションを生み出すアジャイル型組織（魅力的な中小企業編）
第22回	ゲスト講師を交えたワークショップ(9)：企業担当者（魅力的な中小企業）	質疑応答、グループディスカッション

第23回	ゲスト講師による講義(10)：現場プロフェッショナル(コンサルタントを想定)	企業が取り組む社会課題：SDGsと「パーパス」
第24回	ゲスト講師を交えたワークショップ(10)：現場プロフェッショナル(コンサルタントを想定)	質疑応答、グループディスカッション
第25回	ゲスト講師による講義(11)：現場プロフェッショナル(コンサルタントを想定)	企業が取り組むべき社会課題：カーボンニュートラル、データセキュリティなど
第26回	ゲスト講師を交えたワークショップ(11)：現場プロフェッショナル(コンサルタントを想定)	質疑応答、グループディスカッション
第27回	講義の振り返り<後半>	小グループによる報告会
第28回	【最終まとめ】	最終まとめのグループディスカッションとプレゼンテーション

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の授業終了後に全体の振り返りと学んだ点を個人レポートとして提出する（Word形式でA4用紙で1枚程度、授業終了後1週間以内に提出）していただきます。  
 ・ゲスト講師の振り返りの担当を事前に割り振り、中間時と終了時に小グループによる報告会を行い、レポートとして提出（PPT形式で10～15枚程度、学期で1回）していただきます。

#### 【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

#### 【参考書】

・『なりわい革新による事業変革 x 企業文化変革』、朝岡崇史ほか著、宣伝会議、2021年3月出版予定  
 ・『ジョブ理論』、クレイトン・クリステンセンほか著、ハーバード・ビジネス・ジャパン、2017年  
 ・『両利きの経営』、チャールズ・オライリーほか著、東洋経済新報社、2019年  
 ・『ダイナミック・ケイパビリティ戦略』、デビット・ティース、ダイヤモンド社、2013年  
 ・ウェブマガジン『JDIR powered by JBpress』<https://jbpress.ismedia.jp/feature/jdir>

#### 【成績評価の方法と基準】

出席は取りませんが、授業後のレポート提出8回以上およびグループワーク/グループプレゼンの参加を前提にしてレポート50%、グループワーク（報告会、中間&最終プレゼンテーション）の成果30%、ディスカッションや質疑応答など授業へ貢献度20%の比率で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ゲスト講師とのやり取りの時間をもう少し長くって欲しい、との声があるため、ゲスト講師との十分な質疑応答やディスカッション（ワークショップ）の時間を設けます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

Zoomによるオンライン授業を受けることができるパーソナルコンピュータ（PC）とネットワーク環境（光回線もしくは高速WiFiモバイルルータ推奨）の準備をお願いします。

#### 【その他の重要事項】

デジタルトランスフォーメーション（DX）時代における企業の「なりわい」革新やアジャイル型の組織運営について、今後の可能性に対する積極的な提言や、可能性を探るための議論への積極的な関与を期待します。

#### 【担当教員の専門分野等】

朝岡 崇史（あさおか たかし）  
 <経歴>

（株）電通 コンサルティング室長を経て2017年に（株）デライトデザインを起業。北京伝媒大学 広告学院 客員教授（2013年）、日本マーケティング協会マーケティングマスターコース・マイスター（2011年～現在）、新宿区U35 ビジネスプランコンテスト・アクティベーター（2019年～現在）

<専門領域>

カスタマーエクスペリエンス（CX）戦略、ブランドコンサルティング  
 <研究テーマ>

デジタルトランスフォーメーション（DX）時代における企業のカスタマーエクスペリエンス（CX）戦略、デザインシンキング、アジャイル型組織

<主要研究業績>

『エクスペリエンス・ドリブン・マーケティング』（ファーストプレス2014年）

『IoT時代のエクスペリエンスデザイン』（ファーストプレス2016年）

『デジタルマーケティング 成功に導く10の法則』（徳間書店 共著2017年）

『なりわい革新による事業変革 X 企業文化変革』（宣伝会議 共著2021年出版予定）

\*ウェブマガジン『JDIR powered by JBpress』に記事連載中

#### 【Outline and objectives】

In an era where the speed of digital transformation (DX) is accelerating, the rules of competition between companies are changing drastically due to the evolution of technology and the diversification of business models. Companies are required to take on the challenge of "Nariwai" \* innovation in order to survive, and at the same time, to seriously face various social issues. In this workshop, field professionals and corporate personnel in each field of marketing will be invited as guest lecturers to deepen your understanding of the game changes that are occurring in corporate marketing from a practical point of view.

\* "Nariwai" is a new concept that adds spirituality such as corporate culture and values cultivated from the time of establishment to the core business domain of a company.

MAN500F1 - 0080

## マーケティング論

竹内 淑恵

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

製品やブランドを日常生活の一部にする消費者の活発でインタラクティブなコミュニティづくりを行うことは、今日のマーケティング上の課題である。本講義では、顧客価値の創造とロイヤル顧客獲得の方法を学び、今日のマーケティングの本質を捉える顧客価値と顧客とのリレーションシップに関する革新的なフレームワークを理解する。また、発表の機会を通じてプレゼンテーション・スキルの向上を図るとともに、ディスカッションによって多面的な角度から問題を掘り下げる能力を身につける。

## 【到達目標】

- ・マーケティングの基本概念や理論について、自ら説明できるレベルに達する。
- ・マーケティングの理論を実務に応用し、マーケティング戦略を検討できるようになる。
- ・ディスカッションの場において、実践的かつ批判的な視点から討議できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン授業（リアルタイム配信型）、Zoom等を使用して双方向型で春学期の土曜日1・2時限に実施します。

ID、パスコードは学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で確認ください。

・2時限続きで14回開講します。

・テキストの第1章～第14章はレクチャー形式で行います。

・受講生には各章末にある「ディスカッション」を担当していただきます。予めプレゼンテーションファイルを用意し、討議のためのケースを紹介してください。その後、クラス全員で発表内容などについて検討します。

・「マーケティングと社会的責任」（第15章）をテーマに、革新的なマーケティング事例に関するグループワークをしていただきます。その内容を第14回授業でプレゼンテーションしてください。

・提出物やプレゼンテーションの内容に対して個別評価や全体講評を行い、フィードバックします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	①イントロダクション、オリエンテーション ②第1章：マーケティングの本質	①授業の進め方、文献の調査方法などを説明し、分担決定を行う。 ②マーケティングの定義、およびマーケティングの5つのステップについて学ぶ。
第2回	①第2章：企業とマーケティング戦略 ②第3章：競争優位の創造	①マーケティングのステップ2「顧客主導型マーケティング戦略の設計」およびステップ3「マーケティング・プログラムの設計」について学ぶ。 ②競合分析と競争的マーケティング戦略に関して学ぶ。

第3回	①第4章：マーケティングの基本枠組み ②ディスカッション	①顧客主導型マーケティングの基本枠組みであるSTP(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング)について学ぶ。 ②ニッチマーケティング実践企業等のディスカッション。
第4回	①第5章：マーケティング情報とカスタマー・インサイト ②ディスカッション	①様々なマーケティング情報とその情報収集方法であるマーケティング・リサーチに関して学ぶ。 ②マーケティング・リサーチ等のケース・スタディ・ディスカッション。
第5回	①第6章：消費者の購買行動 ②ディスカッション	①消費者の購買行動に影響を与える文化的・社会的・個人的・心理的要因について学ぶ。 ②新製品の普及速度と製品特性等のディスカッション。
第6回	①第7章：製品、サービス、ブランド ②ディスカッション	①マーケティングミックスの4Pの内の一つ、Product(製品・サービス・ブランド)戦略に関して学ぶ。 ②ブランド拡張の成功例・失敗例等のディスカッション。
第7回	①第8章：新製品開発と製品ライフサイクル戦略 ②ディスカッション	①Product戦略において重要な役割を担う新製品開発のプロセスについて学ぶ。 ②製品ライフサイクルの延命成功事例等のディスカッション。
第8回	①第9章：マーケティング・チャンネルによる顧客価値の提供 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの4Pの内の一つ、Place(チャンネル)戦略に関して学ぶ。 ②開放的流通、排他的流通、選択的流通の長所と短所等のディスカッション。
第9回	①第10章：価格設定 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの4Pの内の一つ、Price(価格)戦略に関して学ぶ。 ②コストベース、顧客価値ベース、競争ベースの価格設定の長所と短所等のディスカッション。
第10回	①第11章：コミュニケーションによる顧客価値の説得 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの4Pの内の一つ、Promotion(コミュニケーション)戦略に関して学ぶ。 ②購買準備段階に応じたマーケティング・コミュニケーション事例等のディスカッション。
第11回	①第12章：広告とパブリック・リレーションズ ②ディスカッション	①Promotion戦略において重要な役割を担う広告、PR(パブリック・リレーションズ)について学ぶ。 ②消費者生成型広告の長所と短所等のディスカッション。
第12回	①第13章：人的販売と販売促進 ②ディスカッション	①Promotion戦略において重要な役割を担う人的販売、販売促進について学ぶ。 ②モバイルを用いた消費者向けセールス・プロモーション事例等のディスカッション
第13回	①第14章：ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング ②研究手法と修論について	①近年のICTの進展に伴って急成長しているダイレクト・マーケティング、オンライン・マーケティングに関して学ぶ。 ②OB・OGをゲストスピーカーとして迎え、修論完成に至るスケジュールやプロセス、心構えについて学ぶ。
第14回	グループワーク発表会	「マーケティングと社会的責任」（第15章）をテーマに、グループワークによる研究結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・テキストの予習をして内容を理解しておいてください。
- ・テキストにあるディスカッションテーマについて目を通し、ディスカッションに備えてください。
- ・プレゼンテーションを担当する回には pdf ファイルを作成し、事前提出してください。
- ・「マーケティングと社会的責任」をテーマに革新的なマーケティング事例を選定し、グループワークを行ってください。

**【テキスト（教科書）】**

フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版、2014/3/4。ISBN-10:4621066226 ISBN-13:978-4621066225 ¥5,184

**【参考書】**

- ・授業では原著を使用しません。以下の書籍を参考にしてください。
- Kotler, Philip & Gary Armstrong, *Principles of Marketing*, Global ed, Pearson Education, 2015/4/2 ISBN-10:1292092483, ISBN-13:978-1292092485 ¥11,653
- ・マーケティング・コースの修了生 (OB・OG) が執筆した以下の書籍を修士論文(研究)の参考にしてください。
- 竹内淑恵編著 (2014)『リレーションシップのマネジメント』文真堂, 2014/4/8。ISBN-10:4830947977 ISBN-13:978-4830947971 ¥2,808

**【成績評価の方法と基準】**

- ・担当する各章のプレゼンテーション内容 (40%)
- ・クラス討議への参加度、貢献度 (30%)
- ・グループワークによる事例発表 (30%)

**【学生の意見等からの気づき】**

- 本講義を受講した学生からの意見は以下の通りです。
- ・翻訳文をテキストとし、英語の原著は参考書とした方が良い。
- ・ゲストスピーカーとして OB・OG を招いた講義において、研究手法について説明してほしい。
- ・毎回のディスカッションで実務との関連が明確になった。

**【学生が準備すべき機器他】**

担当回に使用する pdf ファイルを発表の前日までに、担当教員にメール添付ファイルにて提出してください。担当教員のメールアドレスは学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で確認ください。

**【その他の重要事項】**

- ・マーケティング・コースの学生は、ワークショップ(マーケティング)、消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、流通システム論、サービス・マネジメント論、製品開発論を履修することをお勧めします。
- ・修士論文において、定量分析を活用した研究を計画している学生は、統計データ解析を履修することをお勧めします。
- ・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論に焦点を当てて講義します。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>マーケティング論、ブランド論、消費者行動論  
 <研究テーマ>広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、ソーシャルメディアにおけるブランド・コミュニケーション  
 <主要研究業績>

- ①竹内淑恵 (2020) 「Facebook ページにおける消費者エンゲージメント行動：「いいね」とコメントの差異」『イノベーション・マネジメント』No.17, pp.59-88.
- ②竹内淑恵 (2019) 「ブランド・コミュニティ研究へのマルチレベル分析の適用可能性－Facebook ページへのリレーションシップがロイヤルティに及ぼす影響の検討－」『イノベーション・マネジメント』No.16, pp.53-78.
- ③竹内淑恵 (2018) 「Facebook ページにおける消費者とブランドとのリレーションシップ構築」『イノベーション・マネジメント』No.15, pp.43-63.

他の研究業績等の詳細は以下を参照ください。

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001706/profile.html>

**【Outline and objectives】**

Today's marketing challenge is to create a lively and interactive communities of consumers who make products and brands a part of their daily lives. This course will help students learn how to create customer value and acquire loyal customers. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing. The students will develop the presentation skills through presentation opportunities and acquire the ability to delve into problems from a multifaceted angle through discussions.

MAN500F1 - 0081

## 消費者行動論

新倉 貴士

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者行動に関する体系的な知識の獲得ができるように講義をします。マーケティング戦略の策定と実施には、消費者に関する知識が不可欠となります。講義では、消費者の認知・態度・行動とマーケティング戦略との対応づけを意識しながら、また修士論文の作成に向けて必要となる基礎的な知識を組み込み構成します。履修生は、消費者行動に関する基礎的な知識の獲得と、実践的なマーケティング戦略を意識した消費者知識の獲得を目指してください。

## 【到達目標】

消費者の認知側面と感情的な態度側面を意識し、実際の行動側面との関係を考えながら、理想的なマーケティング戦略の構築と実践を描けるよう努力して下さい。そのために履修者は、①消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるよう、②消費者行動に関する概念や理論を理解することができるよう、③消費者行動とマーケティング戦略との関係が理解できるよう、努力して下さい。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

本講義では、マーケティングの基礎となる消費者の理解を目的とするために、消費者に関する体系的な知識と2020年までの歴史的な展開を講義します。また、ケースディスカッションにより、実践的な消費者知識を体得します。さらに、修士論文の作成に向けて、消費者研究の論文について講読し考察します。消費者行動論では、単に消費者の顕示的な行動を捉えるだけでなく、潜在的な認知や態度を理解することによって、それらの連鎖的な関係を捉えていきます。これによって、消費者行動の規定要因とマーケティング戦略との関係を考察することができます。

第1回～第2回は、授業ガイダンスと本講義の体系を概説します。第3回～第4回は、マーケティングにおける消費者行動の位置づけを確認します。第5回～第6回は、消費者行動論の歴史的な展開を説明します。第7回～第10回は、消費者行動のモデルについて説明します。第11回～第15回は、具体的な情報処理とその規定要因について説明します。第16回～第18回は、消費者とブランドとの関係について説明します。第19回～第24回は、ケースディスカッションを行いながら、消費者の情報処理とブランドマーケティングについて理解します。第25回～第26回は、修士論文作成のための準備をします。第27回は、授業の総括を行います。第28回は、授業の理解度を確認する最終試験を行い、終了後に解説とフィードバックを行います。

毎回、資料やケースを配布する予定です。

課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。授業形式はオンラインを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講義の進め方や学習の方法に関する説明をします。
第2回	消費者行動論の概説	当科目の体系的な解説をします。
第3回	消費者行動とマーケティング1	マーケティングにおける消費者行動の位置づけを説明します。
第4回	消費者行動とマーケティング2	消費者行動のマーケティングへの応用を説明します。

第5回	消費者行動研究の歴史1	消費者行動研究の前史について説明します。
第6回	消費者行動研究の歴史2	行動科学的な消費者行動研究の展開を説明します。
第7回	消費者行動のモデル1	消費者行動モデルの概要について解説します。
第8回	消費者行動のモデル2	刺激-反応モデルと態度モデルについて説明します。
第9回	消費者情報処理モデル1	消費者情報処理モデルについて、その概要を説明します。
第10回	消費者情報処理モデル2	消費者情報処理モデルのメカニズムについて解説します。
第11回	情報の探索	内部探索と外部探索とこれらの規定要因についての説明をします。
第12回	情報の解釈	情報の解釈メカニズムについて説明します。
第13回	情報の評価	評価方略について説明します。
第14回	情報処理の規定要因1	規定要因である動機づけについて解説します。
第15回	情報処理の規定要因2	規定要因である能力について解説します。
第16回	消費者とブランド1	ブランドについての概説をします。
第17回	消費者とブランド2	ブランド構築とその事例について詳解します。
第18回	消費者とブランド3	ブランドのアイデンティティとイメージについて説明します。
第19回	ケース討議1：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第20回	ケース討議1：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第21回	ケース討議2：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第22回	ケース討議2：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第23回	ケース討議3：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第24回	ケース討議3：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第25回	修士論文作成に向けて	作成に向けた詳細な指導をします。
第26回	論文購読	消費者行動関連の論文を購読します。
第27回	講義全体のまとめ	これまでの授業内容の総括をします。
第28回	最終試験	解説とフィードバックをします。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各8時間を標準とします。初回に配布する文献リストに基づき、第18回までは、事前に該当する書籍を熟読して授業に臨んで下さい。第19回からのケース討議と論文講読では、事前に配布する資料を熟読して、自分なりに整理をして授業でのディスカッションに備えて下さい。

## 【テキスト（教科書）】

適宜案内します。

## 【参考書】

『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（青木幸弘他、有斐閣アルマ、2012年）  
『消費者行動の知識』（青木幸弘、日経文庫、2010年）  
『消費者行動論』（守口剛・竹村和久編著、八千代出版、2012年）  
『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士、千倉書房、2005年）

## 【成績評価の方法と基準】

ケース討議への貢献（30%）  
ケース討議・論文講読への貢献は、発言回数とその内容で判断します。  
最終試験（70%）  
最終試験では、講義とケースに関する理解度を確認します。

## 【学生の意見等からの気づき】

進行速度に気をつけながら進める予定です。

マイク音量の調整と板書の工夫をしながら進める予定です。

**【学生が準備すべき機器他】**

ノートパソコン

**【その他の重要事項】**

マーケティング論、マーケティング・リサーチ論を履修しておくことが望ましい。

**【担当教員の専門分野等】**

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/25/0002435/profile.html>

**【Outline and objectives】**

This course is a series of lectures and discussions, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy.

To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.

Major course objectives are;

-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.

-To learn consumer information processing model.

-To understand the relationship between consumer and brand.

MAN500F1 - 0082

**マーケティング・リサーチ論**

本條 晴一郎

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現在、マーケティングリサーチの知識は、実務や研究において必須ともいえるだろう。

本授業では、マーケティング・リサーチをはじめて学ぶ大学院生が理解しやすいように、定性調査と定量調査の方法論を理解した上で、実際にインタビューなどの定性調査をもとに仮説を設定し、アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査をもとにその仮説を検証することを通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を体系的・実践的に学ぶ。

**【到達目標】**

到達目標としては、以下の3点に整理できる。

①インタビューなどの定性調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。

②アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。

③複数の定量調査を用いて、仮説を検証することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

授業は、Zoomを用いた双方向型オンライン授業の形式で実施する。演習でパソコンを用いるので、パソコンでの受講が望ましい。参加方法は、学習支援システムの授業情報表示でお伝える。履修希望者は、4月6日までに学習支援システムで授業の仮登録をすること。

リサーチプロセスは、課題定義にはじまり、リサーチデザイン、データと収集法の決定、サンプルデザインとデータ収集、データ分析・結果の解釈、レポート作成となる。しかし、授業では、受講生が全体像や最終レポートをイメージしやすいように、順番を入れ替えて学習する。

さらに、受講生が理解しやすいよう、以下の工夫も行う。まず、データ分析・結果の解釈では、定量調査を実践的に学べるように、サンプルデータをもとに、マニュアルにそって無料ソフトの「R」を使ったミニ演習を多く実施する。レポート作成では、複数の最終レポート例をもとに、その手続きも含めて詳しく説明する。大事なプロセスでは、中間報告があり、受講生の理解状況の確認が行われつつ、指導が行われる。こうした進め方をするため、はじめてリサーチを実施する方でも大丈夫である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	マーケティングリサーチとは 課題定義とリサーチデザイン	リサーチプロセス ・Rの操作、パソコン持参のこと
第2回	データ分析・結果の解釈①	平均・標準偏差と無相関検定 ・定量調査のミニ演習
第3回	データ分析・結果の解釈②	$\chi^2$ 検定とt検定 ・定量調査のミニ演習
第4回	データ分析・結果の解釈③	回帰分析と因子分析 ・定量調査のミニ演習
第5回	データ分析・結果の解釈④	分散分析 ・一元配置、二元配置の分散分析 ・定量調査のミニ演習

第6回	レポート作成	<b>最終レポートの説明</b> ・レポート例を提示
第7回	課題定義、データと収集法の決定①	<b>課題とリサーチクエスト</b> ン、インタビュー、 <b>仮説</b> ・定性調査のミニ演習
第8回	第1回中間レポートの報告	<b>課題とリサーチクエスト</b> ン、インタビュー、 <b>仮説の中間報告</b>
第9回	データと収集法の決定②、サンプルデザインとデータ収集	<b>アンケートとサンプリング</b> ・アンケートフォームを実際に作成 ・プレリサーチ
第10回	第2回中間レポートの報告	<b>アンケートとサンプリングの中間報告</b>
第11回	第2回中間レポートの再報告	<b>アンケートとサンプリングの再報告</b> ・修正して報告
第12回	早期最終レポートの報告	<b>早期最終報告</b> ・早期最終レポートの提出・報告
第13回	最終レポートの報告	<b>最終報告</b> ・最終レポートの提出・報告
第14回	リサーチの実際	<b>ゲスト講義</b> ・ゲストによる研究報告

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。データ収集および、最終レポートの作成を行うこと。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストとして、レジュメを授業支援システムにアップするので、パソコンあるいはタブレット、スマホで閲覧できるようにすること。

#### 【参考書】

- ①山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社、2008年。
- ②南風原朝和『心理統計学の基礎：統合的理解のために』有斐閣、2002年。
- ③ベルク・フィッシャー・コジネツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年。
- ④マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践：理論編』同友館、2006年。
- ⑤マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践：技術編』同友館、2007年。

#### 【成績評価の方法と基準】

・中間レポート・報告（10点×2回=20点）、講義や演習での発言・議論参加（50点）、最終レポートおよび報告（30点）  
・早期最終レポートの報告者には、全員加点あり（早期レポート制度）。  
・評価対象は講義回数の3分の2以上の出席が最低条件である。なお、遅刻は2回で1回の欠席扱いとなる。

#### 【学生の意見等からの気づき】

- ①受講生の理解に差があるため、基本編と解説編を分けて、説明を行う。
- ②サンプルデータを用いたミニ演習を多くし、理解をしやすいとする。
- ③レポート例をもとにイメージしやすい課題の説明をする。さらに、確実に課題を進められるように、リサーチ・プロセスの途中段階での中間報告を実施する。
- ④全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

各自、ノートパソコンを持参すること。なお、統計ソフトは、フリーソフトであるRを使用するので、テキストを参考に、事前にパソコンにインストールしてくること。

#### 【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マーケティング論、ユーザーイノベーション、デジタルマーケティング

<研究テーマ>

リードユーザー、消費者イノベーション、デザイン文化

<静岡大学教員データベース>

<https://tdb.shizuoka.ac.jp/RDB/public/Default2.aspx?id=11221&l=0>

#### 【Outline and objectives】

Currently, knowledge of marketing research can be said to be essential in practice and research.

In this lesson, to make it easier for graduate students to learn about marketing and research for the first time, they learn fundamentals and methods of marketing research systematically and practically to actually set up hypotheses based on qualitative surveys such as interviews, and test the hypothesis based on quantitative surveys such as questionnaire preparation and various data, after understanding the methodology of qualitative survey and quantitative survey.

MAN500F1 - 0083

## 製品開発論

田路 則子

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハイテク産業における製品開発のケース・スタディを通じて、戦略的意思決定とビジネスモデル構築の能力を磨く。

顧客の満足度を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えること、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である

## 【到達目標】

具体的な目標は次のとおりである。

- ①イノベーション概念の理解
- ②イノベーションに成功するマネジメントの考察
- ③ビジネスプラットフォーム構築の理解
- ④産業別の製品開発プロセスの理解
- ⑤スタートアップと大企業のアライアンス
- ⑥ハイテク・スタートアップの起業プロセス

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

2021年度は、コロナの状況を見ながらではあるが、対面が難しい場合はオンラインとなる。

ケース・スタディでは、事業ドメインの設定、研究開発や製品企画、顧客獲得、上市、事業拡大というビジネスの流れを追いながら、どのように競合と差別化して顧客ターゲットを設定し、内部の組織編成や外部との連携（サプライヤーやディストリビューター）を行ったかを明らかにする。

ハイテク産業では、技術よりもむしろ、戦略およびマーケティングが競争優位性を決定していることがケース・スタディによって確認できるだろう。

ケースは、カメラ、時計のような古典的な事例と、スマートフォン、空調機、医療機器等の今日的な事例まで、時代と業界を横断して用意している。製品や業界の理解を深めるために、視覚教材を極力使用する。

事前にケースを配布するので、質問に対する自分なりの考察を用意してメモを作成しておく。講義では、詳しい事例の説明とVTRによって理解を深めてから、グループで議論を行ってまとめを発表する。さらに、全員で議論を深めてから、最後に講師が総括する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	ラディカル・イノベーションと破壊的イノベーション	Kodak(カメラ)
2	コモディティ化	セイコー(時計)
3	非コモディティ化(ブランドの構築)	カシオ(時計)
4	技術蓄積	NKK(スイッチ)
5	組織変革と事業開発	テルモ(医療機器)
6	素材産業における事業ドメインの設定	東レ(炭素繊維)
7	ビジネス・プラットフォームの構築 1	シャープ(液晶)、ソニー(撮像素子)

8	ビジネス・プラットフォームの構築 2	Apple(携帯電話) 他
9	グローバル化-電子機器	ダイキン工業(空調機)
10	グローバル化-素材産業	積水化学工業(フロントガラス用中間膜)
11	製品アーキテクチャー	ASML/ニコン(半導体露光機) パナソニック(半導体デバイス)
12	オープン・イノベーションとスタートアップ	米国、スウェーデン、日本の取り組み
13	日米のハイテク・スタートアップ 1	グラモ(IOT) Bizter Mobile(セキュリティシステム)
14	日米のハイテク・スタートアップ 2	アンジェス MG(創業) Tercica(創業)

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にケースを読み、課題を期限までに提出する。予習と復習に最大各2時間を要する。

## 【テキスト（教科書）】

特になし

## 【参考書】

- ①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房2020年
- ②『オープン&クローズ戦略』小川絃一、翔泳社、2014年
- ③『ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子、東洋経済新報社、2010年
- ④『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子、白桃書房、2005年

## 【成績評価の方法と基準】

出席率、議論への参加、毎回の小課題を3分の1ずつで評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

概念の理解の時間、グループ討議の時間、概念を使った事例の掘り下げの時間のメリハリをつける。

## 【学生が準備すべき機器他】

PC

## 【専門領域】

経営戦略、技術経営

## 【研究テーマ】

イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動  
「ハイテク・スタートアップの起業プロセス」  
「ハイテク産業集積のエコシステム」

## 【主要業績】

- ①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房2020年
- ②「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第65巻号,pp172-184,2017年.
- ③「ITビジネスの興隆を支える移民のシリアル・アントレプレナー」田路則子・新谷優『研究技術計画』30巻,pp.312-325,2016年
- ④“Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group, Vol. 14, pp.263-287,2014
- ⑤『ハイテク産業における研究開発者のキャリア』田路則子『日本のキャリア論—専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著 白桃書房,pp.133~159,2013年.
- ⑥「WEBビジネスの起業家像—シリコンバレーのモバイル&ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『専門マネジメントレビュー』第10巻10号, pp.753-774.2011年
- ⑦『ハイテク・スタートアップの経営戦略—オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社, 2010年
- ⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也, 『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第8巻, 5号, pp211-231, 2009年
- ⑨『アーキテクチャル・イノベーション』田路則子, 白桃書房, 2005年

## 【Outline and objectives】

Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research & development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.

MAN500F1 - 0087

## 流通システム論

横山 斉理

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、専門書や論文を読みこなしていくことで、流通システムに関する研究動向を探りつつ、同時に、研究方法についても学習していきます。

## 【到達目標】

到達目標は、日本の流通システムについて深く理解した上で、関連する研究論文を読みこなせるようになることです。そのために、学術で研究とは何か、論文とは何かを理解するためのディスカッションや、研究に用いられている方法についての解説も行います。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

双方向型のオンライン授業を実施します。授業支援システムを通じて zoom の URL 等をお知らせします。

具体的な進め方としては、専門書あるいは論文の輪読と研究方法（方法論）の学習を進めていきます。研究には方法論が不可欠です。方法論は、認識論的前提を問うものからテクニックレベルまで幅広いですが、この授業では、流通・マーケティング研究の専門書や論文を紐解きながら、同時に、テクニックレベルでの方法論の理解を進めることを目的とします。方法論を同時並行的に学ぶことにより、専門書（論文）の読解が深くなるという効果も期待しています。課題等に対するフィードバックは授業内のディスカッションを通じて行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、日本の流通システムとそのダイナミクス	授業概要の説明、自己紹介、使用教材の説明、分担決定。 日本の流通システムについて解説を行い、論点についてディスカッションします。
2	専門書の購読および解説、ディスカッション	『小売構造ダイナミクス』第1章「日本の小売構造の特質と研究の系譜」を深く読み込みます。
3	専門書の購読および解説、ディスカッション	『小売構造ダイナミクス』第2章「小売構造と消費市場の相互作用」を深く読み込みます。
4	専門書の購読および解説、ディスカッション	『小売構造ダイナミクス』第3章「小売市場内での小売業者間の競争」を深く読み込みます。
5	専門書の購読および解説、ディスカッション	『小売構造ダイナミクス』第4章「本書の分析視点と実証分析の課題・方法」を深く読み込みます。
6	専門書の購読および解説、ディスカッション	『小売構造ダイナミクス』第5章「顧客満足の規定因(1)－統計アプローチ」を深く読み込みます。
7	専門書の購読および解説、ディスカッション	『小売構造ダイナミクス』第6章「顧客満足の規定因(2)－集合論アプローチ」を深く読み込みます。
8	専門書の購読および解説、ディスカッション	『小売構造ダイナミクス』第7章「小売組織内での知識創造」を深く読み込みます。

- 9 専門書の購読および解説、ディスカッション 『小売構造ダイナミクス』第8章「店頭従業員の新種の行動」を深く読み込みます。
- 10 専門書の購読および解説、ディスカッション 『小売構造ダイナミクス』第9章「店頭従業員の能力獲得」を深く読み込みます。
- 11 方法論を学べるテキストあるいは論文の購読および解説、ディスカッション 方法論についてのテキストあるいは論文を深く読み込み、その方法の特徴についてディスカッションします。
- 12 方法論を学べるテキストあるいは論文の購読および解説、ディスカッション 方法論についてのテキストあるいは論文を深く読み込み、その方法の特徴についてディスカッションします。
- 13 方法論を学べるテキストあるいは論文の購読および解説、ディスカッション 方法論についてのテキストあるいは論文を深く読み込み、その方法の特徴についてディスカッションします。
- 14 振り返り これまでの学びを振り返ります。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業に先立って各自に課題を割り当てます。受講生は課題をこなしてきた上で、授業内で積極的にディスカッションに参加することが求められます。

#### 【テキスト（教科書）】

横山斉理 (2019) 『小売構造ダイナミクス—消費市場の多様性と小売競争』有斐閣

#### 【参考書】

佐藤郁哉 (1992) 『フィールドワーク』新曜社  
 佐藤善信監修 (2015) 『ケースで学ぶケーススタディ』同文館出版  
 田村正紀 (2006) 『リサーチ・デザイン 経営知識創造の基本技術』白桃書房  
 Yin, R. K. (2011) 『新装版ケーススタディの方法（第2版）』千倉書房（近藤公彦訳）

#### 【成績評価の方法と基準】

課題提出（60%）  
 発表・議論への参加（40%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に合わせて授業計画や内容を調整することがあります。

#### 【学生が準備すべき機器他】

分担個所の発表担当者はプレゼンのスライドと配布資料を用意してください。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>  
 流通論、マーケティング論  
 <研究テーマ>  
 小売業の顧客満足、リテール・マネジメント  
 <主要研究業績>

Azuma, N., N. Yokoyama, W. Kim, (2020), "UNPACKING THE CAUSAL RECIPES OF RETAILING MIX ON CONSUMER SATISFACTION IN GROCERY SHOPPING USING QUALITATIVE COMPARATIVE ANALYSIS (QCA)", American Collegiate Retailing Association (ACRA) 2020 Conference Proceedings 131-140.

Azuma, N., N. Yokoyama, W. Kim (2020), "A study on Grocery Retail Competition in the 'Small Spatial Market' Setting and the Determinants of Different Levels of Customer Satisfaction - A Fuzzy-set Qualitative Comparative Analysis (fsQCA) Approach -", Aoyama Business Review, 42, 1-43.

Azuma, N., N. Yokoyama, W. Kim (2020), "A Mixed-method Study on the Determinants of Different Levels of Customer Satisfaction with a 'Mini Supermarket' Multiple in a Spatially Small Urban Market Setting-A Concurrent Approach with fsQCA and MRA-", 青山経営論集 54(4) 1-35.

横山斉理 (2019) 『小売構造ダイナミクス—消費市場の多様性と小売競争』、有斐閣

横山斉理・尾形真実哉 (2018) 「マルチレベル分析を用いた店頭従業員の能力獲得に関する実証研究」、『組織科学』、51(3)、69-86.

横山斉理 (2017) 「食品スーパーにおける顧客満足の規定要因：fsQCAアプローチ」、『組織科学』、51(2)、14-27.

横山斉理 (2015) 「食品スーパーの顧客満足を規定する要因に関する経験的研究」、『流通研究』、17(4)、21-36.

横山斉理 (2014) 「チェーン小売企業の実証分析におけるマルチレベル分析の適用—一般線形モデル (GLM) と階層線形モデル (HLM) の比較—」、『日本マーケティング学会マーケティングカンファレンス 2014 プロシーディングス』、207-209.

Yokoyama, N., & D.H. Ryu, "The characteristics of Japanese small and medium-sized retailers' business succession", Proceedings of the 7th Oxford Asia Retail Conference: The Impact of Retailing in Emerging and Mature Markets, 2014, 1-18. 他。

#### 【Outline and objectives】

This class aims at confirm understanding of retail and distribution in Japan. We will read literature of retail and distribution in Japan for this aim. Additionally, we will learn research methodology at the same time.

MAN600F1 - 0091

## アカウンティング・ファイナンス演習

川島 健司

実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカウンティング・ファイナンスコース演習では、修士論文の執筆に向けて、研究テーマの選択、研究テーマに関する文献レビュー、テーマに沿った適切な研究方法の選択、研究結果をまとめて論文としての形式をどのように整えるのか、引用や参考文献のスタイル等、研究遂行上の重要な問題を逐次指導していく。

### 【到達目標】

- ・修士論文で何を明らかにするかを明確にする。
- ・学術論文として仕上がるよう、研究テーマに関連する基本的な理論および研究方法論を身に付ける。
- ・研究テーマに関連する文献のレビューを行う。
- ・以上の点を踏まえて、適切な研究方法に基づいて研究テーマについて探究を行う。
- ・以上の結果を修士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

論文作成の方法、選択した研究テーマのそれぞれの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要と授業の進め方について説明を行う。
第2回	修士論文作成のためのガイダンス	学術論文の構成、関連資料の検索の方法、またそれぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。受講者の興味に基づき、それぞれの領域での最新の研究テーマについて紹介する。
第3回	研究テーマの検討	研究テーマとして、どのような点について留意すべきか、会計研究の動向を踏まえて検討する。
第4回	研究テーマ候補の提示	候補となりうる研究テーマを複数提示してもらい、それぞれの優劣について議論する。
第5回	研究テーマの決定	複数候補の中から一つのテーマに絞り込み、研究テーマを決定する。
第6回	先行研究のレビューの仕方	先行研究をレビューするにあたっての注意点とクリティークの書き方を説明する。
第7回	先行研究のレビュー（1）	研究テーマで重要な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第8回	先行研究のレビュー（2）	前回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。
第9回	先行研究のレビュー（3）	前回、前々回のレビューを踏まえ、さらに発展的な論文についてレビューを行い、発表してもらう。

第10回	リサーチクエスションの設定	各自が行った文献レビューに基づいて、リサーチ・クエスションの設定を行う。
第11回	研究方法についての検討	自分が設定したリサーチクエスションを明らかにするために相応しい研究方法について検討する。
第12回	研究方法の決定	とりうるであろう研究方法の中から、最終的に自分が採用する研究方法を決定する。
第13回	仮説の導出	リサーチクエスションを解明するために、どのような仮説を設定すればよいかを検討する。
第14回	資料・データ等の入手方法について	自分の設定した研究テーマ、研究方法、リサーチクエスション、仮説にもとづいて、どのような資料・データ等を入手すればよいかを検討する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この段階での研究では、ひたすら文献を読むことが重要である。講義では3回分しか先行研究のレビューにあてていないが、論文を書き終わるまで常にレビュー作業は続くことになる。また論文作成において、最低限のパソコンのスキルを習得しておくことが重要である。論文全体のレイアウト設定、図表・数式の作成、脚注の設定、参考文献リストの管理等はどのような研究テーマ・方法論でも必要となるし、実証研究をするのであれば統計ソフトの扱いにも慣れていなければならない。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜必要となる論文（その多くは英語論文であろう）を各自入手して読むことになる。

### 【参考書】

どのような研究方法を選択するかにもよるが、以下の本は会計領域の論文作成に非常に役立つので持っていて損はない。

Malcolm Smith, *Research Methods in Accounting* (4th ed.), Sage Publications Ltd., 2017.

また、ファイナンス分野で実証研究をする場合は、次の本が良い手引きになる。

John Campbell, Andrew Lo, and Craig MacKinlay, *The Econometrics of Financial Markets*, Princeton University Press, 1997.

### 【成績評価の方法と基準】

各自の報告内容、授業へのコミットメントの程度などを総合的に勘案し、成績評価をおこなう。

### 【学生の意見等からの気づき】

統計ソフトなどの使い方等、実際にやってみたら意外と簡単に習得できたという学生を何人も見てきた。何事もチャレンジさせることが良いと思っている。

### 【学生が準備すべき機器他】

特に必要はないが、パソコンを持参できるのであれば、持参した方が良い。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 財務会計論

<研究テーマ> 財務会計における資産評価、統合報告、会計用語の使用法、財務報告におけるグラフの利用

<主要研究業績>

川島健司（2020）「収益という用語は、いつからどのように使われてきたか」『会計』第198巻, 第6号, pp.43-56.

### 【Outline and objectives】

The seminar for master's thesis guides students in the entire process of carrying out research to complete a thesis. This process consists of choosing a research topic, selecting a proper approach to the topic, carrying out the research plan, and writing a thesis to summarize the findings.

MAN600F1 - 0091

## アカウンティング・ファイナンス演習

川島 健司

実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカウンティング・ファイナンスコース演習では、修士論文の執筆に向けて、研究テーマの選択、研究テーマに関する文献レビュー、テーマに沿った適切な研究方法の選択、研究結果をまとめて論文としての形式をどのように整えるのか、引用や参考文献のスタイル等、研究遂行上の重要な問題を逐次指導していく。

### 【到達目標】

- ・修士論文で何を明らかにするかを明確にする。
- ・学術論文として仕上がるよう、研究テーマに関連する基本的な理論および研究方法論を身に付ける。
- ・研究テーマに関連する文献のレビューを行う。
- ・以上の点を踏まえて、適切な研究方法に基づいて研究テーマについて探究を行う。
- ・以上の結果を修士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

論文作成の方法、選択した研究テーマのそれぞれの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて、説明を行うとともに、学生の報告に基づいて、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	秋学期での本講義の概要と授業の進め方について説明を行う。
第2回	データ等の整理と整形	収集した資料・データを、どのように整理したらよいか、また数値データやカテゴリーデータなどを分析にかける際に、どのように整形したらよいかについて説明する。
第3回	分析ツールの検討	研究方法によって分析ツールは様々であるので、ふさわしいツールは何かを検討する。
第4回	分析結果の解釈	データを分析した結果については、様々な解釈が可能であるため、どのような点に注意して結果を解釈したらよいかを説明する。
第5回	主題文の作成	研究テーマ、リサーチクエスチョン、仮説と分析結果、等々について、どのように論文としてまとめたらいよいかを、主題文という形に書き下して検討をおこなう。
第6回	論文の構成についての検討	主題文をもとに論文の構成を検討する。
第7回	論文の序論と結論についての検討	論文の序論および結論の書き方についての注意点を学び、具体的に書いてみる。
第8回	先行研究に関する記述の検討	先行研究について、論文においてはどのように書き進めていくべきかについて検討する。

第9回	リサーチクエスチョンおよび仮説の記述についての検討	本研究のリサーチクエスチョンおよび仮説の導出について、どのように記述すべきかを検討する。
第10回	データと分析方法の提示、結果の解釈の記述についての検討	どのようなデータを用い、どのようにして分析を行ったのか、そして結果をどのように解釈したのかに関する記述の検討をおこなう。
第11回	論文全体のドキュメンテーションに関する検討	主として文献の引用の仕方について、具体的な内容に沿いながら検討をする。
第12回	参考文献の記述に関する検討	会計領域で一般的なスタイルにもとづいて参考文献のリストを完成させる。
第13回	論文のドラフト作成と報告	論文のドラフトを完成させ、各自報告してもらい、訂正すべき点などの検討を行う。
第14回	論文の訂正と完成原稿の作成	前回の指摘事項を反映させ、論文を完成させる。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学院レベルでの研究では、ひたすら文献を読むことが重要である。講義では春学期に3回分しか先行研究のレビューにあてていないが、秋学期も引き続き、論文を書き終わるまで常にレビュー作業は続くことになる。

また論文作成において、最低限のパソコンのスキルを習得しておくことが重要である。論文全体のレイアウト設定、図表・数式の作成、脚注の設定、参考文献リストの管理、等とはどのような研究テーマ・方法論でも必要となるし、実証研究をするのであれば統計ソフトの扱いにも慣れていなければならない。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜必要となる論文（その多くは英語論文であろう）を各自入手して読むことになる。

### 【参考書】

どのような研究方法を選択するかにもよるが、以下の本は会計領域の論文作成に非常に役立つので持っていて損はない。

Malcom Smith. 2017. *Research Methods in Accounting* (4th ed.), Sage Publications Ltd.

また、ファイナンス分野で実証研究をする場合は、次の本が良い手引きになる。

John Campbell, Andrew Lo, and Craig MacKinlay, *The Econometrics of Financial Markets*, Princeton University Press, 1997.

### 【成績評価の方法と基準】

各自の報告内容、授業へのコミットメントの程度などを総合的に勘案し、成績評価をおこなう。

### 【学生の意見等からの気づき】

統計ソフトなどの使い方等、実際にやってみたら意外と簡単に習得できたという学生を何人も見てきた。何事もチャレンジさせることが良いと思っている。

### 【学生が準備すべき機器他】

秋学期では具体的な執筆作業の指導に入るので、できるかぎり、パソコンを持参して欲しい。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 財務会計論

<研究テーマ> 財務会計における資産評価、統合報告、会計用語の使用法、財務報告におけるグラフの利用

<主要研究業績>

川島健司（2020）「収益という用語は、いつからどのように使われてきたか」『会計』第198巻、第6号、pp.43-56。

### 【Outline and objectives】

The seminar for master's thesis guides students in the entire process of carrying out research to complete a thesis. This process consists of choosing a research topic, selecting a proper approach to the topic, carrying out the research plan, and writing a thesis to summarize the findings.

## 管理会計論

福田 淳児

実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計に関わる基本的な諸概念また理論を学習し、自社をはじめとする企業で採用されている管理会計実務について批判的に検討する力を獲得することを目的とする。さらに、近年新たに登場してきた管理会計の研究トピックについても、その登場の背景にある環境要因を理解するとともに、その議論の特徴を理解することを目的とする。

### 【到達目標】

管理会計の基本的な概念や用語について簡潔に説明ができる。管理会計研究の領域における新しい研究テーマについて理解する。また、自らが所属する企業をはじめとする組織の管理会計実務のあり方について理論的に評価・検討を行い、その問題点について指摘ができる。さらには、自社の管理会計システムについて必要に応じて改善案を提示することができる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

### 【授業の進め方と方法】

本授業は zoom を使用したオンライン形式で行います。授業では、毎回、教員が各テーマに関連した基礎的な理論および研究についての説明ないし紹介を行います。その後、配布資料に基づいた報告を担当の学生に行ってもらいます。各テーマについての理論的な説明、また学生が行った報告に基づいて関連した質疑応答を行うことでテーマへの理解を深めます。議論のさいには、自社の状況とあわせて議論を行うことを意識してもらえばより実践的な議論になると思います。さらに、毎回、講義の終了時点で、短い問題、またはケースを配布しますので、その回に学習した内容に基づいて、問題やケースを考えてくることを毎回の課題とします。この問題を次回の講義のはじめにそれぞれ発表してもらい、議論を行うことで、前回のテーマについての理解をより一層深めてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	会計学の二つの領域である管理会計と財務会計の相違点について説明する。さらに、この講義で扱うテーマ、またテーマ間の関係について説明を行なう。
2	原価計算の基礎および管理会計の基本概念	原価計算の一連の計算手続きについて例題を解きながら確認する。さらに、管理会計の基本的な概念について概観する。
3	意思決定目的のための管理会計	意思決定目的のための管理会計の概念およびその技法について説明する。特に、設備投資経済性計算の問題を取り上げ、その意思決定のプロセスについて議論する。
4	予算管理システムについて	予算管理に関する論点を取り上げ検討するとともに、予算管理実務について紹介し、議論を行う。

5	製造間接費の配賦問題と Activity-Based Costing	伝統的な間接費の配賦方法の問題点また限界を明らかにする。さらに、ABC の概念を理解する。特に、ABC の背後にある環境要因の変化やその理論的な背景について議論を行なう。
6	原価管理（原価維持・原価改善・原価企画）	原価管理の問題を取り扱う。主に、標準原価計算による原価管理、原価改善活動および原価企画活動の関連性およびその発展について、事例を交えて考察する。
7	財務的な業績評価指標	伝統的な財務的な業績評価指標に対する批判および EVA など比較的近年提示された財務的な業績評価指標についてそのメリット、デメリットを検討する。
8	バランス・スコアカードの理論と実践	BSC の概念を中心に、非財務的な指標および財務的な指標との関係性について、これまでの研究成果を交えて検討する。
9	組織構造と管理会計	事業部制、カンパニー制および持株会社制における管理会計上の問題を特に分権化の程度との関係で議論する。
10	報酬システムの設計	報酬システムの設計とそれが企業の構成員の行動に与える影響を理論また実証の両面から議論する。
11	戦略的な管理会計	戦略的な管理会計の要件を明らかにするとともに実務での適用事例を取り上げつつ議論を行なう。
12	中小企業の管理会計	企業の規模に応じてそこで利用される管理会計実務に違いがあるのか、あるとすればどのような違いかについて議論する。
13	創造性と管理会計	管理会計システムが企業のメンバーまたそのグループの創造性に与える影響について考察する。
14	まとめとわが国における管理会計実務	授業の内容を振り返るとともに、我が国における管理会計実務の発展を近年行なわれたケース研究また郵送質問票調査に基づいて明らかにする。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 回目 管理会計と財務会計の相違点について管理会計の大学レベルの基本的な文献を読み理解しておくこと。また、自社または実際の企業において、管理会計情報が果たしている役割を考えておくこと。
- 2 回目 原価計算の一連の手続きおよび用語について、大学レベルの教科書を復習しておくこと。
- 3 回目 意思決定に必要な原価概念を事前の配布資料に基づいて整理すること。また設備投資の経済性計算の方法についても復習しておくこと。自社における設備投資案の評価において、どのような方法が利用されているのかも調べておくこと。
- 4 回目 配布資料に基づいて予算管理システムの組織内での働きを明確にするとともに、自社の予算管理システムの運用について調べておくこと。
- 5 回目 配布資料に基づき、伝統的な間接費の配賦の背後にある考え方を明確にしておくこと。さらに、ABC の特徴を整理し、伝統的な間接費の配賦方法との相違点をまとめておくこと。
- 6 回目 原価管理の様々な技法の特徴を明らかにするとともにそれらの技法間の関連性を配布資料に基づいて考えておくこと。自社の原価管理の事例をまとめておくこと。
- 7 回目 配布資料に基づいて、EVA などの財務的な業績評価指標が事業単位の責任者の行動にもたらす影響を整理しておくこと。
- 8 回目 財務的な指標と非財務的な指標との間の関係を配布するケースに基づいて明確にすること。また、ケースに基づいて、自社の状況を考えておくこと。
- 9 回目 分権的な組織と集権的な組織の特徴の比較および事業部制組織、カンパニー制組織さらに持株会社制度における管理会計上の問題を明確にしておくこと。

10 回目 報酬システムの設計が組織における人間行動に及ぼす影響を考察すること。特に自分が所属する組織の報酬システムのありかたについて考察すること。

11 回目 配布資料に基づいて戦略的な管理会計と伝統的な管理会計との相違点をまとめておくこと。

12 回目 中小企業における管理会計実務について配布資料に基づいて考察を行うこと。特に、大企業との相違点を明確にすること。

13 回目 管理会計システムを中心とするマネジメント・コントロール・システムが創造性に及ぼすまたは及ぼすと考えられる影響を自社の事例に基づいて考察すること。

14 回目 自社の管理会計実務について本授業で取り上げた議論に基づいてレポートの形でまとめること。その際、理論との乖離が起きている場合、その理由を考えてみる。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回必要な文献や資料を紹介します。

#### 【参考書】

管理会計の入門書としては以下のものがありますので参考にしてみてください。

櫻井通晴『管理会計第5版』中央経済社

谷武幸『エッセンシャル管理会計第2版』中央経済社

#### 【成績評価の方法と基準】

講義での担当報告箇所の報告内容に基づく評価 30 点、講義中の議論への参加の状況 20 点、最終レポートの内容 50 点で評価を行います。講義中の議論への参加については回答の正しさよりも積極的に議論に参加する姿勢を評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

他の企業の事例などをもっと知りたいという要望がありました。ディスカッションを通じて、お互いの企業を管理会計実務を学習するとともに、様々な企業のケースを取り上げることで、できる限りこのような要望に応えるようにしたいと考えています。

#### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>管理会計論

<研究テーマ>マネジメント・コントロール・システムと組織学習  
<主要研究業績>

①「スタートアップ企業における MCS の採用とその精緻化」『メルコ管理会計研究』第 11 号-II, pp.3-23, 2019.

②「ambidextrous 組織におけるマネジメント・コントロールの設計について」『経営志林』第 55 巻第 4 号, pp.19-43, 2019.

③ Organizational Learning via Strategy Formulation and the Role of MCS in That

Process: The Case of Kikkoman Corporation. "Japanese Management and

International Studies, Management of Innovation Strategy in Japanese Companies", Vol.13. pp.159-175, 2016.

#### 【Outline and objectives】

The purpose of this class is to provide students with the basic concepts and theories of management accounting. It also include the development of students' abilities to examine critically their company' practices of management accounting. The other purpose of this class is to deal with emerging topics of management accounting with an aim to promote students' understandings on the environmental and theoretical backgrounds for the emergence and to equip students with knowledge of their characteristics.

MAN500F1 - 0094

## 財務会計論

倉田 幸路

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計報告書を理解する上で重要な財務会計に関する基本的考え方が理解できるようになります。単に、現在の制度の会計規定を理解するだけでなく、どのように変わってきたのか、今はどのような規定かを理解できるようになります。

#### 【到達目標】

現在の財務会計のルールはどのようになっているか、また現在の財務会計の規定はどのように変遷してきたかを理解することにより、将来どのように変わっていくかということを理解できるようになります。また、国際会計基準やアメリカ基準との相違も理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。2コマ連続の講義ですので、各週ごとに（合計 14 回）リアクションペーパーを提出してもらいます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

##### 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	I 財務会計の基礎 II 財務会計の理論 1 理論とは？	財務会計の定義、会計の種類、会計における測定と報告、企業を取り巻く利害関係者との関係、財務会計の機能、財務会計の精度性と公共性について講義します。 理論的方法論的基礎、実証的命題と規範的命題およびアメリカにおける会計理論の発展について講義します。
第 2 回	II 財務会計の理論 2 II 財務会計の理論 3	ドイツにおいて展開された静態論、動態論、新静態論の理論的展開の意義について講義します。 アメリカにおいて議論が進んだ、資産・負債アプローチと収益・費用アプローチについて講義します。
第 3 回	III 概念フレームワーク 1 III 概念フレームワーク 2	日本の概念フレームワークについて講義します。 IASB と FASB の共同作業による概念フレームワークの第 1 章「財務報告の目的」と第 2 章「有用な財務情報の質的特性」を講義します。
第 4 回	III 概念フレームワーク 3 IV 日本の会計制度 1	IASB の概念フレームワークの第 3 章「財務諸表と報告企業」から第 8 章「資本維持」まで講義します。 日本の会計制度の特質、会社法における会計の特質、特に、株式会社における純資産の部の変革について講義します。

第 5 回 IV日本の会計制度 2 IV日本の会計制度 3	<p>金融商品取引法における会計規制の特徴および税務会計における確定決算基準について講義します。</p> <p>日本の会計基準審議会（会計基準委員会）による会計基準設定の問題、および各会計規定との関係について講義します。</p>	<p>第 13 回 VII負債の概念と測定 2 VII負債の概念と測定 3</p> <p>退職給付に係る会計基準について、基本的考え方、確定給付年金制度における退職給付債務の概念、退職給付制度の会計処理、米国基準および国際会計基準との比較について講義します。</p> <p>資産除去債務について、基本的考え方、資産除去債務の会計処理、具体的計算例について講義します。</p>
第 6 回 V収益費用 1 V収益費用 2	<p>収益費用の定義および費用の認識基準としての発生主義、収益の認識基準としての実現主義（リスクからの解放）について講義します。</p> <p>収益認識基準の具体的な形態、特に工事進行基準について講義します。</p>	<p>第 14 回 VIII純資産の表示 1 VIII純資産の表示 2</p> <p>会計理論上の資本の分類と会社法における純資産の区分、株式会社の資本金、増資・減資の会計処理、自己株式、評価換算差額等、新株予約権について講義します。</p> <p>株主資本等変動計算書の目的、区分、内容について講義します。</p>
第 7 回 V収益費用 3 V収益費用 4	<p>包括利益と純利益の定義および両者の関係について講義します。特に、リサイクル（組替調整）の問題について講義します。</p> <p>新たな収益認識基準について、具体的な収益認識のステップ、変動対価や契約資産、契約負債など新たに導入された概念について講義します。</p>	<p>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。</p> <p>【テキスト（教科書）】 テキストは使用しません。</p> <p>【参考書】 桜井久勝著『財務会計講義』中央経済社</p>
第 8 回 VI資産の概念と測定 1 VI資産の概念と測定 2	<p>資産の概念と測定および金融商品の時価評価について講義します。特に、金融商品の時価評価の経緯と内容、金融商品の時価評価の問題点について講義します。</p> <p>棚卸資産の概念と測定および強制された低価評価の内容について講義します。</p>	<p>【成績評価の方法と基準】 各回のコメントカード（50%）、期末レポート（50%）</p> <p>【学生の意見等からの気づき】 できるだけ、国際的動向も含めて講義していきます。</p>
第 9 回 VI資産の概念と測定 3 VI資産の概念と測定 4	<p>固定資産の減損について、減損の兆候、減損の認識と測定、減損損失の戻入れ、日本基準、アメリカ基準、国際会計基準との比較について講義します。</p> <p>リース会計とは何か、日本基準におけるファイナンスリースとオペレーティングリースの区別、ファイナンスリースにおける借り手と貸し手の処理、新たな、IASB におけるリース会計について講義します。</p>	<p>【学生が準備すべき機器他】 Zoom を用いて講義しますので、パソコン等が必要になります。学習支援システム（Hoppii）を利用して、授業のお知らせ（Zoom のアドレス）、レジュメ、課題をアップし、提出してもらいます。</p>
第 10 回 VI資産の概念と測定 5 VI資産の概念と測定 6	<p>日本における無形資産の会計処理、無形資産とそれの定義、企業結合会計について講義します。</p> <p>現在計上が認められている、5 つの繰延資産について講義します。</p>	<p>【担当教員の専門分野等】 &lt;専門領域&gt; 会計学、財務会計、国際会計 &lt;研究テーマ&gt; 財務諸表の表示、会計基準の国際的調和化 &lt;主要研究業績&gt; ・「純資産の部の会計と法務」成道秀雄編『純資産の部の総合的検討』日本税務研究センター、2019 年 7 月。 ・「EU における会計制度改革」、「ドイツにおける会計制度改革」河崎照行編『会計制度のパラダイムシフト』中央経済社、2019 年 3 月。 倉田幸路編著『財務会計の現状と展望』白桃書房、2014 年 7 月。</p>
第 11 回 VI資産の概念と測定 7 VI資産の概念と測定 8	<p>研究開発費に関する会計基準における研究と開発の範囲とそれぞれの会計処理およびソフトウェアの会計処理について講義します。</p> <p>外貨換算会計基準について、外貨換算の方法、在外支店の会計処理、在外子会社の会計処理および国際会計基準との比較について講義します。</p>	<p>【Outline and objectives】 You can understand the basic accounting standards that are most important to understand the accounting reports. You can understand not only present accounting standards, but also historical change of accounting standards.</p>
第 12 回 VI資産の概念と測定 9 VII負債の概念と測定 1	<p>税効果会計の導入の経緯、税効果会計の具体的な考え方、資産負債法による一時差異の認識、繰延税金資産と繰延税金負債の認識および具体的計算例について講義します。</p> <p>負債の概念と測定、特に、引当金の目的および引当金の種類、債務性のない引当金の問題について講義します。</p>	

MAN500F1 - 0097

## 経営分析

福多 裕志

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営分析とは、企業会計システムを通して創出される会計情報に着目し、効率的な経営管理と合理的意思決定の促進を目的とし、創出された情報の意味内容を解釈するプロセスと技術である。本科目では、主として定量的財務諸表分析に焦点を絞り、日米の文献（およそ日本文献 8：米文献 2 の割合）を参照しながら、講義、問題演習、受講者による発表・討論をもって授業を進行する。有価証券報告書の中身を精査する授業とは異なるので注意されたい。

## 【到達目標】

1. 予備技術として、オンラインデータベースより必要とされる財務データを正確に検索すること。
2. 当該財務データを統計的に処理し（記述統計）、計算結果を評価すること。
3. 財務比率・指標を比較・検討するための平均値、分散を推定し（推測統計）、計算結果を評価すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

オンライン上の財務データを積極的に利用し、データ分析（統計解析）の実行結果を経営分析の観点から参加者間で議論・評価する。

## 【重要】

コロナ状況下による授業形態情報を、学習支援システム上の「お知らせ」や「授業内掲示板」に掲載します。現時点での基本方針は、第 1 回目の授業（Zoon）を除き、キャンパス内での対面授業を予定しております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義計画と経営分析の目的	コース概要、経営分析の目的、機能等についての説明
第 2 回	財務諸表分析の枠組み：その 1	財務諸表分析の基本事項および基本統計量の確認と計算
第 3 回	財務諸表分析の枠組み：その 2	財務安全性、効率性、収益性、成長性の 4 領域の確認と問題演習
第 4 回	短期利益計画	損益分岐点分析の応用、現実データへの展開
第 5 回	中間発表	参加者が有する事例研究
第 6 回	経営分析への基礎統計学の応用 1	財務諸表分析において使用される主な分布 - 正規分布。問題演習
第 7 回	経営分析への基礎統計学の応用 2	財務諸表分析において使用される主な分布 - t 分布等。問題演習
第 8 回	経営分析への基礎統計学の応用 3	経営領域のいくつかの推定に関連する問題
第 9 回	経営分析への基礎統計学の応用 4	財務諸表分析において使用される主な分布 - $\chi^2$ 分布、F 分布等。問題演習
第 10 回	統計解析を応用した経営分析関連のケース発表	財務諸表分析における業界平均値の推定およびその有用性の検討
第 11 回	経営分析への基礎統計学の応用 5	複数業界の分散の推定

第 12 回 経営分析への基礎統計学 推定・検定の事例研究、問題演習の応用 6

第 13 回 統計解析を応用した経営分析関連のケース発表

第 14 回 最終試験 統計分析の応用に関し授業内で学習した事項の最終筆記試験および解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データベースにアクセスし、関心ある個別企業、業界の財務諸表分析を様々な角度から実施することを推奨する。

## 【テキスト（教科書）】

参考文献を基に独自に作成したスライドを学習支援システム上に掲載する。

## 【参考書】

- 1) Colin Drury(2008), Management and Cost Accounting 7th ed., South-Western.
  - 2) Ray H. Garrison(2008), Managerial Accounting, McGraw Hill International.
  - 3) 青木茂男『要説 経営分析 五訂版』森山書店, 2016 年.
  - 4) 大津広一『企業価値を創造する会計指標入門』ダイヤモンド社, 2005 年.
  - 5) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995 年.
- 追加的英語、日本語の参考文献は学習支援システム上に掲載する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への貢献度、事例発表）40%、最終試験 60%とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講者が有する予備知識に応じて柔軟に対応したい。

## 【学生が準備すべき機器他】

最終試験の際、一般的電卓のみ使用可とする。授業では、インターネット接続および計算ソフト（エクセル等）の利用を推奨する。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>意思決定会計

<研究テーマ>財務体質の日米比較

<主要研究業績>

・「品川区中小企業グループと上場企業の収益性比較」東京都城南地域中小企業振興センター, 2000 年.

・「売上高経常利益率の 1 次元位相」（ワーキング・ペーパー）法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 2007 年.

## 【Outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision makers evaluate an organization's past activities and predict its future performance. In class we focus our attention on some basic and important ratios and other analytical tools.

ECN500F1 - 0098

## 基礎ファイナンス

山崎 輝

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ファイナンス理論の広範な成果は実社会に多大な影響を与えており、これなくして現代の金融ビジネスは成立しない。本授業では、ファイナンスを初めて学ぶ学生を対象に、証券分析やデリバティブ理論における現在価値の評価手法を主なテーマとして講義を行う。それに加えて、ポートフォリオ理論の入門的な解説も行う。金融実務における基礎理論の役割や活用方法についても詳しく解説したい。多くのビジネススクールでは、ファイナンスは必修科目に指定されているため、ファイナンスが専門ではない学生でも一通りのファイナンスの知識を学ぶのが一般的である。この授業ではそのような機会を提供したい。学生は「ファイナンスの基礎理論を体系的に学ぶことで、企業財務と金融市場の関係を深く理解できるようになる」ことが授業の目的となる。

## 【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げる。

- ①金融市場の基礎知識・用語を習得し、金融商品・金融取引のしくみを理解する。
- ②債券や株式、デリバティブにおける基本的な計量分析や価値評価ができる。
- ③無裁定価格理論などのファイナンスの基本概念や将来の不確実性を伴うキャッシュフローの価値評価手法が説明できる。
- ④証券投資の基礎を現代ポートフォリオ理論に沿って理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

この授業はネット会議アプリ Zoom を使用したオンライン授業（リアルタイム配信型）で開講する。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をすること。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に連絡する。授業中に演習課題に対する講評をすることで、個別のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとイントロダクション	講義の進め方等の説明。
第2回	金融・証券市場	債券・株式市場を中心に市場の機能や分類の概説。
第3回	キャッシュフローと現在価値	分析に必要な数学の予備知識および現在価値の概念の解説。
第4回	債券分析入門 1	債券投資の収益率、スポットレート、フォワードレートの概念の解説。
第5回	債券分析入門 2	金利の期間構造や債券投資のリスク分析の入門的な解説。
第6回	債券分析入門 3	債券の信用リスクと債券格付けの入門的な解説。
第7回	株式分析入門 1	配当割引モデルの概説とそれを活用した理論株価の分析。
第8回	株式分析入門 2	キャッシュフロー割引モデルと残余利益モデルの概説とそれらを活用した理論株価の分析。

第9回	デリバティブ市場	店頭取引や取引所取引など、デリバティブ市場の概観の紹介。
第10回	先渡・先物分析入門	先渡取引と先物取引のしくみと活用例、プライシング手法の入門的な解説。
第11回	スワップ分析入門	スワップ取引のしくみと活用例、プライシング手法の入門的な解説。
第12回	オプション分析入門	オプション取引のしくみと活用例、2項モデルによるプライシング手法の解説。
第13回	ポートフォリオ理論入門 1	平均分散アプローチによる証券投資の意思決定理論の解説。
第14回	ポートフォリオ理論入門 2	CAPM（資本資産価格モデル）の導出とアルファとベータの解釈。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。スライド資料の復習を十分に行うこと。知識を積み上げて学んで行くので、途中で理解できなかった箇所は放置せずに質問すること。また、指定した参考書を活用して理解を深めることが好ましい。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。スライド資料を用意するので、各自ダウンロードすること。ダウンロードの方法は初回授業で説明する。

## 【参考書】

- ①佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2019年、ビジネス教育出版社
- ②伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論II 実務篇』、2009年、日本経済新聞出版社
- ③ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション
- ④小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論I 理論篇』、2009年、日本経済新聞出版社

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、演習（50%）  
授業中に基礎的な問題を解いたり、演習課題の発表を行ってもらうことで理解度を確認する。

## 【学生の意見等からの気づき】

金融実務での事例をたくさん紹介することでファイナンスの基礎理論が理解しやすくなるように工夫する。

## 【学生が準備すべき機器他】

表計算ソフト（エクセルもしくはNumbers）を使うので、各自で用意すること。

## 【前提知識】

中学・高校の数学の基礎知識（連立方程式、2次方程式、関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）を使うが、極度の数学アレルギーでない限り心配は無用である。

## 【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ファイナンス  
<研究テーマ> 金融テクノロジー、資産価格理論  
<主要研究業績>

- ① “A General Control Variate Method for Levy Models in Finance,” *European Journal of Operational Research*, Vol.284, No.3, 2020, Elsevier
- ② “Probability Weighting and Default Risk: A Possible Explanation for Distressed Stock Puzzles,” *Quantitative Finance*, Vol.20, No.5, 2020, Taylor & Francis
- ③ “A Dynamic Equilibrium Model for U-Shaped Pricing Kernels,” *Quantitative Finance*, Vol.18, No.5, 2018, Taylor & Francis

## 【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

## 【Outline and objectives】

This course provides fundamentals of modern finance theory and its applications to basic security analysis, investment decisions, financial derivative pricing, and financial risk management. The objectives of this course are to give: (1) basic knowledge of financial system, financial markets, and securities; (2) valuation methods of stocks, bonds, forwards, futures, swaps, and options; (3) methods for incorporating risk analysis into valuation models, including the mean-variance approach and the Capital Asset Pricing Model; and (4) applications to corporate financial decisions, including optimal capital structure, capital budgeting, and dividend policy.

ECN500F1 - 0099

## 実証ファイナンス入門

金 瑠晋

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主にファイナンスや会計関連分野で実証研究を行う上で必要とされる分析方法を身に付けることを目的とします。実証ファイナンスは、計量経済学と密接な関係があり、そのファイナンス関連分野への応用と、ファイナンス分野発祥の分析手法で成り立ちます。問題意識と符合する推定モデルの選択は、先行研究の理解及び研究遂行の上で、極めて重要なプロセスです。授業は、分析手法の学習、金融・財務データを用いた実習、関連文献の紹介で構成されます。アカウンティング・ファイナンスコース以外の学生の受講も歓迎します。

## 【到達目標】

- ・論文作成に必要な実証分析の基礎を身に付けることができます。
- ・仮説の立て方と検定について一定レベルの知識が培われます。
- ・企業と金融・資本市場から入手できるデータの加工能力が高まります。
- ・計量分析ソフトウェアの使い方を身に付けられます。
- ・ファイナンス・会計関連分野の先行研究について理解が深まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義と実習に基づきます。時間の制約上、推定モデルの直観的な理解と実際のデータ処理能力の向上に照準を合わせます。授業中には、計量分析ソフトウェアを用いた実習を行い、理解力を高めます。講義内容は、受講者の要望などにより多少の変更があり得ます。授業計画については、トピックの順序が前後する、または、時間の配分が流動的になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	具体例から始める：マーケットモデルの理解 1	収益率の理解、収益率データ（離散、連続）の計算（日次、月次）と統計量
第2回	具体例から始める：マーケットモデルの理解 2	マーケットモデルの推定と直観的理解、計量分析ソフトウェアの使い方
第3回	統計学の復習 1	母集団と標本、収益率と確率変数、収益率データの記述統計量、ボラティリティの推定
第4回	統計学の復習 2	推定量の性質（不偏性、有効性、一致性）、仮説検定、t 値・p 値の理解
第5回	標準的仮定の下での回帰分析 1	標準的仮定の理解、最小二乗法における最小化問題の解の表現
第6回	標準的仮定の下での回帰分析 2	最小二乗法における推定量の望ましい性質
第7回	標準的仮定の下での回帰分析 3	決定係数、t 検定、予測
第8回	実習 1	マーケットモデルの推定（再訪）、CAPM の推定
第9回	多重回帰分析 1	多重共線性、自由度修正済決定係数
第10回	多重回帰分析 2	ダミー変数の理解、F 検定、構造変化の検定
第11回	実習 2	ファマ・フレンチのマルチファクターモデル
第12回	イベント分析 1	イベント分析方法の解説、イベント分析手法の種類、適用例の紹介
第13回	イベント分析 2	イベント分析における統計量の理解、イベント分析のための収益率データのマネジメント、結果の解釈
第14回	イベント分析 3: 実習 3	イベント分析の適用例：公募増資、新規株式公開
第15回	株価長期パフォーマンスの測定	BHAR、CTP、文献の紹介
第16回	標準的仮定の緩和 1	不均一分散、系列相関の下での推定量の性質と対応
第17回	実習 4	企業の財務行動分析への応用例
第18回	パネルデータ分析	パネルデータの作成、個別（個人）効果の理解、推定法
第19回	実習 5	企業の財務行動分析への応用例
第20回	標準的仮定の緩和 2	内生性の問題、操作変数法、二段階最小二乗法
第21回	実習 6	資産価格付けモデルへの応用

第 22 回	質的従属変数モデルの推定	プロビット・トービットモデルとその拡張
第 23 回	実習 7	企業の資金調達手段の選択への応用
第 24 回	時系列分析の基礎	金融時系列の性質、定常性、古典的 ARMA モデル、金融時系列データへの応用
第 25 回	ベクトル自己回帰モデル	グレンジャー因果性、インパルス応答関数、分散分解
第 26 回	実習 8	国際株式市場分析
第 27 回	個人プロジェクトの報告	報告と討論、講師からのフィードバック
第 28 回	総括	学習内容のおさらい、実証分析における留意点

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。  
表計算や計量分析ソフトウェアの使い方に慣れるよう心がけましょう。

**【テキスト（教科書）】**

- ・配布物
- ・テキストはいくつかの候補の中で初回の授業で決めます。

**【参考書】**

沖本竜義、『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』、朝倉書店、2010

**【成績評価の方法と基準】**

質疑応答、討論などの授業参加度 30 %、期末プレゼンテーション 40 %、期末レポート 30%。期末レポートは、期末プレゼンテーションに付き、受講者と講師が行ったフィードバックを受け、更なる改善を加えたものとする。

**【学生の意見等からの気づき】**

更に分かりやすい解説を心がけます。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムに関連資料をアップロードします。大学院棟 2 階講師控え室からノートパソコンを借りることができます。

**【その他の重要事項】**

受講者にはアカウンティング・ファイナンスコース関連科目の履修を前提としませんが、これらの科目を履修または並行受講する場合、より理解が深まります。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>ファイナンス  
<研究テーマ>企業の財務行動  
<主要研究業績>

(1)Prepayment Behaviors of Japanese Residential Mortgages, Japan and the World Economy, 30, 1-9, 2014 (with N. Kishimoto).(2)A GARCH Option Pricing with Conditional Non-Normality, Unpublished Manuscript, 2012.(3)Effects of Stochastic Interest Rates and Volatility on Contingent Claims, Japanese Economic Review, 58, 71-106, 2007 (with N. Kunitomo).

**【Outline and objectives】**

The course offers an introduction to empirical finance for those who plan to write master's theses on finance and related topics. It also discusses empirical results in some often-quoted finance literature to understand how those analytical methods are applied.

ECN500F1 - 0102

**コーポレート・ファイナンス**

岸本 直樹

**実務教員：****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本科目の主要な目的は、企業財務上の重要な事項についてコーポレート・ファイナンス理論が提供する知見を学ぶことにある。ただし、本科目においては、コーポレート・ファイナンス理論を通常のコーポレート・ファイナンスの科目よりも実務的な観点から学習する。

**【到達目標】**

本科目においては、次の 8 点を学ぶ。

- (1) 財務諸表の基礎的な知識と主要な財務比率の計算
- (2) 現在価値計算
- (3) 実物投資の決定方法
- (4) ポートフォリオ理論と CAPM
- (5) 資本構成の理論
- (6) 資本コスト
- (7) 配当政策と自社株買い
- (8) 企業価値の評価
- (9) 企業の合併・買収
- (10) コーポレートガバナンス
- (11) オプション
- (12) オプションの応用
- (13) 財務リスク・マネジメント
- (14) 国際財務管理

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

基本的には、教科書の指定箇所を輪読した後、ディスカッションを行うという形式で授業を進める。ただし、理解が難しい部分や、教科書が十分説明していない部分については、講師が講義したり、追加的な資料を提供したりする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業内容全体を概説すると同時に、授業の運営方式を説明する。
2	財務諸表と現在価値計算	損益計算書、貸借対照表、財務比率、現在価値計算について概観する。
3	実物投資の決定方法	正味現在価値豊について学習する。
4	ポートフォリオ理論と CAPM	マーコウィッツが提唱したポートフォリオ理論と、シャープが提唱した CAPM を学習する。
5	資本構成の理論	資本構成の理論についての諸説を学習する。
6	資本コスト	資本コストの考え方と計算方法を学習する。
7	配当政策と自社株買い	配当政策と自社株買いについて学習する。
8	企業価値の評価と企業の合併・買収	企業価値の評価と企業の合併・買収について学習する。
9	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンスについて学ぶ。
10	オプション	オプションについて学習する。

11	財務リスク・マネジメント	財務リスク・マネジメントについて学習する。
12	国際財務管理	国際財務管理について学習する。
13	総括	今学期学習した内容を概観する。
14	授業内テスト	期末テストを実施する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修生全員が各回で指定された部分についてテキストをしっかりと学習することを履修要件とする。なお、本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

新井富雄、高橋文郎、芹田敏夫共著、『コーポレート・ファイナンス－基礎と応用－』、中央経済社、2016年、3400円。

#### 【参考書】

特になし。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業中の発表、ディスカッションにおける発言の内容、さらに、期末に実施する小テストに基づく。評価における各要素への配分は、授業中の発表とディスカッションが60%、小テストが40%。

#### 【学生の意見等からの気づき】

さらに授業内でのディスカッションを活性化させる。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

本科目を履修する前に「基礎ファイナンス」を履修することが望ましい。また、ファイナンス、あるいは、ファイナンスに近い分野で修士論文を書く計画を立てている履修者は、「実証ファイナンス」も履修することが望ましい。

#### 【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > ファイナンス

< 研究テーマ > 債券、先物、オプション、デリバティブ、証券化商品、住宅ローンの期限前償還。

< 主要研究業績 >

- ①『入門・証券投資論』（池田昌幸氏との共著）、有斐閣、2019。
- ②"Prepayment Behaviors of Japanese Residential Mortgages," Japan and the World Economy, No. 30 (2014), pp. 1-9.
- ③"Pricing Path-Dependent Securities by the Extended Tree Method," Management Science, Vol. 50 No. 9 (2004), pp. 1235-1248.

#### 【Outline and objectives】

The objective of this course is to learn insights about important aspects of corporate finance offered by the financial theory. This course pays more attention than usual to practices followed in the real business world. Therefore, we adopt a textbook written by a practitioner in corporate finance business.

MAN500F1 - 0106

## 経営学基礎

福島 英史

#### 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、初学者が経営学の基礎的な知識を習得することにあります。企業組織が市場を中心とした環境に働きかける活動とこれを支える組織の問題を考えていきます。どのように精緻に活動を計画できたとしても、組織がこれを適切に遂行できなければ、期待するような成果を得ることはできません。そこで、組織の対外的な活動とこれを計画し、遂行する組織内部の問題についてみていきます。

#### 【到達目標】

経営学を体系的に学んだことがない者が、経営学の基礎的な概念・視角について理解し、説明できることが到達目標です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

本年はオンライン授業（リアルタイム配信型）形式の開講とされる。Zoomの画面共有を使いパワーポイントのスライドで講義をします。初回授業のアクセス方法をはじめ、授業に関わるお知らせ、補助教材を学習支援システムに掲載します。Zoomが不調の際はwebEXが使われます。

株式会社の意義、日本企業の雇用慣行、顧客・競合他社をとらえる経営戦略の視点、組織の存在と人々の参加など、経営学の一般的なトピックスの、初歩を学びます。

授業中に、講義トピックスに関連したエクササイズ課題が課されます。履修者は、課題に関する意見を求められます。これに対して授業内で講評・解説が行われます。同課題は、学習支援システム「テスト」機能から締め切りまでに提出します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要と問題意識の共有
第2回	会社形態と資本	株式会社の意義
第3回	雇用問題を捉える視点	日本の雇用慣行
第4回	モチベーション	実体とプロセスの理論
第5回	リーダーシップ	スタイルと状況適合
第6回	事業の競争構造と収益性	業界構造の基本的観点
第7回	事業の競争構造と収益性	構造変数の捉え方
第8回	事業システムの視点	競争と協調の論理
第9回	利益配分とパワー構造の	パワー分布と利益配分
	変革	
第10回	資源戦略論	経営資源と競争優位
第11回	イノベーションの視点	イノベーションと市場地位
第12回	企業の境界	事業の範囲と多様化
第13回	組織と市場	組織は戦略に従う
第14回	まとめ、試験	学習成果の確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義について復習するとともに、身近な事例についてその意味を考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。担当教員が作成した教材を学習支援システムに掲載します。

#### 【参考書】

多岐にわたるため、授業中に各トピックスに関連した文献を教員が提示。

#### 【成績評価の方法と基準】

学習成果の確認ため試験を行い（50%）、授業中の課題・これにもとづく発言（50%）を評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業時エクササイズ時間をしっかりとります

#### 【学生が準備すべき機器他】

お知らせ、教材・資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使用します。予め使用方法の理解をお願いします。オンライン受講が可能な機器・環境が必要です。教材は法政大学専用Gmailアドレス（@stu.hosei.ac.jp）でアクセスしてください。下記が参考になります。https://hic.ws.hosei.ac.jp/network

#### 【その他の重要事項】

授業外でどうしても教員へアクセスが必要な場合、fksmhs@gmail.comへご相談ください。

## 【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞組織の戦略的意思決定

＜研究テーマ＞戦略と組織・イノベーション、産業発展のダイナミズム、経営学説史など

＜主要研究業績＞①「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53(1), 2016. ②“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13(1), 2013. ③「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』(文真堂), 2012. ④「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3), 2010. ⑤「事業の多様化と経営成果—時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009.

## 【Outline and objectives】

The outline and objective of this class are as follows. We study the elements of academic concepts, logic, and theory of management. Those include topics of organizational activities toward their business environment like markets and internal activities of their members which construct the former. No matter how good the plan is, we can't gain expected result if our organization is not able to go through with it. Thus we address both external and internal problems of organizational activities.

MAN500F1 - 0108

## 会計学基礎

筒井 知彦

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、会計学の入門的な内容を学ぶ。財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の仕組みと見方、資産評価、収益や費用の認識と測定、財務分析の手法を学ぶ。学習を通じて財務諸表を読めるようになること、また、実際の財務諸表データを利用して基本的な財務分析を行えるようになることを目的とする。

## 【到達目標】

- ①貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書が読める。
- ②基本的な財務指標の知識が増える。
- ③企業の財務データを利用して基本的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

- ①講義と質疑応答、ディスカッションにより進めます。
- ②第12回～第14回では各学生に財務分析のプレゼンテーションを行ってもらい、それをもとにディスカッションをします。
- ③毎回、リアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の全体の概要を説明します。
第2回	財務諸表の見方(その1)	貸借対照表の構造および役割等について講義し、具体的な事例で見方を学びます。
第3回	財務諸表の見方(その2)	損益計算書の構造、役割および貸借対照表との関係等について講義し、具体的な事例で見方を学びます。
第4回	財務諸表の見方(その3)	キャッシュ・フロー計算書の構造、役割並びに貸借対照表および損益計算書との関係等について講義し、具体的な事例で見方を学ぶ。
第5回	財務諸表の見方(その4)	財務諸表を利用した分析手法を講義し、具体的な事例で実践します。
第6回	制度会計(その1)	わが国の制度会計(金融商品取引法会計・会社法会計・税務会計)の概要を理解します。
第7回	制度会計(その2)	わが国の制度会計(金融商品取引法会計・会社法会計・税務会計)の相互の関係と、国際的基準の影響について講義します。
第8回	利益計算の構造(その1)	伝統的な利益計算構造と財務会計の諸概念について講義します。
第9回	利益計算の構造(その2)	資産・負債アプローチに基づく利益計算構造と財務会計の諸概念について講義します。
第10回	利益計算の構造(その3)	伝統的な利益計算と資産・負債アプローチに基づく利益計算が現代の企業会計においてどのように統合されているかを理解します。

第 11 回 経営分析 (1)	具体的な事例により、収益性、効率性、安全性を分析します。
第 12 回 経営分析 (2)	財務分析のプレゼンテーション
第 13 回 経営分析 (3)	財務分析のプレゼンテーション
第 14 回 経営分析 (4)	財務分析のプレゼンテーション

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

- ①財務分析の手法に関する資料は復習してください。
- ②また、各自が選んだ企業の財務データについて、レポートをまとめてもらう予定です。
- ③それをもとにプレゼンテーションを行ってもらいます。

#### 【テキスト（教科書）】

講義資料を配布します。

#### 【参考書】

特に指定はしませんが、会計学または財務会計の入門書が参考になります。

#### 【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 40 %およびレポート 60%により評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

スクリーンが見づらいという指摘がありましたので、改善します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

講義は ZOOM によりオンラインで実施しますのでソフトをダウンロードしておいてください。

#### 【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 財務会計  
< 研究テーマ > 会計規制論  
< 主要研究業績 >

- ①『企業分析入門』（共訳、東京大学出版会、2001年3月）
- ②『財務会計通論』（分担執筆、税務経理協会、2009年3月）
- ③『収益の会計』（日本証券アナリスト協会）

#### 【Outline and objectives】

This class focuses on financial literacy and aims to provide students with the knowledge, understandings and a range of skills that enables them to make basic financial analysis.

FRI500F1 - 0114

## 情報学特論

児玉 靖司

実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

次の項目に沿って講義を行い、簡単な演習として学生独自の問題発見、解決を行うことを目標とする。①情報学とは、②コンピュータと経営学、③人工知能と経営学、④最近の情報システム、⑤経営戦略と情報システム、⑥経営戦略と OR（オペレーションズリサーチ）、⑦線形計画法とゲーム理論、⑧その他の話題、以上のテーマに関する講義を行う。

#### 【到達目標】

できるだけ最新の話題から経営学との関係についてまとめ、考察を行う方法を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

#### 【授業の進め方と方法】

情報学は、現在の経営学にとっても重要な学問領域である。本講義では、コンピュータの仕組みから学問としてのコンピュータの話題について幅広く解説し、さらに、情報システムと OR を用いた経営戦略のあり方について考察を行う。(1) コンピュータの仕組み、(2) ソフトウェア工学、(3) 人工知能とコンピュータ、(4) 経営戦略と情報システム、(5) 経営戦略と線形計画法、(6) OR を用いた経営戦略、以上をテーマとした講義と議論を行う。全体を通して、経営戦略を意識したコンピュータシステムに関する知識、使い方、情報システムのあり方について触れる。情報学と経営学との接点に関する学問的考察は一般的にはほとんどないと考えられるので独自の考察を行う。さらに、論文講読、外書講読を希望する学生が多い場合は、最近の情報システムやコンピュータ科学に関する論文を選択し輪読することがある。PC の画面をプロジェクタに投影しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報学とは	情報学の基礎と経営学の関わりについて学ぶ。
第 2 回	コンピュータ科学について	コンピュータ科学の基礎から応用について学ぶ。
第 3 回	ソフトウェア工学 (1)	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第 4 回	ソフトウェア工学 (2)	要求工学を中心としたソフトウェア工学について学ぶ。
第 5 回	ソフトウェア工学 (3)	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第 6 回	線形計画法 (1)	線形計画法について学ぶ。
第 7 回	線形計画法 (2)	線形計画法全般について学ぶ。
第 8 回	線形計画法 (3)	線形計画法の応用について学ぶ。
第 9 回	モデル検査 (1)	モデル検査の基礎について学ぶ。
第 10 回	モデル検査 (2)	モデル検査について学ぶ。
第 11 回	人工知能概説	人工知能と経営学について考察をする。
第 12 回	ゲーム理論 (1)	ゲーム理論の基礎について学ぶ。
第 13 回	ゲーム理論 (2)	ゲーム理論の基本定理を中心として学ぶ。
第 14 回	ゲーム理論 (3)	ゲーム理論の応用について学ぶ。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中で、1 回以上プレゼンテーションを行ってもらうため、準備を行うこと。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。パワーポイント資料を別途配布する。

## 【参考書】

開講後に指定する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、レポートまたはプレゼンテーション（40%）。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の研究内容に関連したディスカッションを多用する。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

特になし。

## 【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 情報学

< 研究テーマ > ディープラーニング、学習解析、コンピュータ科学

< 主要研究業績 >

・ Estimating Grades from Students' Behaviors in Programming Exercises using Machine Learning, Learning Analytics & Knowledge Conference (LAK18).

・ Estimating Grades from Students' Behaviors in Programming Exercises using Deep Learning, Proc. of 4th Annual Conference on Computational Science and Computational Intelligence (CSCI 2017).

・ Using Deep Learning to Predict Students' Programming Performance from Behavioral Features, Proc. of LASI-Asia 2017, JASLA, 2017.

・ Data Mining of Students' Behaviors in Programming Exercises, Proc. of 3rd International KES Conference on Smart Education and E-learning (KES-SEL-16), June 2016.

・ Reports on the Practice Toward the Self-Regulatory Learning using Google Forms, Proc. of 5th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2016), July 2016.

・ JMOOC: MOOC from Japan, Our Challenges and Perspectives, Proc. of Regional Expert Meeting on MOOCs, July 2015.

・ [http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001745/theses\\_e1.html](http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001745/theses_e1.html)

## 【Outline and objectives】

This course is aimed at students to do student's own problem finding and solution as simple exercises. (1) Information sciences (2) Computer and management (3) Artificial Intelligence and management, (4) Recent information systems, (5) Management strategy and information system, (6) Management strategy and OR (operations research), (7) Linear programming and game theory, (8) Miscellaneous topics and lectures on the above themes.

ECN500F1 - 0117

## 統計データ解析

猪狩 良介

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、「ビッグデータ」と呼ばれるデータ環境が整備され、「データサイエンティスト」という言葉が生まれるなど、ビジネスの現場でも統計学とデータ分析を行うニーズは非常に高まっています。また、ビジネスの場面で意思決定を適切に行うには、統計理論とデータに基づいて客観的に判断する必要があるため、そのためには統計学の知識が必要です。本講義は、統計学の基礎理論と代表的な分析手法を学ぶとともに、それを経営分野、特にマーケティングやビジネスに応用することを目的としています。前半は統計学の基礎を中心に、後半は統計モデリングと多変量解析を中心に学習します。また、フリーの統計ソフト R を利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

## 【到達目標】

- ・ 統計分析の理論を習得する。
- ・ 統計ソフト R の使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
- ・ 分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

- ・ 講義と統計ソフトを利用したデータ分析演習の双方を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要について説明します。また、統計ソフト R のインストールと基本操作について学びます
2	記述統計 (1)	平均値などの代表値と、分散や標準偏差などのばらつき指標について学びます。
3	記述統計 (2)	散布図と相関係数・共分散について学習します。
4	確率と確率変数	確率変数について学習します。また、確率変数の期待値と分散について学びます。
5	確率分布 (1)	2 項分布や正規分布などの代表的な確率分布を紹介します。
6	確率分布 (2)	大数の法則と中心極限定理について学びます。
7	標本分布	母集団と標本について学習します。また、正規母集団に関する標本分布と中心極限定理を利用した標本分布について学びます。
8	統計的推定	点推定と区間推定について学習します。
9	仮説検定 (1)	統計的仮説検定について学習します。また、正規母集団と中心極限定理を利用した仮説検定について学びます。
10	仮説検定 (2)	2 つの正規母集団の平均の差の検定と分散の比の検定について学びます。

11	単回帰分析 (1)	相関と回帰の違いについて学習します。また、単回帰分析とその推定法である最小 2 乗法について学びます。
12	単回帰分析 (2)	単回帰分析の推定と決定係数について学びます。
13	重回帰分析 (1)	重回帰分析について学びます。
14	重回帰分析 (2)	多重共線性やモデル選択について学びます。
15	ロジスティック回帰分析 (1)	2 値データを目的変数としたロジスティック回帰分析について学習します。また、最尤法について学習します。
16	ロジスティック回帰分析 (2)	予測値や的中率の算出方法、AIC によるモデル選択について学びます。
17	ポアソン回帰分析	計数データ (件数や個数) を目的変数とするポアソン回帰分析について学習します。
18	多項ロジットモデル (1)	多項選択肢を扱う多項ロジットモデルについて学習します。
19	多項ロジットモデル (2)	条件付ロジットモデル・混合ロジットモデルを学習します。
20	クラスター分析 (1)	データを分類するためのクラスター分析について学びます。特に、階層クラスター分析について学習します。
21	クラスター分析 (2)	非階層クラスター分析について学習します。
22	因子分析 (1)	観測データの背後にある共通因子を抽出するための因子分析について学びます。また、探索的因子分析と確認的因子分析について学習します。
23	因子分析 (2)	因子回転や推定法について学びます。
24	因子分析 (3)	主成分分析について学びます。また、因子分析と主成分分析の違いについて学びます。
25	共分散構造分析 (1)	パス解析について学習します。また、複数の構成概念間の関係を分析する共分散構造分析について学習します。
26	共分散構造分析 (2)	共分散構造分析の推定法やモデル評価などについて学習します。
27	共分散構造分析 (3)	多母集団同時分析について学習します。
28	まとめ	秋学期に扱った内容を復習します。また、発展トピックについて紹介します。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内に出題した演習課題をレポートとして提出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

- ・本橋永至 (2015) 「R で学ぶ統計データ分析」 オーム社.
- ・里村卓也 (2014) 「マーケティング・データ分析の基礎」 共立出版.

#### 【参考書】

- ・金明哲 (2017) 「R によるデータサイエンス -データ解析の基礎から最新手法まで 第 2 版」 森北出版.
- ・豊田秀樹 (2012) 「因子分析入門」 東京図書.
- ・豊田秀樹 (2014) 「共分散構造分析 [R 編]」 東京図書.

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・宿題および演習レポート (40 %)
- ・期末レポート (60 %)

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

各自、ノートパソコンを持参して下さい。なお、この授業ではフリーの統計ソフトである R を使用します。

#### 【その他の重要事項】

実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

#### 【Outline and objectives】

Recently, the data environment called "big data" has been improved, the word "data scientist" has been penetrated. Here, the need to deal with statistical and data analysis is growing very much in business. Also, in order to properly make decisions in business situations, it is necessary to judge objectively based on statistical theory and data, and for that purpose knowledge of statistics is necessary. This lecture aims to learn the basic theory of Statistics and empirical analysis methods and to apply it to management fields, especially marketing and business. The first half of the course focuses on the basics of Statistics, while the second half focuses on statistical modeling and multivariate analysis. Also, practical skill is acquired by performing actual data analysis using free statistical software R.

MAN500F1 - 0122

## 外国語経営学特殊講義 1

ジョナサン・エイブル

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Managerial Communication for International Business.

This course aims to provide professionals with the tools they need to communicate in English in a variety of real life environments. The focus will be on communication and therefore speaking and listening are the core skills.

## 【到達目標】

This course aims to promote confident practical use of English in a Business Environment.

Environments explored will include up and down chain of command communication, dealing with visitors, problem solving in a team and dealing with foreign clients at home and abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

Effective English language communication has become an essential tool in the global business environment. This course will lead students in maximizing their English skills for business situations.

The emphasis is on practice and confidence-building through personal and interpersonal communication.

Argument, decision making and critical thinking in business situations form the core of the classes, which will focus on student-led activities with the instructor as facilitator. Activities will include presentation, practice meetings, debates and discussions. There will be a modicum of written assignment.

All classes are conducted in English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and general overview	Orientation and first exercises
Week 2	Getting to know you	Greetings and goodbyes.
Week 3	Socialising 1	Making small talk.
Week 4	Socialising 2	Manners, etiquette and food.
Week 5	Presentation 1	Individual presentations to introduce yourself.
Week 6	Transport	How to get around foreign countries.
Week 7	Travel	Destinations and describing places.
Week 8	Presentation 2	Small group presentations to practise cooperation and structure.
Week 9	Corporate language.	Interpreting and eliminating 'jargon'.
Week 10	Company vocabulary.	Understanding different corporate structures.
Week 11	Instructions.	Getting people to do what you want.

Week 12	Presentation 3	Group presentations on themes at from work done so far.
Week 13	Review.	Discussion of problem areas and resolution.
Week 14	Final assessment.	Self-assessment and interview exercises.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Occasional preparation. Work will mainly be confined to class time. There will be two pieces of written work.

## 【テキスト（教科書）】

No specific text book as materials will be provided in the class.

## 【参考書】

Various online services will be used including BBC, TED and Lingiahouse.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance is mandatory in this group-dynamic oriented classroom environment.

Continuous assessment by the instructor is key.

Participation and attitude 60%

Reports 20%

Final self-assessment and interview 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

N/A

## 【Outline and objectives】

Managerial Communication for International Business.

This course aims to provide professionals with the tools they need to communicate in English in a variety of real life environments. The focus will be on communication and therefore speaking and listening are the core skills.

MAN500F1 - 0123

## 外国語経営学特殊講義 2

ジョナサン・エイブル

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Managerial Communication for International Business.

In the second part of this course we will focus on the language and structure of Business and Companies. Through constant discussion and exchange in the classroom we will de-mystify the means of communication employed in international companies and business environments.

## 【到達目標】

The aim of this class is to make clear the various elements of business communication that can cause difficulty when working internationally.

It is also important to be able to express our own working practices for our overseas clients and colleagues.

Self-expression with confidence is the key to this, and our goal in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

Effective English language communication has become an essential tool in the global business environment. This course will lead students in maximizing their English skills for business situations.

The emphasis is on practice and confidence-building through personal and interpersonal communication.

Argument, decision making and critical thinking in business situations form the core of the classes, which will focus on student-led activities with the instructor as facilitator. Activities will include presentation, practice meetings, debates and discussions. There will be a modicum of written assignment.

All classes are conducted in English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to Part Two	Introducing materials and planning.
Week 2	Jobs 1	Describing duties and responsibilities.
Week 3	Jobs 2	Applications and interviews.
Week 4	Companies 1	Corporate structures.
Week 5	Companies 2	Examining individual companies.
Week 6	Presentation 1	Your company. Presenting fictitious companies to the public.
Week 7	Meetings 1.	Vocabulary and structure.
Week 8	Meetings 2.	Practical exercises.
Week 9	Negotiations.	Bargaining and the structure of a negotiation.
Week 10	Marketing.	The language of selling.
Week 11	Advertising,	The power of persuasive English.

Week 12 Presentation 2. A marketing campaign.

Week 13 Review Discussion and resolution of issues arising from the class.

Week 14 Final assessment. Self-assessments and interviews.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Occasional preparation. There will be 2 pieces of written work.

## 【テキスト（教科書）】

No specific text book as materials will be provided in the class.

## 【参考書】

arious online services will be used including BBC, TED and Lingiahouse.

## 【成績評価の方法と基準】

Attendance is mandatory in this group-dynamic oriented classroom environment.

Continuous assessment by the instructor is key.

Participation and attitude 60%

Reports 20%

Final self-assessment and interview 20%

## 【学生の意見等からの気づき】

N/A

## 【Outline and objectives】

Managerial Communication for International Business.

In the second part of this course we will focus on the language and structure of Business and Companies. Through constant discussion and exchange in the classroom we will de-mystify the means of communication employed in international companies and business environments.

MAN700F1 - 0001

## 博士演習 I A

## 経営学専攻 専任教員

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習 I A では、博士コースワークショップ I（ステップ1）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの3段階の各ステップ水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習 I A では、博士コースワークショップ I（ステップ1）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップ I（ステップ1）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告

第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、(博士論文を構成する1章に相当する)論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、(博士論文を構成する1章に相当する)論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けて、各自で計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of a paper at a conference and/or posting to peer-reviewed academic journals if instructed.

MAN700F1 - 0002

## 博士演習 I B

## 経営学専攻 専任教員

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習 I B では、博士コースワークショップ I（ステップ1）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの3段階の各ステップ水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習 I B では、博士コースワークショップ I（ステップ1）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップ I（ステップ1）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。授業形式（対面、オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第3回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第4回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第5回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第6回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第7回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第8回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第9回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告

第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、(博士論文を構成する1章に相当する)論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、(博士論文を構成する1章に相当する)論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けて、各自で計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of a paper at a conference and/or posting to peer-reviewed academic journals if instructed.

MAN700F1 - 0003

## 博士演習ⅡA

西川 英彦

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ2）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

ただし、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習ⅠAのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡAでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ2）で求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも1章分）に該当する研究」を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

ステップ1で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告

第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to conduct academic conference presentations and to post to peer-reviewed academic journals.

MAN700F1 - 0004

## 博士演習ⅡB

西川 英彦

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ2）のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

ただし、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習ⅠBのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ2）で求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも1章分）」に該当する研究」を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

ステップ1で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告

第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to conduct academic conference presentations and to post to peer-reviewed academic journals.

MAN700F1 - 0003

## 博士演習Ⅱ A

安藤 直紀

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅱ Aでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ2）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

ただし、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅱ Aでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ2）で求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも1章分）に該当する研究」を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

ステップ1で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告

第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to conduct academic conference presentations and to post to peer-reviewed academic journals.

MAN700F1 - 0004

## 博士演習ⅡB

安藤 直紀

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ2）のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

ただし、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習ⅠBのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ2）で求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも1章分）」に該当する研究」を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

ステップ1で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも1章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ2のクリアに求められる水準を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第3回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第4回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第5回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第6回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告

第7回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第8回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも1章）の報告
第9回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to conduct academic conference presentations and to post to peer-reviewed academic journals.

MAN700F1 - 0005

## 博士演習Ⅲ A

西川 英彦

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける

第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral thesis should include one or more peer-reviewed publications (or papers to be published). You should submit the certificate showing that you are a principal author when the publication is a co-authored paper.

MAN700F1 - 0006

## 博士演習Ⅲ B

西川 英彦

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Bのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Bのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成の提示と主要な章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける

第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral thesis should include one or more peer-reviewed publications (or papers to be published). You should submit the certificate showing that you are a principal author among co-authors when the publication is a co-authored paper.

MAN700F1 - 0005

**博士演習Ⅲ A**

田路 則子

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

**【到達目標】**

博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける

第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価の方法と基準】**

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

**【学生が準備すべき機器他】**

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

**【Outline and objectives】**

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral thesis should include one or more peer-reviewed publications (or papers to be published). You should submit the certificate showing that you are a principal author when the publication is a co-authored paper.

MAN700F1 - 0006

## 博士演習Ⅲ B

田路 則子

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Bのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Bのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成の提示と主要な章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける

第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral thesis should include one or more peer-reviewed publications (or papers to be published). You should submit the certificate showing that you are a principal author among co-authors when the publication is a co-authored paper.

MAN700F1 - 0005

## 博士演習Ⅲ A

横内 正雄

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける

第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral thesis should include one or more peer-reviewed publications (or papers to be published). You should submit the certificate showing that you are a principal author when the publication is a co-authored paper.

MAN700F1 - 0006

## 博士演習Ⅲ B

横内 正雄

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Bのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Bのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成の提示と主要な章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける

第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral thesis should include one or more peer-reviewed publications (or papers to be published). You should submit the certificate showing that you are a principal author among co-authors when the publication is a co-authored paper.

MAN700F1 - 0005

## 博士演習Ⅲ A

## 金 容 度

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。  
博士演習Ⅲ A では、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

## 【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構想の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構想と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

輪読や報告に対しての、教員による質疑および助言、批判、評価を通して、質の高い博士論文執筆に向けての高度な専門知識を身につけることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構想の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構想の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構想の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第3回	全体構想の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第4回	全体構想の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構想について報告
第5回	主要章の報告①	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構想に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告

第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

## 【Outline and objectives】

The objective of Doctoral Seminar III A is to pass the step 3 of doctoral course by completing whole framework and primary chapters of doctoral dissertation.

MAN700F1 - 0006

**博士演習Ⅲ B****金 容度**

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップに基づき、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、各ステップで承認された内容に基づいて完成された博士論文をもとに学位申請を行い、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

**【到達目標】**

博士論文の審査小委員会での修正意見をもとに、博士論文を改善し、修正博士論文を提出する。もちろん、修正意見が全くない場合は、修正は不要である。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

博士論文をもとに学位申請を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、審査小委員会の審査・試験の準備を行う。さらに、審査小委員会の修正意見をもとに、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士論文を改善し、修正博士論文を提出し、学位取得を目指す。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	学位申請	博士論文をもとに、学位申請を行う
第2回	審査小委員会の審査、試験の準備①	審査及び試験のための準備を行う
第3回	審査小委員会の審査、試験の準備②	審査及び試験のための準備を行う
第4回	審査小委員会の審査、試験の準備③	審査及び試験のための準備を行う
第5回	審査小委員会の審査、試験の準備④	審査及び試験のための準備を行う
第6回	博士論文の修正①	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第7回	博士論文の修正②	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第8回	博士論文の修正③	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第9回	博士論文の修正④	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第10回	博士論文の修正⑤	修正方針に基づき、博士論文の修正を行う
第11回	修正博士論文の確認①	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う
第12回	修正博士論文の確認②	修正博士論文の提出前の詳細な確認を行う

第13回 修正博士論文の最終確認 修正博士論文の提出前の詳細な最終確認を行う

第14回 修正博士論文の提出 修正意見をもとにした修正博士論文を提出する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

博士論文の完成を目指して、博士論文の執筆を行う。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価の方法と基準】**

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢などを総合的に勘案して評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

『博士コースワークショップ』授業との連携を高める。

**【Outline and objectives】**

The objective of Doctoral Seminar Ⅲ B is to pass the step 3 of doctoral course by completing whole framework and primary chapters of doctoral dissertation.

MAN700F1 - 0005

## 博士演習Ⅲ A

新倉 貴士

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構成の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構成と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

授業形式はオンラインを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導を受ける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導を受ける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導を受ける

第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0006

## 博士演習Ⅲ B

新倉 貴士

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構成の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構成と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。

授業形式はオンラインを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導を受ける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導を受ける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導を受ける

第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0005

## 博士演習Ⅲ A

長岡 健

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける

第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral thesis should include one or more peer-reviewed publications (or papers to be published). You should submit the certificate showing that you are a principal author when the publication is a co-authored paper.

MAN700F1 - 0006

## 博士演習Ⅲ B

長岡 健

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Bのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Bのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成の提示と主要な章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける

第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral thesis should include one or more peer-reviewed publications (or papers to be published). You should submit the certificate showing that you are a principal author among co-authors when the publication is a co-authored paper.

MAN700F1 - 0005

**博士演習Ⅲ A****金 瑠晋**

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

**【到達目標】**

博士コースのステップ3のクリアに「全体構成の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構成と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告

第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価の方法と基準】**

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

**【学生が準備すべき機器他】**

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

**【Outline and objectives】**

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0006

## 博士演習Ⅲ B

金 瑠晋

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースでの3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士コースのステップ3のクリアに「全体構成の提示と主要章（論文）」で求められる、博士論文全体構成と、博士論文を構成する主要章となる論文を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースのステップ3のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告

第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 - 0005

## 博士演習Ⅲ A

横山 斉理

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Aでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Aのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Aのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける

第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral thesis should include one or more peer-reviewed publications (or papers to be published). You should submit the certificate showing that you are a principal author when the publication is a co-authored paper.

MAN700F1 - 0006

## 博士演習Ⅲ B

横山 斉理

実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ3段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習Ⅲ Bでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ1をクリアしていない場合は、博士演習Ⅰ Bのシラバスの内容を、ステップ2をクリアしていない場合は、博士演習Ⅱ Bのシラバスの内容を実施する。

## 【到達目標】

博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

## 【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ3）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成の提示と主要な章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第2回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第3回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第4回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第5回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第6回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第7回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第8回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第9回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける

第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

## 【テキスト（教科書）】

特になし。

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

## 【Outline and objectives】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students should be also required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral thesis should include one or more peer-reviewed publications (or papers to be published). You should submit the certificate showing that you are a principal author among co-authors when the publication is a co-authored paper.

MAN700F1 - 0007

**博士コースワークショップ I A**

経営学専攻 専任教員

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップ I A では、中間報告会での報告内容が、ステップ1のクリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

**【到達目標】**

博士論文のステップ1をクリアできる「研究計画書」の水準として、主要先行論文のサーベイに基づく論点の開示、研究方法、博士論文の構成（章立て）、論文作成スケジュールの提示を含むプロポーザル文書の提出と、それに基づいた報告が求められる。

指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生等からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員による批判や助言をもらい、報告会参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生も研究科長の許可を得て参加することができる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第3回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第4回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける

第6回 博士コース中間報告会 ①  
博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日に開催予定である。

第7回 博士コース中間報告会 ②  
博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日に開催予定である。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価の方法と基準】**

中間報告会での提出論文、報告内容、および質疑応答などをもとに、指導教員、副指導教員、および研究科長が評価し、その結果は専攻教授会での審議を経て決定される。A-評価以上の修得者は、ステップ1をクリアすることとなり、博士コースワークショップII AあるいはII Bが履修可能となる。なお、博士コースワークショップI Aに合格した場合、博士コースワークショップI Bの履修は不要となる。

**【学生の意見等からの気づき】**

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

**【その他の重要事項】**

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

**【Outline and objectives】**

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and make presentation at the colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

MAN700F1 - 0008

**博士コースワークショップ I B****経営学専攻 専任教員**

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップ I Bでは、中間報告会での報告内容が、ステップ1のクリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

**【到達目標】**

博士論文のステップ1をクリアできる「研究計画書」の水準として、主要先行論文のサーベイに基づく論点の開示、研究方法、博士論文の構成（章立て）、論文作成スケジュールの提示を含むプロポーザル文書の提出と、それに基づいた報告が求められる。

指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生等からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができると。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員による批判や助言をもらい、報告会参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生も研究科長の許可を得て参加することができる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第3回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第4回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける

第6回 博士コース中間報告会 ① 博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している

第7回 博士コース中間報告会 ② 博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価の方法と基準】**

中間報告会での提出論文、報告内容、および質疑応答などをもとに、指導教員、副指導教員、および研究科長が評価し、その結果は専攻教授会での審議を経て決定される。A-評価以上の修得者は、ステップ1をクリアすることとなり、博士コースワークショップII AあるいはII Bが履修可能となる。

**【学生の意見等からの気づき】**

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

**【その他の重要事項】**

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

**【Outline and objectives】**

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and make presentation at the colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

MAN700F1 - 0009

**博士コースワークショップⅡ A**

経営学専攻 専任教員

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会での報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数教員からの批判、助言、質問等を受けられる良い機会であると同時に、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅡ Aでは、中間報告会での報告が、ステップ2のクリアに求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも1章分）に該当する研究」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

**【到達目標】**

博士論文のステップ2となる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも1章分）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生等からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けた有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生、研究生は、研究科長の許可を得たうえで参加することができる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第4回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する

第6回 博士コース中間報告会①  
博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。

第7回 博士コース中間報告会②  
博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づいて報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価の方法と基準】**

中間報告会での提出論文、報告内容、および質疑応答などをもとに、指導教員、副指導教員、および研究科長が評価し、結果については専攻教授会の審議を経て決定される。A-評価以上の修得者は、ステップ2をクリアすることとなり、博士コースワークショップⅢ AあるいはⅢ Bが履修可能となる。なお、博士コースワークショップⅡ Aの単位を取得した場合、博士コースワークショップⅡ Bの履修は不要となる。

**【学生の意見等からの気づき】**

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

**【その他の重要事項】**

博士コースワークショップⅠ AまたはⅠ Bにおいて、A-評価以上の修得者のみ、履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

**【Outline and objectives】**

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and make presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

MAN700F1 - 0010

**博士コースワークショップⅡB**

経営学専攻 専任教員

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会での報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数教員からの批判、助言、質問等を受けられる良い機会であると同時に、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅡBでは、中間報告会での報告が、ステップ2のクリアに求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも1章分）に該当する研究」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

**【到達目標】**

博士論文のステップ2となる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも1章分）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生等からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けた有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生、研究生は、研究科長の許可を得たうえで参加することができる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第2回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第3回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第4回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第5回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する

第6回	博士コース中間報告会①	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づいて報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価の方法と基準】**

中間報告会での提出論文、報告内容、および質疑応答などをもとに、指導教員、副指導教員、および研究科長が評価し、結果については専攻教授会の審議を経て決定される。A-評価以上の修得者は、ステップ2をクリアすることとなり、博士コースワークショップⅢAあるいはⅢBが履修可能となる。

**【学生の意見等からの気づき】**

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

**【その他の重要事項】**

博士コースワークショップⅠAまたはⅠBにおいて、A-評価以上の修得者のみ、履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

**【Outline and objectives】**

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and make presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

MAN700F1 - 0011

**博士コースワークショップⅢA****経営学専攻 専任教員**

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員からの指導、助言、あるいは批判や疑問を受けることができる機会であると同時に、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅢAでは、中間報告会での報告で、ステップ3のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

**【到達目標】**

博士論文のステップ3となる「博士論文の全体構想と主要な部分（章）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会に参加した複数の教員あるいは博士課程大学院生等との質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に至るまでの中間的な成果を中間報告会で発表し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生は研究科長の許可を得て参加することができる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	博士論文全体構成の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第3回	博士論文全体構成の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第4回	主要章の報告①	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する

第5回	主要章の報告②	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、7月第1土曜日を予定している。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価の方法と基準】**

中間報告会での提出論文および報告内容、質疑応答などをもとに、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、その結果は研究科教授会で審議・決定される。A-評価以上の修得者は、ステップ3をパスしたことになり、博士論文を提出することが可能となる。博士コースワークショップⅢAをパスした場合、博士コースワークショップⅢBの履修は不要となる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生は研究科長の許可を得て参加できる。

**【学生の意見等からの気づき】**

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

**【その他の重要事項】**

博士コースワークショップⅡAまたはⅡBにおいて、A-評価以上の修得者のみが履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

**【Outline and objectives】**

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and hold a presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

MAN700F1 - 0012

**博士コースワークショップⅢ B****経営学専攻 専任教員**

実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された3段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員からの指導、助言、あるいは批判や疑問を受けることができる機会であると同時に、博士課程大学院生が互いの研究の技法や情報を共有する中で、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅢ Bでは、中間報告会での報告で、ステップ3のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

**【到達目標】**

博士論文のステップ3となる「博士論文の全体構想と主要な部分（章）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会に参加した複数の教員あるいは博士課程大学院生等との質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を1本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

**【授業の進め方と方法】**

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に至るまでの中間的な成果を中間報告会で発表し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生は研究科長の許可を得て参加することができる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第2回	博士論文全体構成の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第3回	博士論文全体構成の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第4回	主要章の報告①	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する

第5回	主要章の報告②	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第6回	博士コース中間報告会①	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。
第7回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12月第3土曜日を予定している。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価の方法と基準】**

中間報告会での提出論文および報告内容、質疑応答などをもとに、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、その結果は研究科教授会で審議・決定される。A-評価以上の修得者は、ステップ3に合格したことになり、博士論文を提出することが可能となる。なお博士コースワークショップⅢ Aに合格した場合は、博士コースワークショップⅢ Bの履修は不要である。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生は研究科長の許可を得れば参加することができる。

**【学生の意見等からの気づき】**

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

**【その他の重要事項】**

博士コースワークショップⅡ AまたはⅡ Bにおいて、A-評価以上の修得者（ステップ2の合格者）のみが履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

**【Outline and objectives】**

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and hold a presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.